SystemGear

All Products For Build Up System

AppliBuilder

Ver.1.01

取扱説明書

日本システム開発株式会社

目　　次

1 はじめに 3

2 システム構成 4

3 開発手順 5

4 AppliBuilder をインストールする 6
4.1 インストール 6
4.2 アンインストール 6

5 AppliBuilder を起動する 7

6 パラメータ解析ソフトウェアを送信する 9
6.1 ＰＣからパラメータ解析ソフトウェアを送信する 9
6.2 ターミナルでパラメータ解析ソフトウェアを受信する 11

7 基本設定を行う 13
7.1 メニュー構成の設定 13
7.2 ファイルの新規作成 16
7.3 既存ファイルを開く 16
7.4 上書き保存 17
7.5 名前を付けて保存 17

8 アプリケーション設定を行う 18

9 マスタファイル設定を行う 21
9.1 マスタファイルの設定 21
9.2 マスタファイルの編集 24
9.2.1 新規にデータを登録する場合 28
9.2.2 既存のマスタファイルをターミナル用に変換・編集する場合 28
9.2.3 マスタファイル編集画面 29
9.2.4 フィールド設定画面 31
9.2.5 マスタファイル変換画面 33

10 パラメータファイルを設定する 35
10.1 項目設定画面 35
10.1.1 「画面更新」項目の設定 38
10.1.2 「単純入力」項目の設定 39
10.1.3 「ﾁｪｯｸ付入力」項目の設定 42
10.1.4 「ﾏｽﾀ検索」項目の設定 44
10.1.5 「ｼﾞｬﾝﾌﾟ」項目の設定 46
10.1.6 末尾項目の設定 47

11 アクション設定を行う 48

12 パラメータファイルを送信する 49

12.1 ＰＣからパラメータファイルを送信する 49
12.2 ターミナルでパラメータファイルを受信する 50
12.2.1 設定パラメータ受信 50
12.2.2 設定パラメータ論理チェック 52
13 マスタファイルを送信する 53
13.1 ＰＣからマスタファイルを送信する 53
13.1.1 RS-232C による転送（イージーモード） 53
13.1.2 RS-232C による転送（リモートモード） 54
13.1.3 LAN による転送 56
13.2 ターミナルでマスタファイルを受信する 57
14 ターミナルを起動する 59
15 ターミナルを操作する 60
15.1 起動画面 60
15.2 メニュー画面 60
15.3 メニュー選択 61
15.3.1 ターミナルＩＤ設定 61
15.3.2 システム日付・時間設定 62
15.3.3 各バージョン表示 62
15.3.4 通信速度設定 63
15.3.5 ファイルシステム表示 63
15.3.6 コントラスト調整 64
15.4 業務入力機能 65
15.4.1 ファンクションキー機能（入力モード） 65
15.4.2 ファンクションキー機能（参照モード） 73
15.5 蓄積データファイルフォーマット 76
15.5.1 CSV 形式 76
15.5.2 固定長形式 76
16 蓄積データを受信する 77
16.1 ＰＣで蓄積データを受信する 77
16.1.1 RS-232C による転送 77
16.1.2 LAN による転送 78
16.2 ターミナルから蓄積データを送信する 79
17 蓄積データを削除する 81
18 ターミナルの電源を落とす 82
19 注意事項 83
19.1 注意事項 83
19.2 エラー詳細 86
20 困ったときは 90

1 はじめに

AppliBuilder（以下、本アプリケーションと称す）は、MET-1000（以下、ターミナルと称す）の入力データ・画面表示などの各種パラメータをパソコン（以下、PC と称す）上で設定するアプリケーションです。自由度の高い設定メニューを用意していますので、どのような業務への展開も図れます。また、ターミナルアプリケーションの開発を容易でスピーディーに行うことができます。
本書は、本アプリケーションの説明について記述したものです。

本アプリケーションは次の環境でご使用いただけます。

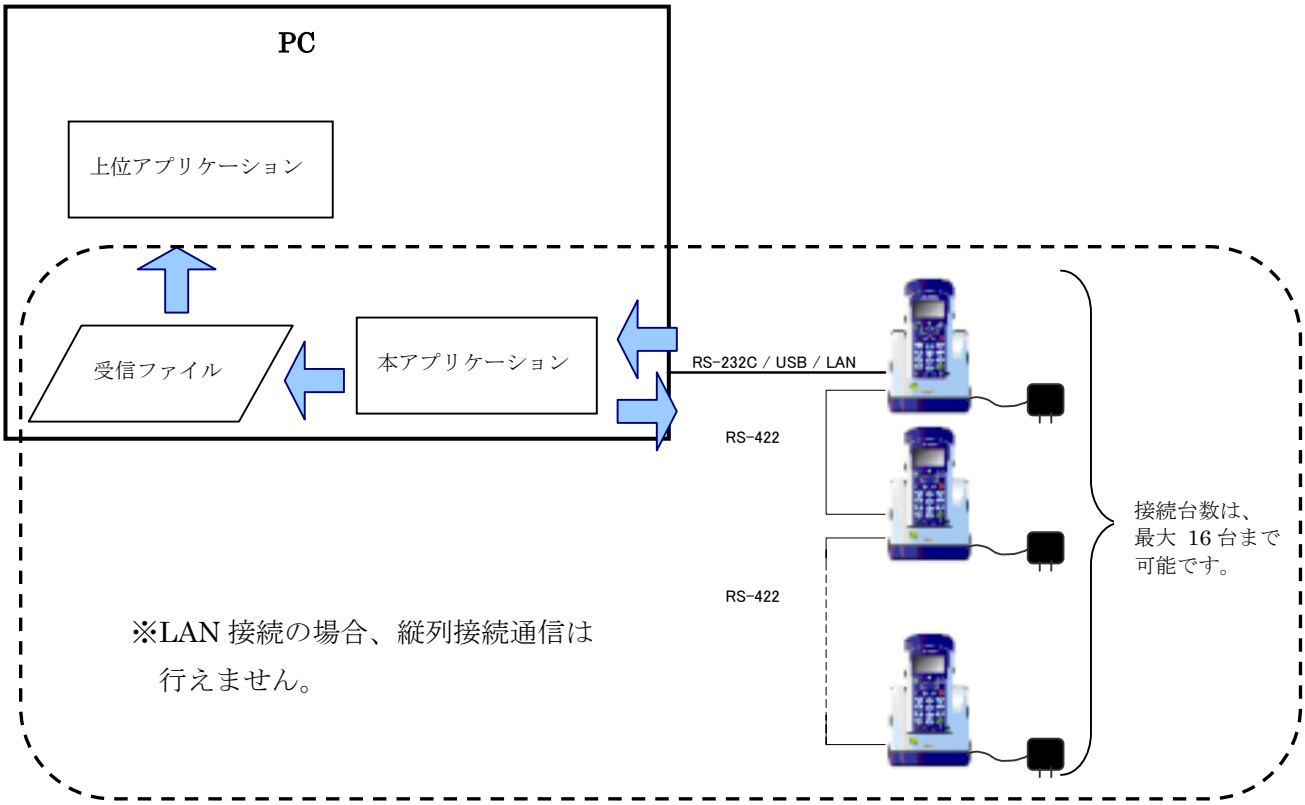
対応 OS	Windows 98SE Windows NT4.0　ServicePack6a 以上 Windows 2000　ServicePack2 以上 Windows Me Windows XP
推奨環境	CPU　PentiumⅡ233MHz 以上
メモリ	128MB 以上
画面解像度	1024×768 ピクセル以上
対応機種	MCD1000 MCD1000L

※ WindowsNT に関して USB は未対応のため、RS-232C のみとなります。

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

2 システム構成

本アプリケーションのシステム構成を示します。ターミナルは 1～127 の範囲で ID を持つことができます。
上位アプリケーションとの連動は本アプリケーションのアクション設定により可能です。
PCを光通信ユニットと接続します。正しくセットされると光通信ユニットの緑色のランプが点灯します。



事例

発注、棚卸などの店舗管理システムに

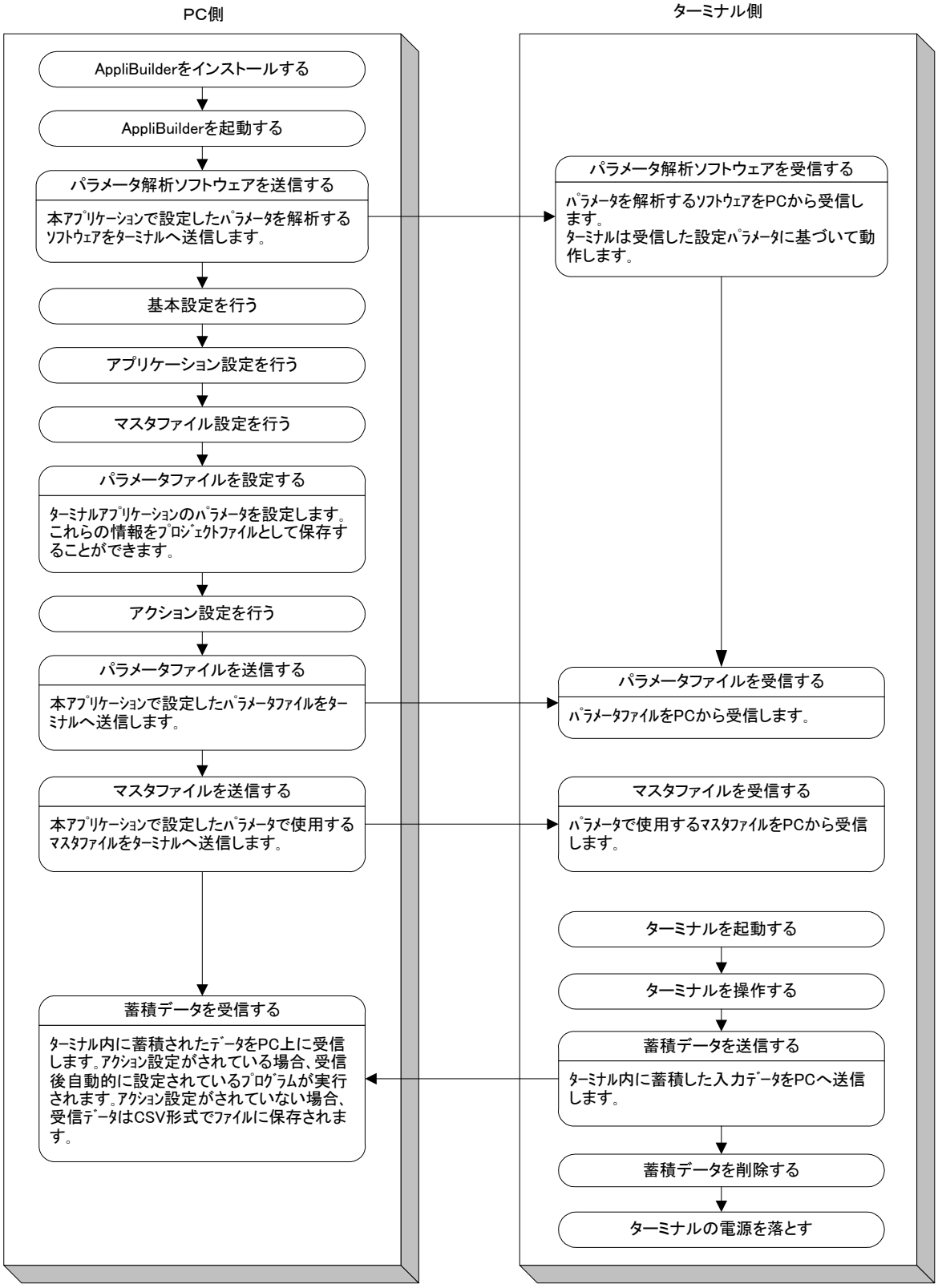
集荷、検品などの物流管理システムに

投薬などの院内管理システムに

注意！！

- USB接続の場合、光通信ユニットに付属しているUSBドライバーがインストールされていることが前提となります。
- USB接続の場合も、ケーブルの抜差しは絶対にしないでください。

3 開発手順



※　パラメータ解析ソフトウェア及びパラメータファイルの送信は、RS-232C／USB 接続に行ってください。

4 AppliBuilder をインストールする

4.1 インストール

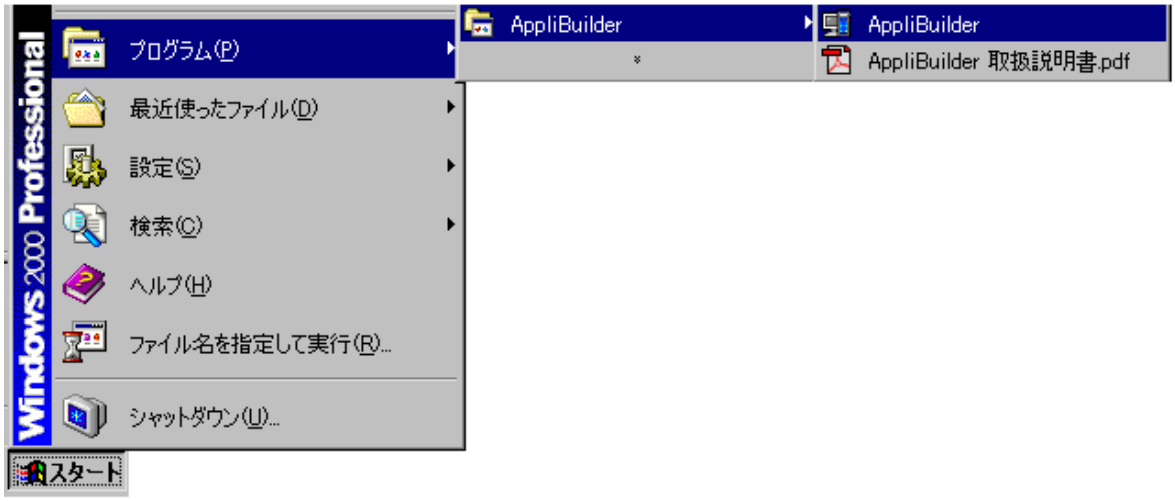
①本アプリケーションの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
②インストールウィザードが自動的に起動されますので、画面に表示される指示にしたがってインストールを行ってください。
（自動的に起動しない場合は、『アプリケーションの追加と削除』から起動、もしくはエクスプローラで CD 内の「Setup.exe」を実行して起動してください。）

4.2 アンインストール

『アプリケーションの追加と削除』からアンインストールを行ってください。
※ファイルやフォルダが一部残る場合があります。その場合は、手動で削除をしてください。

5 AppliBuilder を起動する

「スタート」→「プログラム(P)」→「AppliBuilder」→「AppliBuilder」をクリックして、本アプリケーションを起動します。



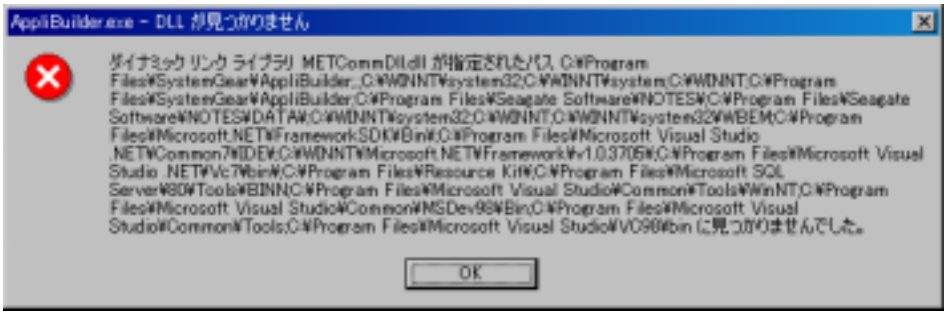
通信 DLL のバージョンが異なる場合には、以下のメッセージが表示され、本アプリケーションは起動しません。

本アプリケーションをアンインストールして、再度インストールしてください

もしくは、

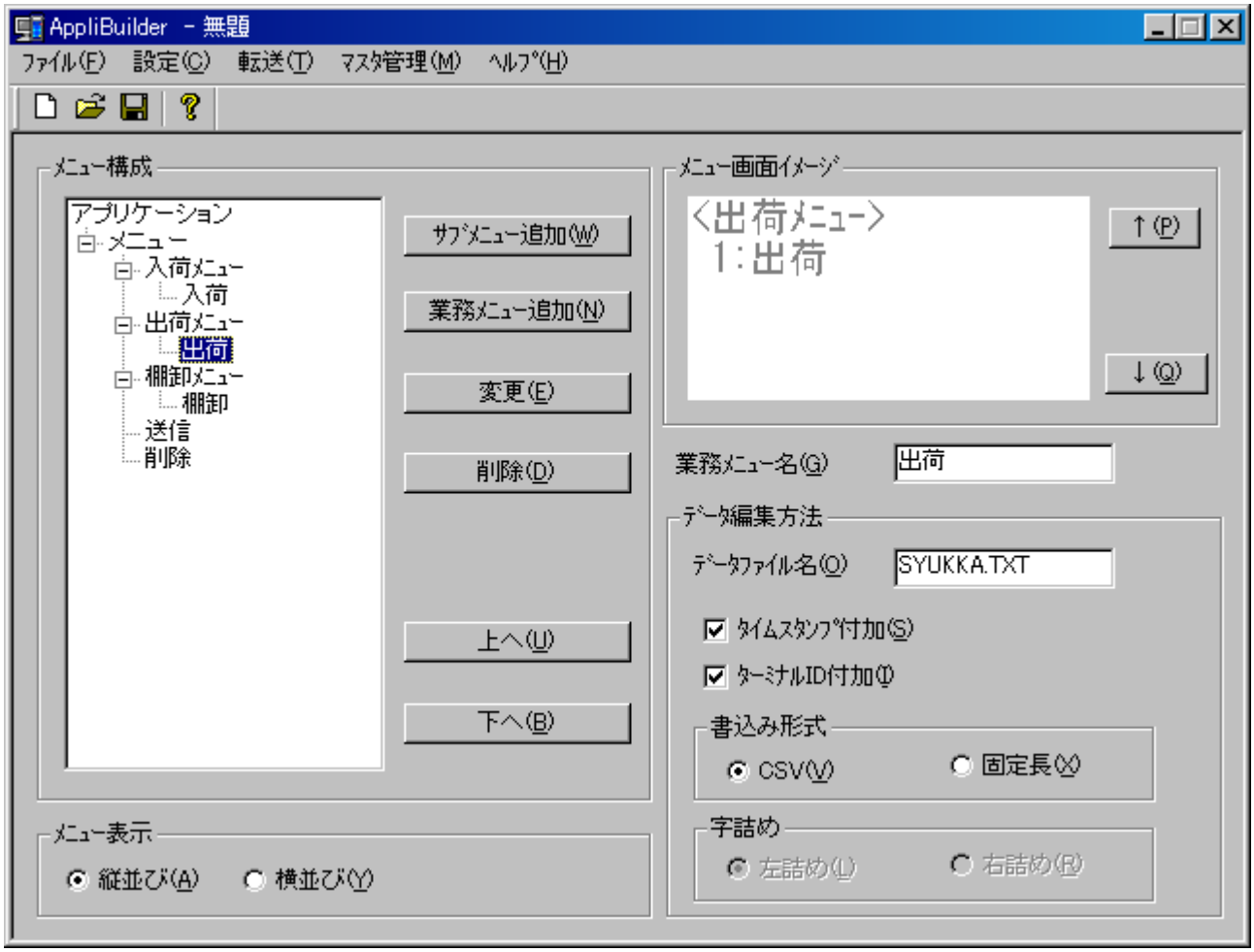
通信 DLL が見つからない場合は、以下のメッセージが表示され、本アプリケーションは起動しません。

本アプリケーションをアンインストールして、再度インストールしてください。



※上記のメッセージは OS によって異なる場合があります。

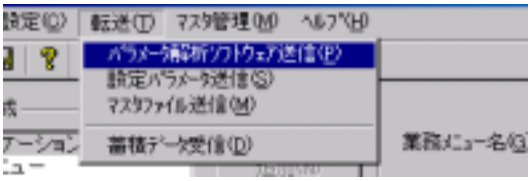
本アプリケーションを起動すると以下のメイン画面が表示されます。



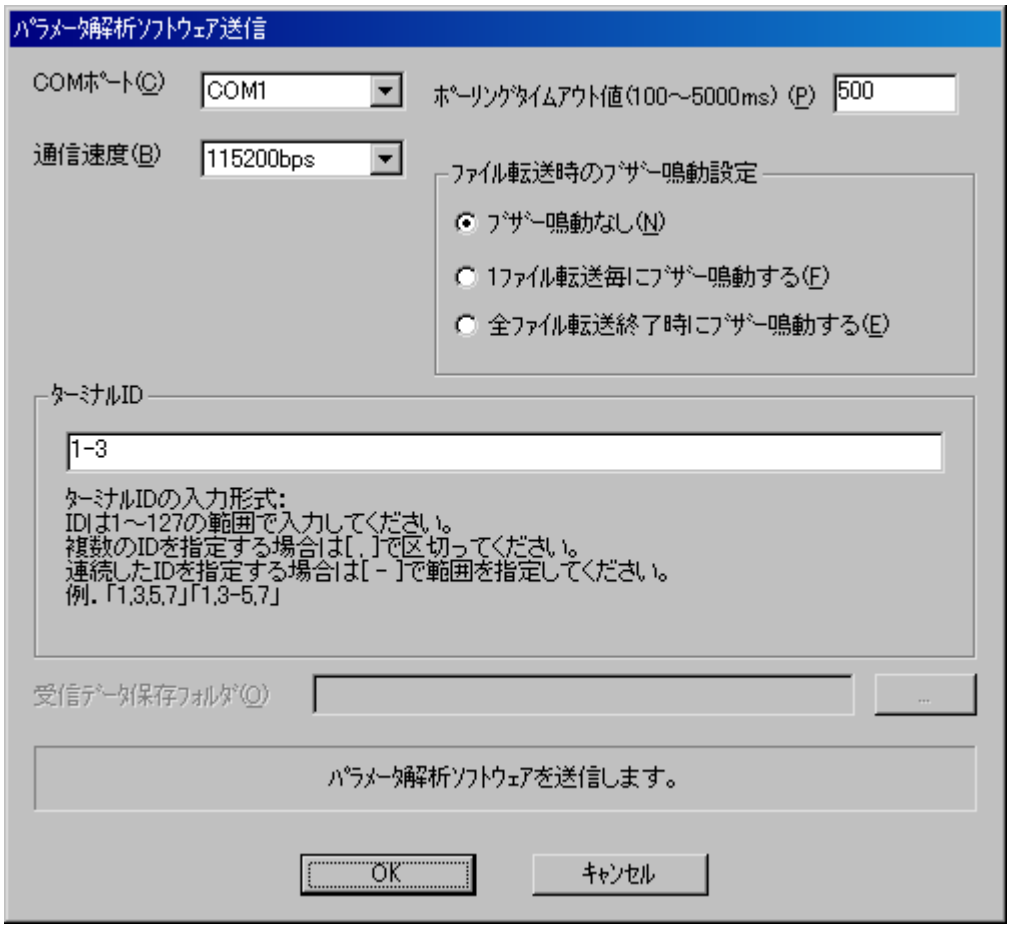
6 パラメータ解析ソフトウェアを送信する

6.1 PCからパラメータ解析ソフトウェアを送信する

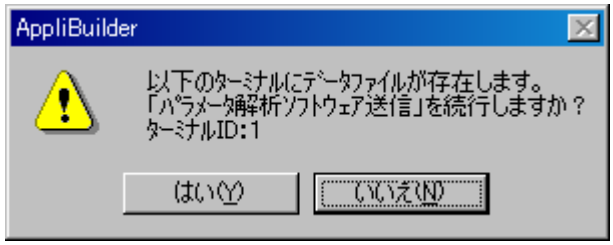
メイン画面で「転送(T)」メニューの「ﾊﾟﾗﾒｰﾀ解析ｿﾌﾄｳｪｱ送信(P)」を選択します。



以下のようなパラメータ解析ソフトウェア送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。



「OK」ボタンクリック後、指定されたターミナルにデータファイルが存在するかをチェックし、1つ以上のターミナルにデータファイルが存在した場合は、以下の確認メッセージを表示します。

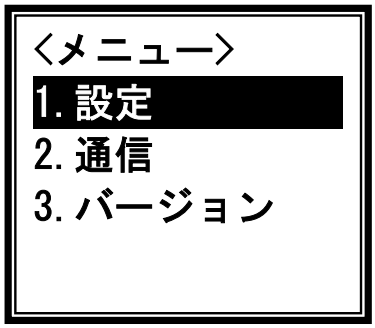


「はい」がクリックされると、転送処理が開始されます。
「いいえ」がクリックされると、転送処理は中止されます。

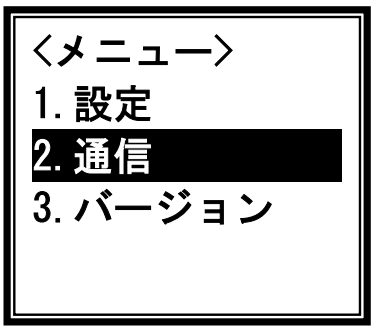
データファイルがターミナルに存在しない場合は、転送処理が開始されます。

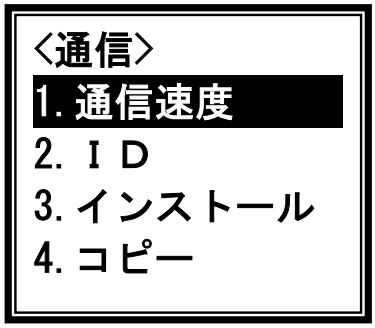
6.2 ターミナルでパラメータ解析ソフトウェアを受信する

ターミナルの電源 OFF の状態から、[1] +[F1]+ [PW]キーを押下することにより、環境設定メニューを表示します。アプリケーションがインストールされていない場合は、[PW]キーを押すことにより、環境設定メニューを表示します。

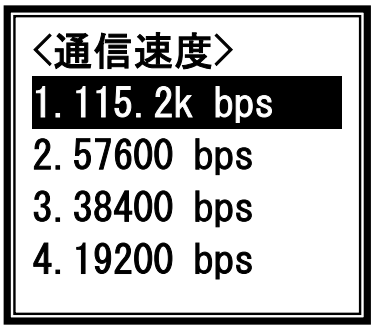


環境設定メニューで[2]キーを押下することにより、通信メニューを表示します。



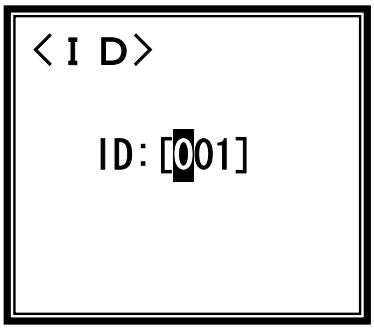


通信メニューで[1]キーを押下することにより、通信速度設定画面を表示しますので、設定したい通信速度を選択します。



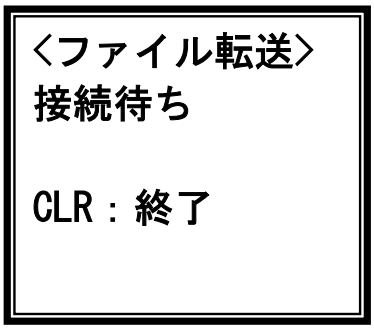
通信速度を選択すると、通信メニューに戻ります。
※光通信ユニットの出荷時設定は、115.2K bps です。

通信メニューで[2]キーを押下することにより、ターミナルID設定画面を表示しますので、設定したいIDを数字キーで入力します。001～127 までの数字を入力できます。



[TRG]キーを押下することにより、ターミナルIDが設定され通信メニューに戻ります。

通信メニューで[5]キーを押下することにより、ファイル転送画面を表示します。

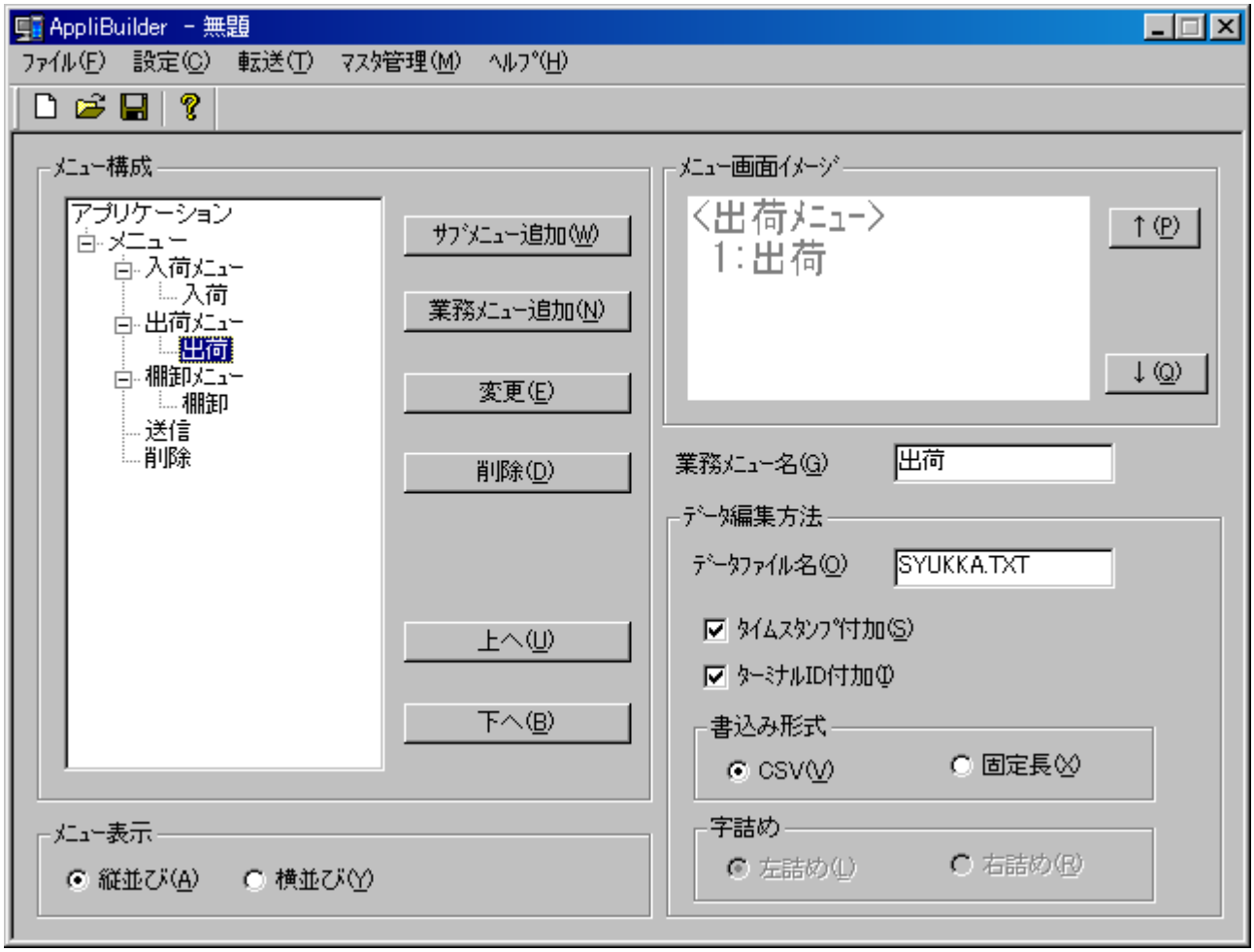


この画面が表示されたら、ターミナルを光通信ユニットにセットします。
正しくセットされると光通信ユニットの緑色のランプが点灯しますので、PC側でパラメータ解析ソフトウェア送信の操作を行ってください。PC側と接続すると、転送を開始します。
転送が終了したら、ターミナルを再起動してください。再起動すると、パラメータ解析ソフトウェアが起動します。

7 基本設定を行う

7.1 メニュー構成の設定

本アプリケーションを起動すると以下のメイン画面が表示されます。



メイン画面ではターミナルアプリケーションの業務メニュー構成やデータ編集方法の設定、ファイル操作を行います。

「ﾒﾆｭｰ構成」: メニュー構成を設定します。業務メニューの登録や削除の操作は「ｻﾌﾞﾒﾆｭｰ追加」、「業務ﾒﾆｭｰ追加」、「変更」、「削除」ボタンを、業務メニューの順番の操作は「上へ」、「下へ」ボタンをクリックして行います。
デフォルトメニューとして、『入荷』、『出荷』、『棚卸』、『送信』、『削除』が表示されます。
初期状態では『アプリケーション』が選択された状態で表示されます。
『送信』メニューと『削除』メニューのパラメータは固定ですので変更や削除はできません。

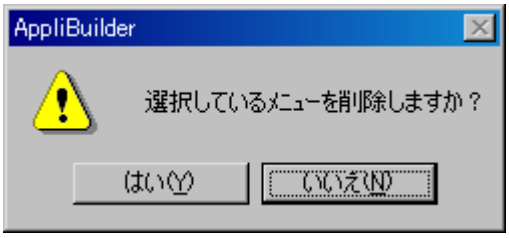
選択されているサブメニューと対応して、「ﾒﾆｭｰ名」の各設定内容が切り替わります。
選択されている業務メニューと対応して、「ﾒﾆｭｰ名」、「ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ名」、「ﾀｲﾑｽﾀﾝﾌﾟ付加」、「ﾀｰﾐﾅﾙID」、「書込み形式」、「字詰め」の各設定内容が切り替わります。

「ｻﾌﾞﾒﾆｭｰ追加」ボタン:クリックすると、1階層目に新規サブメニューが追加されます。また、その下の2階層目に1つ新規業務メニューが追加されます。

「業務ﾒﾆｭｰ追加」ボタン:クリックすると、選択されている位置に新規業務メニューが追加されます。

「変更」ボタン:クリックすると、選択されている業務メニューの項目設定画面が表示されます。各メニューの入力項目や画面表示設定を行います。

「削除」ボタン:クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択している業務メニューを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

「上へ」ボタン:クリックすると、選択しているメニューを1つ上に移動します。

「下へ」ボタン:クリックすると、選択しているメニューを1つ下に移動します。

「ﾒﾆｭｰ表示」ラジオボタン:メニュー画面での表示方法を設定します。縦並びが選択されている場合は縦並びで、横並びが選択されている場合は横並びでメニューが表示されます。横並びになった場合、ターミナル画面の表示領域の都合上、業務名の3文字目以降は表示が切り取られます。

「ﾒﾆｭｰ画面ｲﾒｰｼﾞ」:ターミナル上でのメニュー画面のイメージを表示します。

「↑」ボタン:クリックすると、「ﾒﾆｭｰ画面ｲﾒｰｼﾞ」を1行上にスクロールします。

「↓」ボタン:クリックすると、「ﾒﾆｭｰ画面ｲﾒｰｼﾞ」を1行下にスクロールします。

「業務ﾒﾆｭｰ名」:業務メニュー名を設定します。変更されると、「ﾒﾆｭｰ構成」の対応する業務メニュー名が変更されます。

「ﾃﾞｰﾀ編集方法」:入力データの編集方法を設定します。メニューごとに設定します。

「ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙ名」エディットボックス:入力データ保存ファイル名を設定します。ターミナルで使用できる8．3形式で設定します。

「ﾀｲﾑｽﾀﾝﾌﾟ付加」チェックボックス:データ入力時のターミナルのシステム日付をデータに付加するかどうかを設定します。チェックがついている場合は付加設定になります。

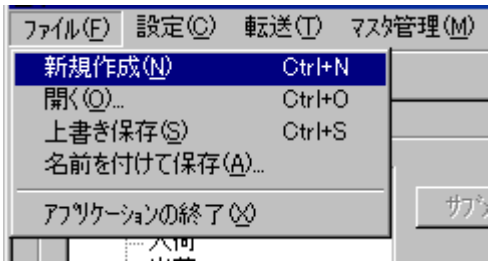
「ターミナルID 付加」チェックボックス: ターミナル ID をデータに付加するかどうかを設定します。チェックがついている場合は付加設定になります。

「書込み形式」ラジオボタン: データの書込み形式を設定します。CSV が選択されている場合は CSV 形式で、固定長が選択されている場合は固定長形式でデータの書き込みを行います。

「字詰め」ラジオボタン: 「書込み形式」が固定長に設定されているときの字詰めを設定します。左詰めか右詰めかを選択します。

7.2 ファイルの新規作成

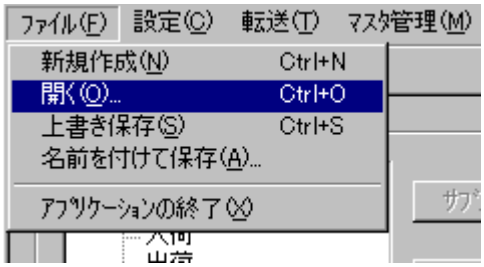
メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「新規作成(N)」を選択します。



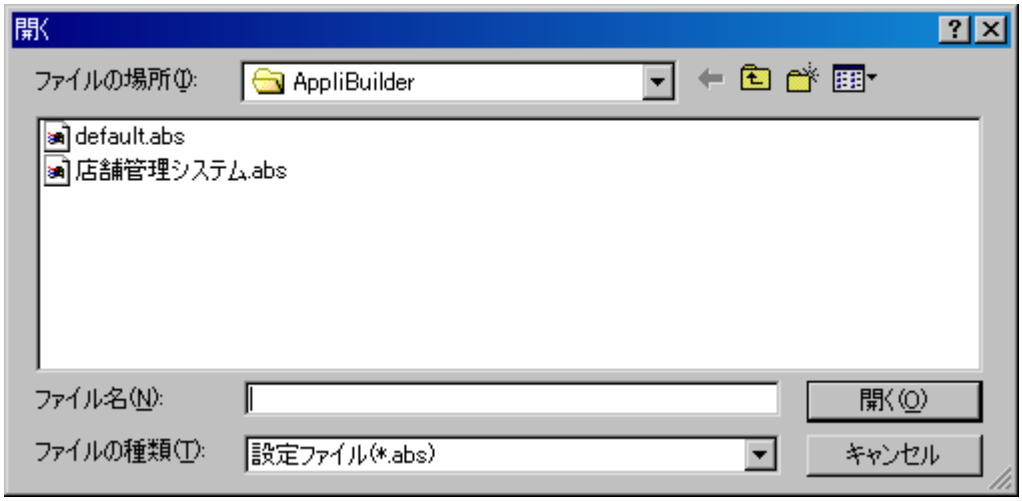
デフォルトの設定パラメータが表示されます。本アプリケーション起動直後は、ファイルの新規作成を行ったときと同じ状態になります。

7.3 既存ファイルを開く

メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「開く(O)」を選択します。



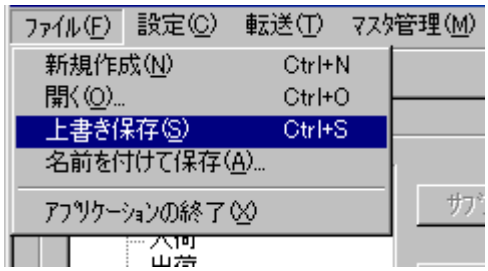
ファイル選択ダイアログ画面が表示されますので、ファイルを選択して「開く(O)」ボタンをクリックします。



選択した設定パラメータファイルの設定パラメータが表示されます。

7.4 上書き保存

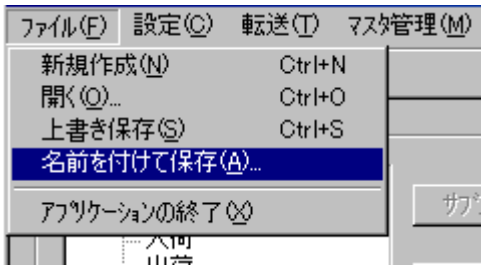
メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「上書き保存(S)」を選択します。



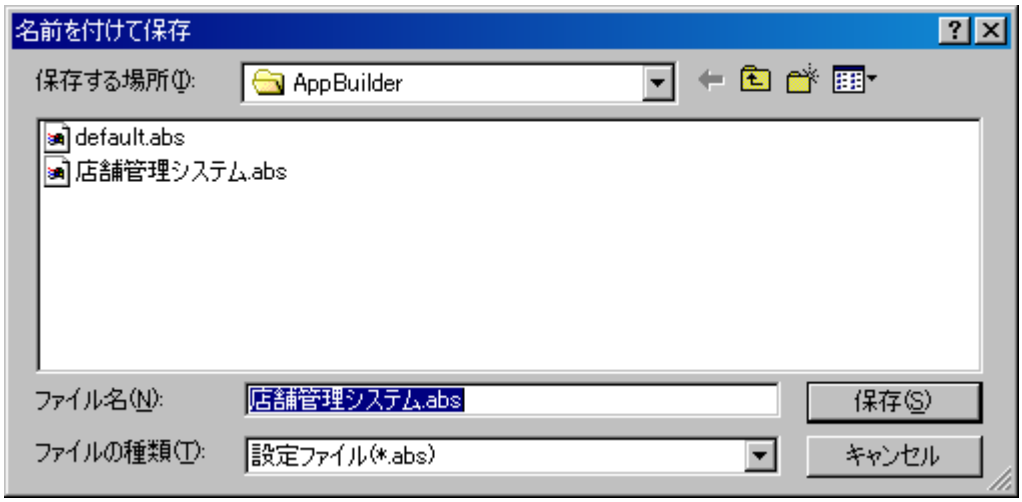
表示されている設定パラメータが設定パラメータファイルに更新されます。

7.5 名前を付けて保存

メイン画面で「ファイル(F)」メニューの「上書き保存(S)」を選択します。



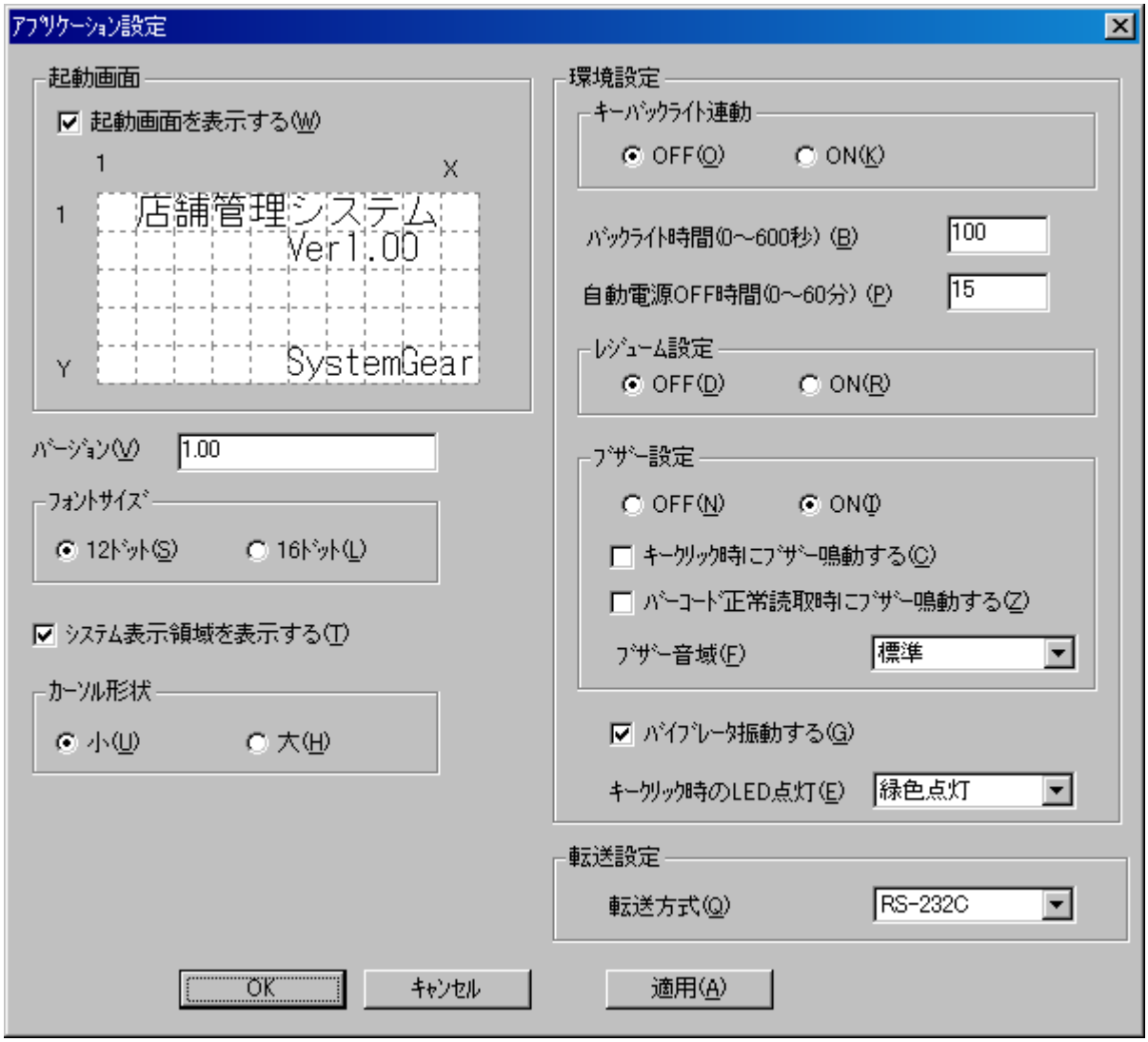
名前を付けて保存ダイアログ画面が表示されますので、ファイルを選択して「保存(S)」ボタンをクリックします。



表示中の設定パラメータが指定したファイル名で保存されます。

8 アプリケーション設定を行う

メイン画面で「設定(C)」メニューの「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ設定(A)」を選択、もしくは「ﾒﾆｭｰ構成」で『アプリケーション』が選択されている状態で「変更」ボタンをクリックすると、以下のアプリケーション設定画面が表示されます。

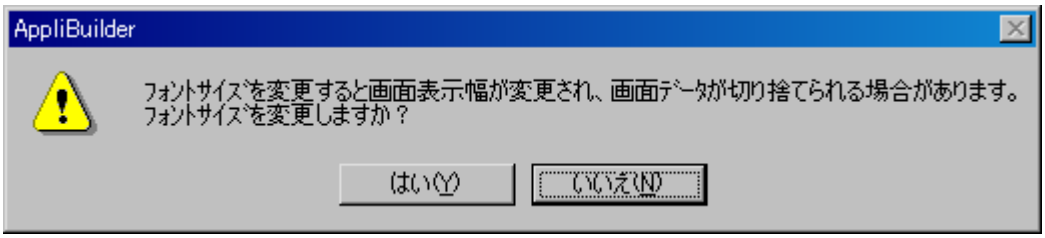


アプリケーション設定画面では、ターミナルアプリケーション固有のパラメータを設定します。

「起動画面」: 起動画面の設定を行います。「起動画面を表示する」にチェックをつけると、「起動画面」エディットボックスが有効状態になります。手入力で起動画面の表示内容を設定します。

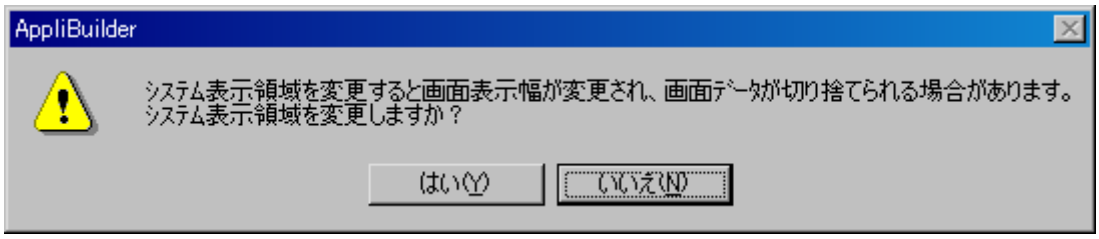
「ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ」エディットボックス: アプリケーションのバージョン情報を設定します。(最大１６文字)

「ﾌｫﾝﾄｻｲｽﾞ」ラジオボタン：文字表示フォントサイズを指定します。フォントサイズを変更しようとすると、確認メッセージを表示します。



「はい」ボタンをクリックすると、フォントサイズを変更します。「いいえ」ボタンをクリックすると変更は行いません。
フォントサイズを変更した場合は、項目設定画面で画面イメージ内容を確認し、必要であれば修正を行ってください。

「ｼｽﾃﾑ表示領域を表示する」チェックボックス：システム表示領域を表示するかどうかを設定します。設定を変更しようとすると、確認メッセージを表示します。



「はい」ボタンをクリックすると、システム表示領域を変更します。「いいえ」ボタンをクリックすると変更は行いません。
システム表示領域を変更した場合は、項目設定画面で画面イメージ内容を確認し、必要であれば修正を行ってください。

フォントサイズとシステム表示領域の各設定による表示領域

フォントサイズ設定	システム表示領域設定	桁数	行数
12 ドット	表示しない	1～20	1～6
	表示する	1～20	1～5
16 ドット	表示しない	1～14	1～5
	表示する	1～14	1～4

「カーソル形状」ラジオボタン：カーソル形状の設定を行います。

「環境設定」:ターミナルの環境設定を行います。

「ｷｰﾊﾞｯｸﾗｲﾄ連動」ラジオボタン:キー入力を行ったときに、バックライトを連動して ON にするかどうかを設定します。

「ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ時間」エディットボックス:バックライト点灯時間を設定します。

「自動電源 OFF 時間」エディットボックス:ターミナル操作を行わなかったときに自動電源 OFF される時間を設定します。

「ﾚｼﾞｭｰﾑ設定」ラジオボタン:ターミナルを再起動したときのレジュームを ON にするかどうかを設定します。

「ﾌﾞｻﾞｰ鳴動」ラジオボタン:ブザー音を鳴らすかどうかを設定します。

「ｷｰｸﾘｯｸ時にﾌﾞｻﾞｰ鳴動する」チェックボックス:キークリック音を鳴らすかどうかを設定します。

「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ正常読取時にﾌﾞｻﾞｰ鳴動する」チェックボックス:バーコードを正常に読み取ったときにをブザーを鳴らすかどうかを設定します。

「ﾌﾞｻﾞｰ音域」コンボボックス:ブザー音域を設定します。＋2／＋1／標準／－1／－2から選択します。

「ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ振動する」チェックボックス:バイブレータを振動するかどうかを設定します。

「ｷｰｸﾘｯｸ時の LED 点灯」コンボボックス:キーをクリックしたときに LED を点灯するかどうかを設定します。点灯なし／緑色点灯／赤色点灯／橙色点灯の中から選択可能です。

「転送方式」コンボボックス:ファイル転送時の転送方式を設定します。RS-232C／LAN から選択します。RS-232C の場合は、USB も含みます。

「OK」ボタン:クリックすると、アプリケーション設定を反映してメイン画面に戻ります。

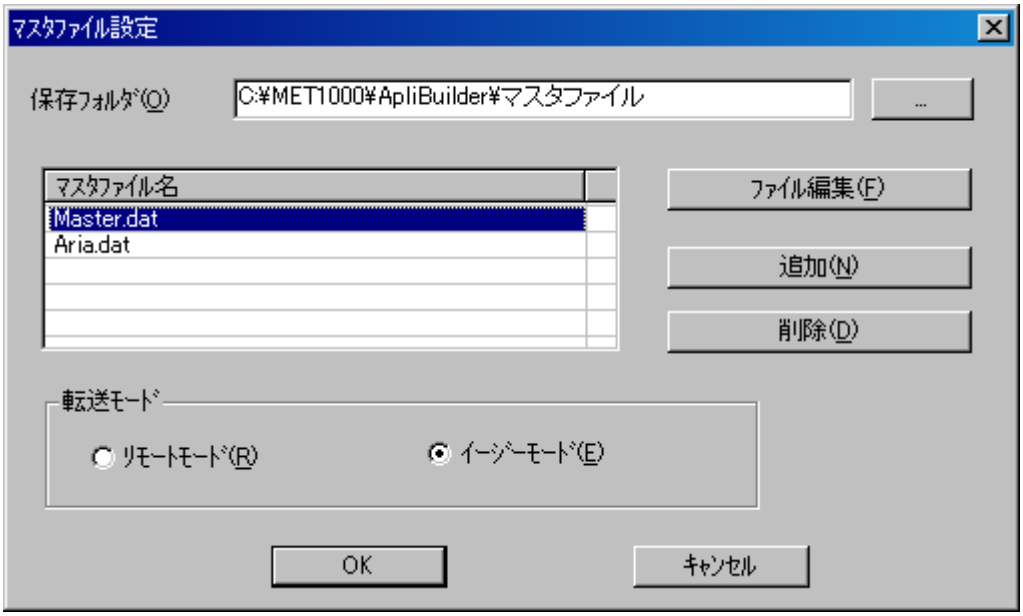
「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン:クリックすると、アプリケーション設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

「適用」ボタン:クリックすると、アプリケーションの項目設定を反映します。その後「ｷｬﾝｾﾙ」ボタンをクリックしても、「適用」ボタンをクリックした時点までのアプリケーション設定は反映されています。

9 マスタファイル設定を行う

9.1 マスタファイルの設定

メイン画面で「ﾏｽﾀ管理(M)」メニュー→「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ設定(S)」をクリックすると、以下のマスタファイル設定画面が表示されます。



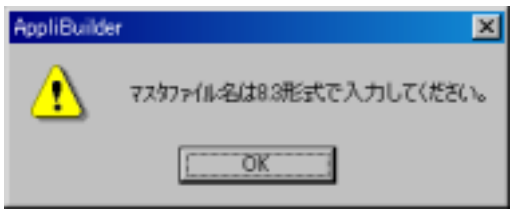
マスタファイル設定画面では、マスタファイルの設定を行います。

「保存ﾌｫﾙﾀﾞ」エディットボックス：マスタファイルを保存するフォルダを指定します。

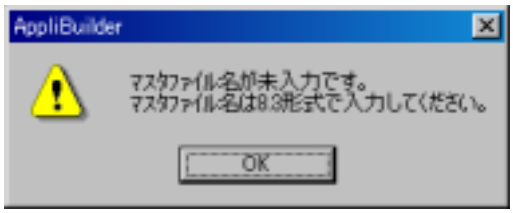
「...」ボタン：クリックすると、「ﾌｫﾙﾀﾞの参照」ダイアログ画面が表示されます。有効なフォルダ名が「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ保存ﾌｫﾙﾀﾞ」エディットボックスに入力されている場合は、そのフォルダがデフォルト表示されます。
フォルダ名を選択すると、「保存ﾌｫﾙﾀﾞ」エディットボックスに反映されて入力されます。

「マスタファイル名」リストボックス：マスタファイル名を設定します。有効なフォルダ名が「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ保存ﾌｫﾙﾀﾞ」エディットボックスに入力されている場合は、そのフォルダがデフォルト表示されます。
マスタファイル名の上をダブルクリックするとマスタファイル名の編集が可能になります。ターミナルで使用できる8．3形式で設定します。マルチバイト文字は入力ができません。半角文字のみ、最大 12 桁までの入力が可能です。

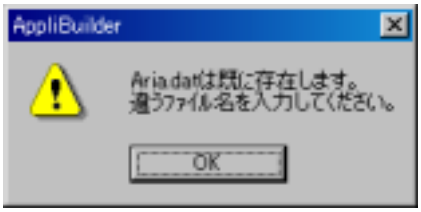
8．3形式以外のフォーマットで設定してリターンキーを押下すると、以下のエラーメッセージを表示してマスタファイル名編集状態に戻ります。



マスタファイル名をクリアしてリターンキーを押下すると、以下のエラーメッセージを表示してマスタファイル名編集状態に戻ります。



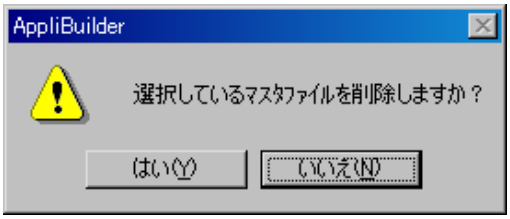
既に設定されているのと同じ名前を入力してリターンキーを押下すると、以下のエラーメッセージを表示してマスタファイル名編集状態に戻ります。



「ファイル編集」ボタン：クリックすると、「マスタファイル名」リストボックスで選択されているマスタファイルの、マスタファイル編集設定画面が表示されます。

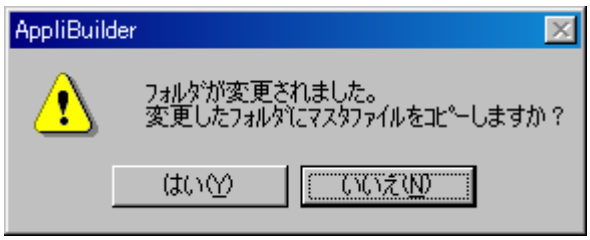
「追加」ボタン：クリックすると、「マスタファイル名」リストボックスに新規ファイル名が追加されます。

「削除」ボタン：クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択しているマスタファイル名を削除します。「いいえ」をクリックすると削除は行いません。

「OK」ボタン：クリックすると、マスタファイル設定を反映してメイン画面に戻ります。
マスタファイル名にマスタファイルが指定されていて、保存フォルダが変更されている時は、以下の確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、マスタファイル名に設定されていて今回変更されていないファイルが前回にしていされていたフォルダから新しく指定されたフォルダにコピーされます。

「いいえ」をクリックすると、マスタファイルはコピーされません。

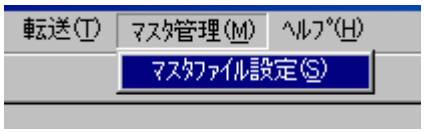
「キャンセル」ボタン：クリックすると、マスタファイル設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

「転送モード」ボタン：クリックすると、リモートモード／イージモードが切り替わります。

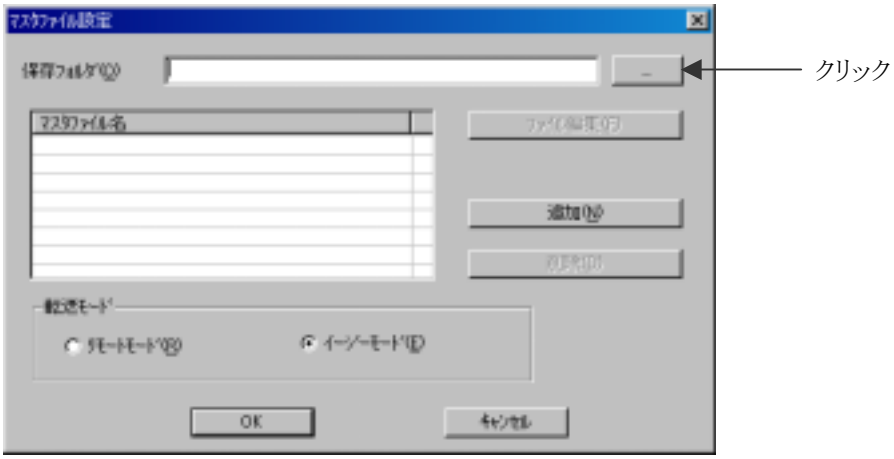
- 転送したいファイルを選択する場合はリモートモードを選択してください。
- 一括して転送する場合は、イージーモードをご使用ください。
- LAN 設定されている場合は、選択できません。

9.2 マスタファイルの編集

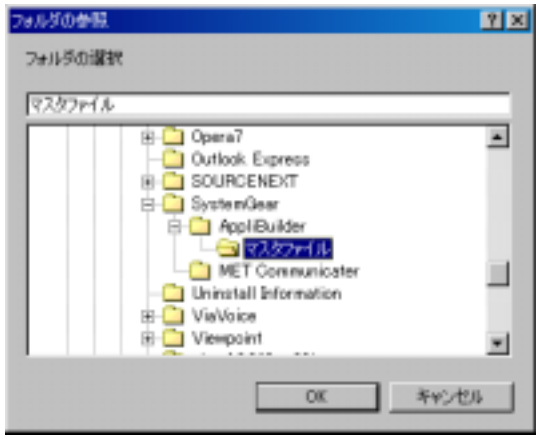
メイン画面で「ﾏｽﾀ管理(M)」メニューの「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ設定(S)」を選択します。



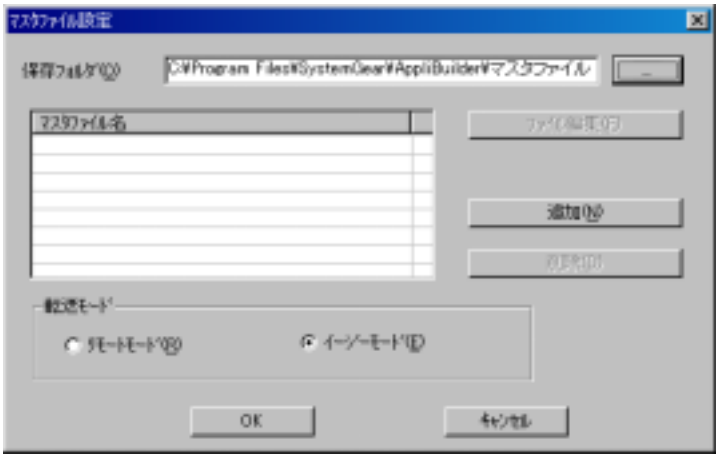
新規の場合、以下のように初期状態でマスタファイル設定画面が表示されます。
マスタファイルを保存するフォルダを設定するために「...」ボタンをクリックします。



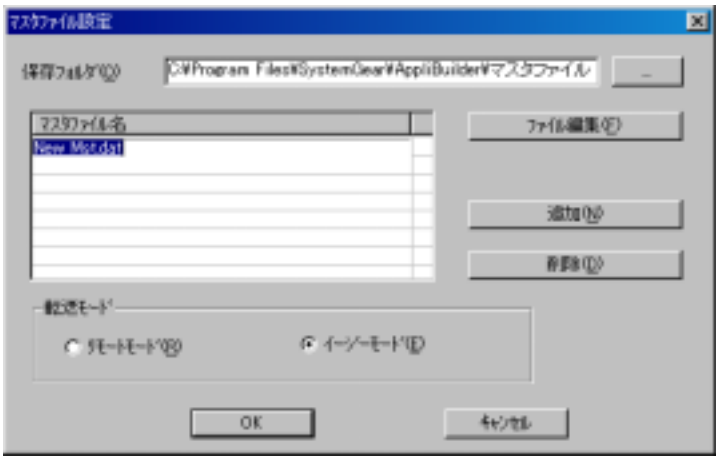
フォルダの参照ダイアログ画面が表示されますのでフォルダを選択して「OK」ボタンをクリックします。



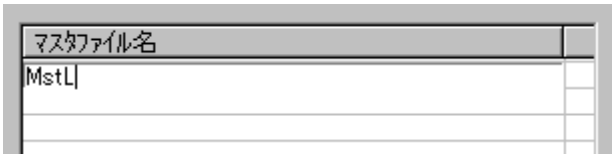
選択したフォルダが「保存フォルダ(O)のエディットボックスに反映されて入力されます。



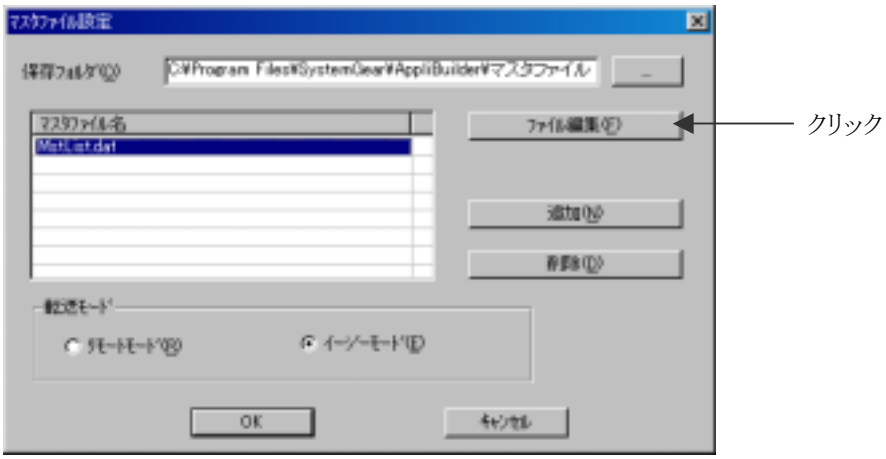
「追加(N)」ボタンをクリックするとマスタファイル名が追加されます。
追加された時はファイル名は「New_Mst.dat」となっています。



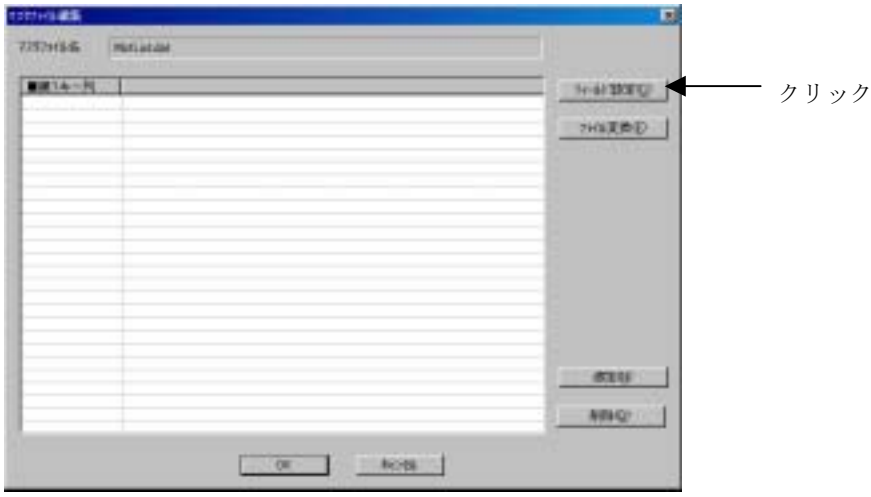
ファイル名をダブルクリックすると編集可能となりますので、手入力して「マスタファイル名」を設定します。



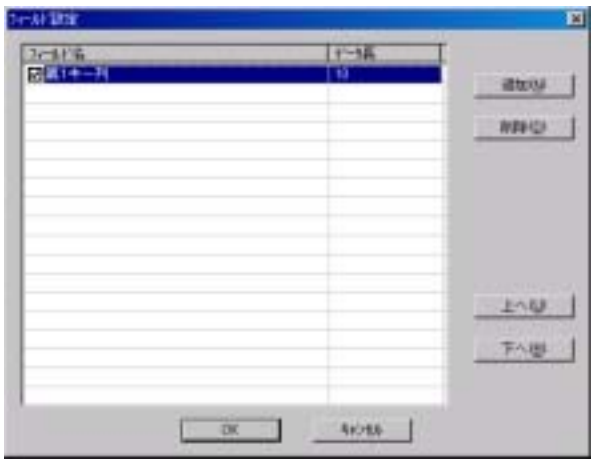
設定したマスタファイルを選択した状態で「ファイル編集(E)」ボタンをクリックします。



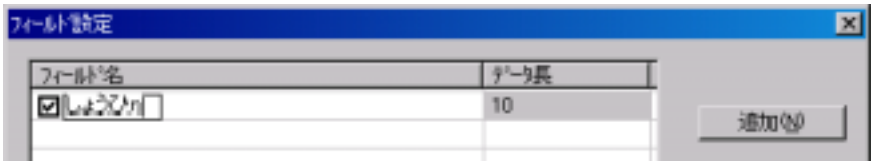
新規の場合、以下のように初期状態でマスタファイル編集画面が表示されます。
マスタデータのフィールドフォーマットを設定するために、「ﾌｨｰﾙﾄﾞ設定(C)」ボタンをクリックし、フィールド設定画面を表示します。



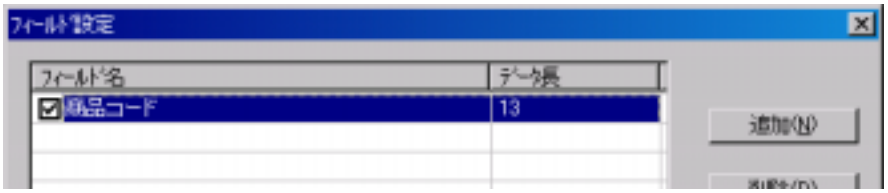
フィールド設定画面が初期状態で表示されます。



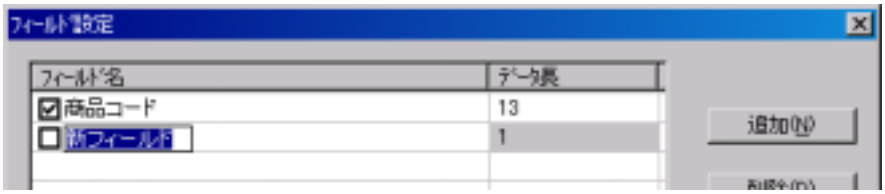
まず第 1 キー列を設定します。第 1 キー列はマスタ検索項目の全てでキーとして指定されます。
設定したいフィールドをダブルクリックすると編集可能となりますので、手入力して「ﾌｨｰﾙﾄﾞ名」や「ﾃﾞｰﾀ長」を設定します。



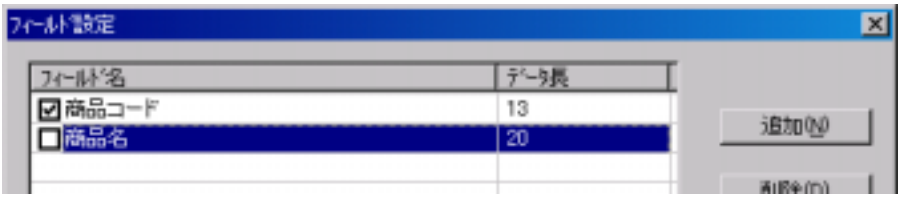
例として、『商品コード』を第 1 キー列として設定します。



次に、『商品コード』から検索されるフィールドとして『商品名』を設定します。
「追加(N)」ボタンをクリックすると新規フィールドデータが追加されますので、第 1 キー列と同じように手入力で設定します。



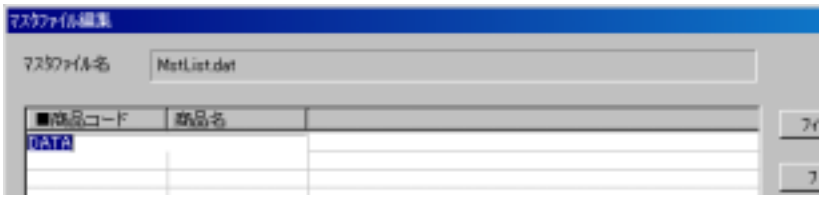
『商品名』はキー列にしないので、チェックボックスにチェックを入れません。



「OK」ボタンをクリックすると、マスタファイル編集画面に設定した内容が反映されて表示されます。

9.2.1 新規にデータを登録する場合

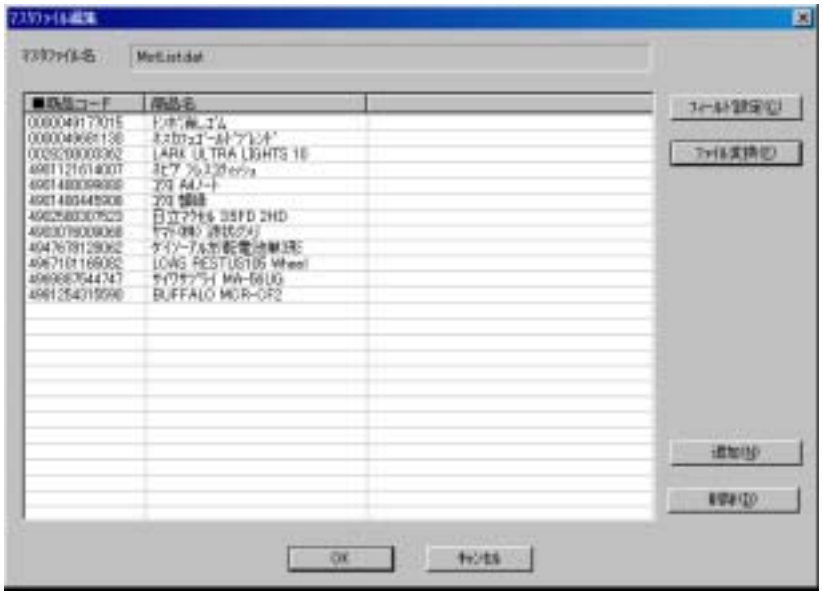
「追加(N)」ボタンをクリックしてデータを追加し、フィールド設定画面と同じように各列を手入力で設定します。



9.2.2 既存のマスタファイルをターミナル用に変換・編集する場合

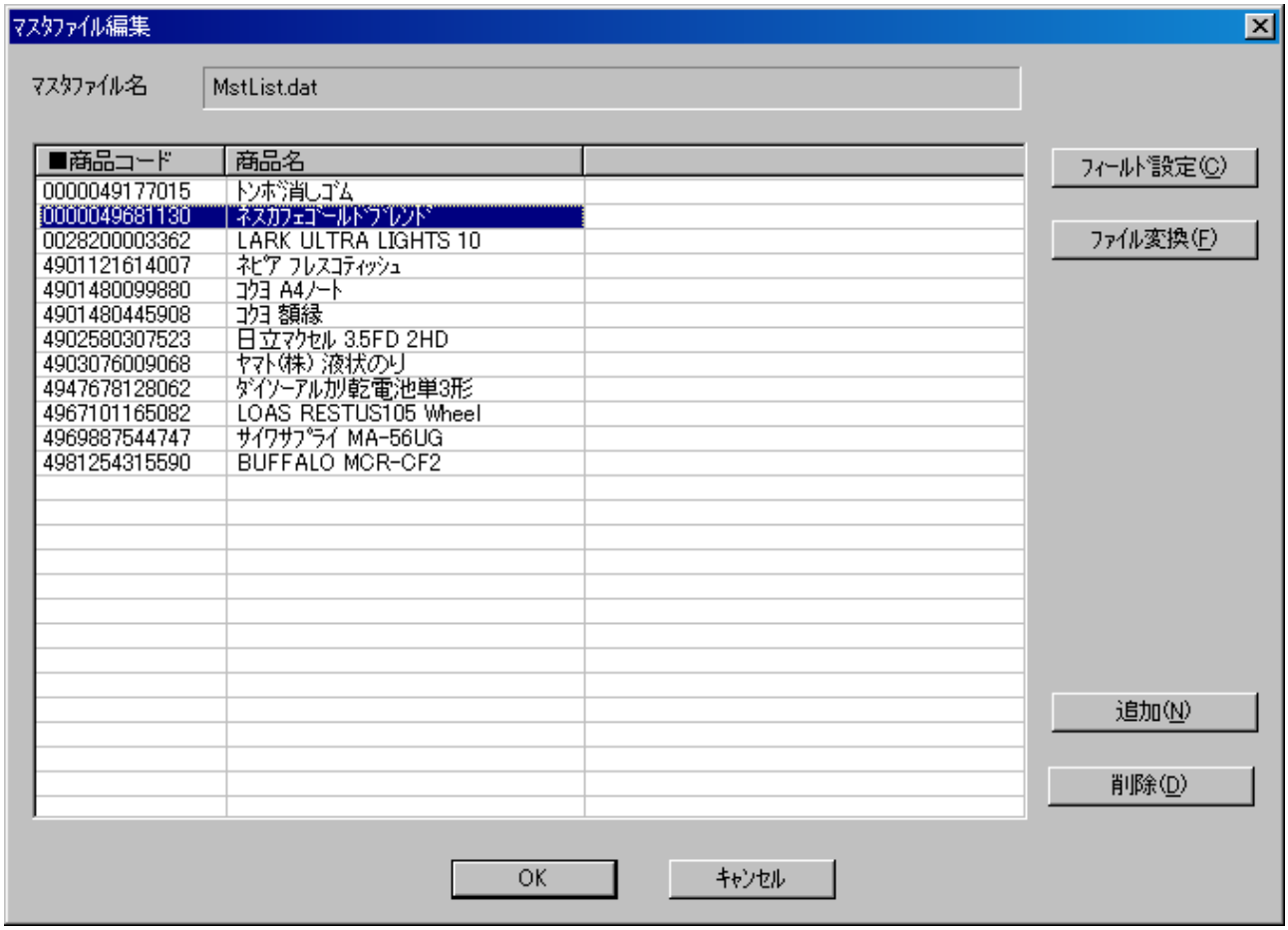
「ファイル変換(F)」ボタンをクリックし、ファイル変換画面で読込みファイル名と変換設定を行い、「変換」ボタンをクリックします。

変換設定通りに既存マスタファイルのデータが読込まれます。



9.2.3 マスタファイル編集画面

マスタファイル設定画面で「ファイル編集」ボタンをクリックすると、以下のマスタファイル編集画面が表示されます。



マスタファイル編集画面では、マスタデータを編集します。

「マスタファイル名」：編集を行うマスタファイル名が表示されます。

「マスタデータ」リストボックス：マスタ登録データが表示されます。第 1 キー列から第 5 キー列の順で昇順にソートされて表示されます。ヘッダには各フィールド名が表示されます。フィールド名の先頭に■が付いている場合はそのフィールドがキー列であることを示します。また、一番左のフィールドは第1キー列です。左から列番号順にフィールドが表示されます。キー列は左詰めになります。

「フィールド設定」ボタン：クリックすると、フィールド設定画面が表示されます。
既にマスタデータが登録されている状態で「フィールド設定」を変更すると、登録されているマスタデータは全てクリアされます。

「ファイル変換」ボタン：クリックすると、マスタファイル変換画面が表示されます。

「追加」ボタン：クリックすると、「マスタデータ」リストボックスに新規データを追加できます。

「削除」ボタン：クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。

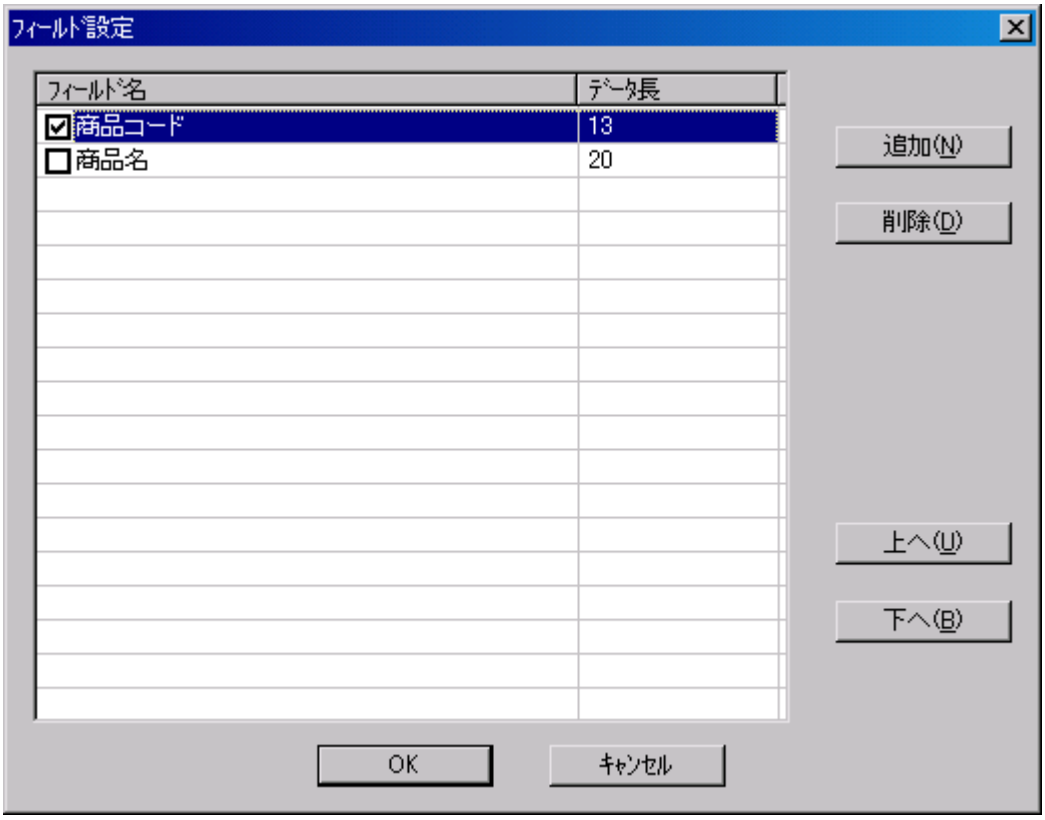
「はい」ボタンをクリックすると、選択しているデータを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。

「OK」ボタン：クリックすると、保存ファイル選択画面が表示されますので、保存するファイル名を選択します。デフォルトで読込みマスタで指定したファイルが選択されます。「保存」ボタンをクリックすると、マスタデータをマスタファイルに保存してメイン画面に戻ります。

「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン：クリックすると、マスタデータをマスタファイルに保存せずにメイン画面に戻ります。

9.2.4 フィールド設定画面

マスタファイル編集画面で、「ﾌｨｰﾙﾄﾞ設定」ボタンをクリックすると、以下のフィールド設定画面が表示されます。

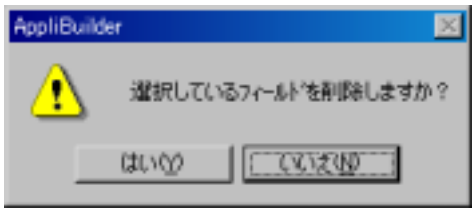


フィールド設定画面では、マスタデータのフィールドのフォーマットを設定します。

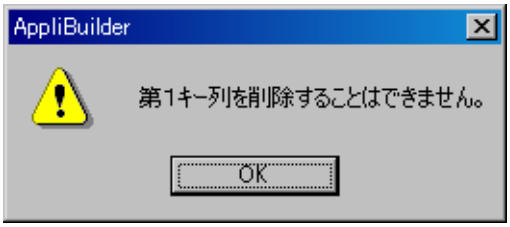
「ﾌｨｰﾙﾄﾞ設定」リストボックス：各フィールドの設定データが表示されます。フィールド名とデータ長、キー列かどうかを設定します。チェックボタンにチェックをつけると、そのフィールドがキー列であることを示します。キー列は最大 5 項目まで指定できます。チェックがついているフィールドは上に詰められて表示されます。一番上のフィールドは第 1 キー列です。

「追加」ボタン：クリックすると、フィールドデータを追加します。フィールドデータの編集は直接「ﾌｨｰﾙﾄﾞ設定」リストボックスに入力して行います。最大16項目までフィールドデータを追加できます。

「削除」ボタン：クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択されているフィールドデータを削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。
第1キー列は削除できません。第１キー列を削除しようとすると以下のエラーメッセージが表示されます。

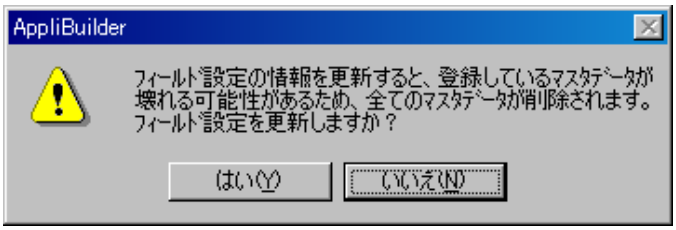


「上へ」ボタン：クリックすると、選択されているフィールドを1つ上に移動します。

「下へ」ボタン：クリックすると、選択されているフィールドを1つ下に移動します。

「OK」ボタン：クリックすると、マスタデータが存在しない状態で画面を表示した場合には、マスタフィールド設定を反映してマスタファイル編集画面に戻ります。

マスタデータが存在する状態で画面が表示された場合は、以下の確認メッセージが表示されます。



「はい」をクリックすると、マスタフィールド設定を反映してマスタファイル編集画面に戻ります。
マスタファイル編集画面では、全てのデータがクリアされています。
「いいえ」をクリックすると、マスタフィールド設定を反映せずにマスタファイル編集画面に戻ります。

「キャンセル」ボタン：クリックすると、マスタフィールド設定を反映せずにマスタファイル編集画面に戻ります。

9.2.5 マスタファイル変換画面

マスタファイル編集画面で「ファイル変換」ボタンをクリックすると、以下のファイル変換画面が表示されます。

ファイル変換画面では、マスタデータの変換設定を行い、設定通りにデータを変換して読込みます。

「読込みファイル名」エディットボックス：読込みファイル名を設定します。

「…」ボタン：クリックすると、ファイル選択画面が表示されます。ファイルを選択すると、「読込みファイル名」エディットボックスに選択したファイル名が表示されます。

「読込みファイルのフォーマット」ラジオボタン：読込みファイルのフォーマットを設定します。CSV が選択されている場合は CSV 形式に、固定長が選択されている場合は固定長形式に合わせて読込みを行います。

「フィールド名」スタティックボックス：フィールド名が表示されます。

「列番号」エディットボックス：「読込みファイルのフォーマット」ラジオボタンが CSV 設定になっているときのみ有効状態になります。何番目の項目を読込むかを設定します。項目は左から順に 1 番目、2 番目・・と数えます。

「読込み位置」エディットボックス：「読込みファイルのフォーマット」ラジオボタンが固定長設定になっているときのみ有効状態になります。何桁目から読込むかを設定します。

「読込み桁数」エディットボックス:「読込みﾌｧｲﾙのﾌｫｰﾏｯﾄ」ラジオボタンが固定長設定になっているときにのみ有効状態になります。「読込み位置」エディットボックスで設定した桁数目から何桁分読込むかを設定します。

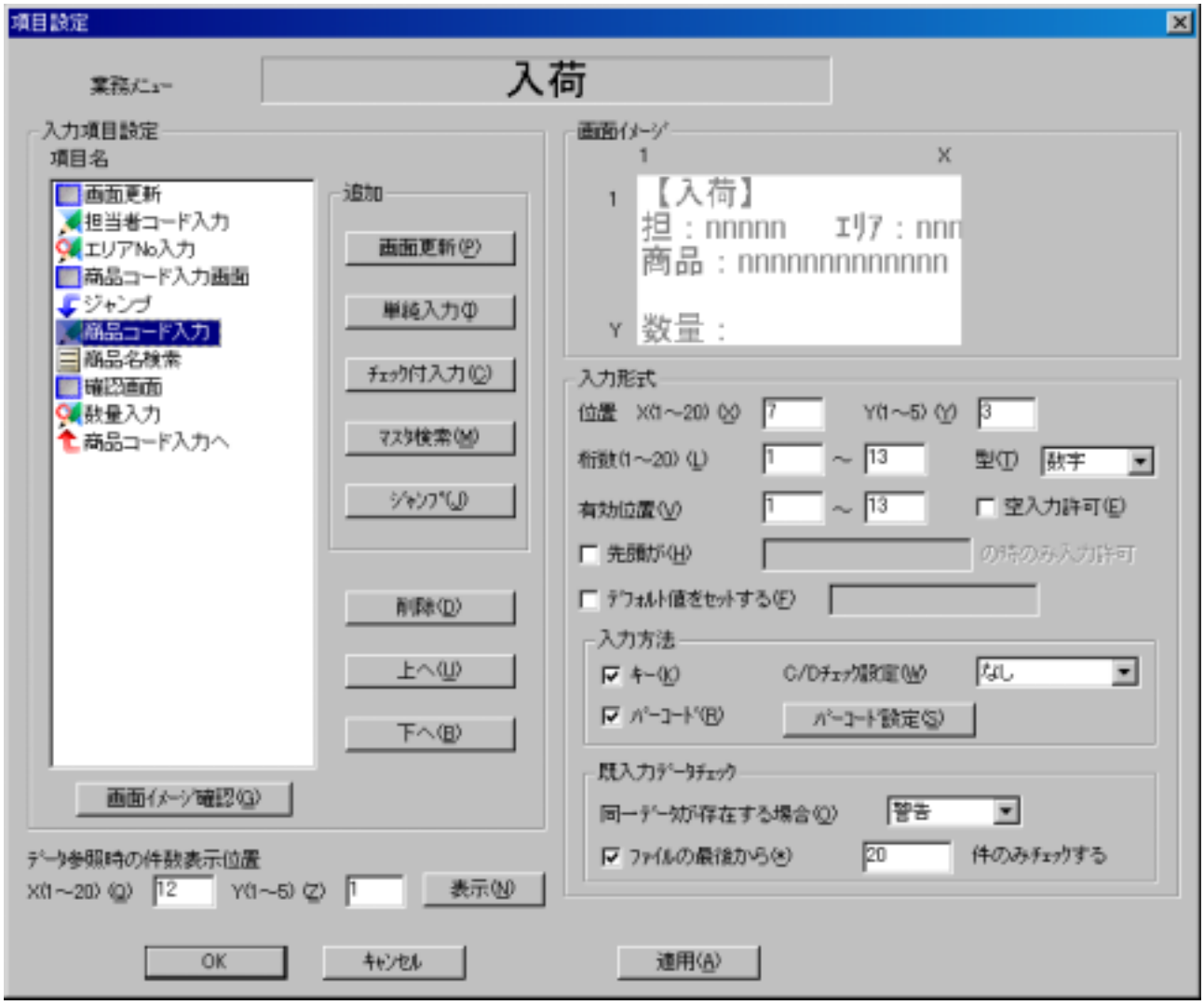
「変換」ボタン:クリックすると、「読込みﾌｧｲﾙ名」エディットボックスで設定したファイルを設定通りに変換して読込みます。読込んだデータはマスタファイル編集画面の「マスタデータ」リストボックスに追加されて表示されます。

「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン:クリックすると、ファイルを読込まずにマスタファイル編集画面に戻ります。

10 パラメータファイルを設定する

10.1 項目設定画面

メイン画面で設定したい業務メニューを選択して「変更」ボタンをクリックすると、選択した業務メニューの項目設定画面が表示されます。



項目設定画面では、業務メニュー内容の各項目を設定します。

「入力項目設定」：入力項目の構成を設定します。項目の追加の操作は「画面更新」、「単純入力」、「ﾁｪｯｸ付入力」、「ﾏｽﾀ検索」、「ｼﾞｬﾝﾌﾟ」のボタンを、項目の削除の操作は「削除」ボタンを、項目の順番の操作は「上へ」、「下へ」ボタンをクリックして行います。

「項目名」リストボックス：追加された項目を表示します。ターミナル上での作業は項目名リストボックスの上から順に行われます。リストの一番下には、末尾の項目まで進んだ後どの項目に戻るか、設定されている項目が表示されます。

「追加」：項目の追加を行います。各ボタンをクリックするとボタンと対応する項目が「項目」リストボックスに追加されます。

「画面更新」ボタン：クリックすると、画面更新項目が「項目」リストボックスに追加されます。

「単純入力」ボタン：クリックすると、単純入力項目が「項目」リストボックスに追加されます。

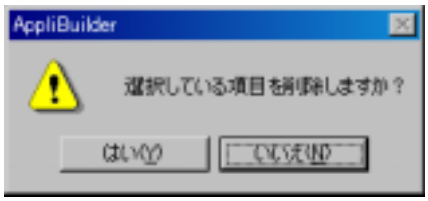
「ﾁｪｯｸ付入力」ボタン：クリックすると、チェック付入力項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

「ﾏｽﾀ検索」ボタン：クリックすると、マスタ検索項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

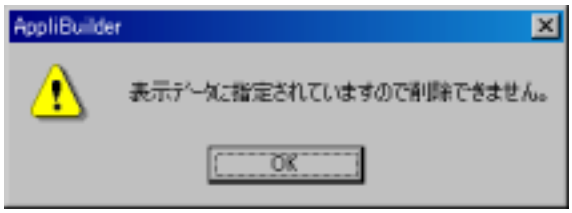
「ｼﾞｬﾝﾌﾟ」ボタン：クリックすると、ジャンプ項目が「項目名」リストボックスに追加されます。

「画面ｲﾒｰｼﾞ確認」ボタン：クリックすると、画面イメージ確認画面が表示されます。

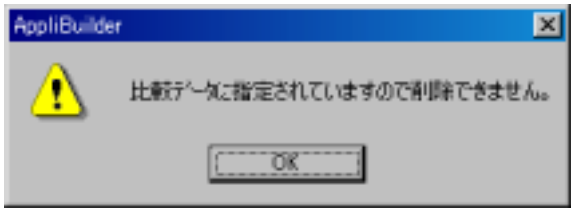
「削除」ボタン：クリックすると、削除確認メッセージが表示されます。



「はい」ボタンをクリックすると、選択されている項目を削除します。「いいえ」ボタンをクリックすると削除は行いません。
表示データに指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。



ﾁｪｯｸ付条件の比較対象に指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され、削除できません。



マスタ検索キーに指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。

マスタ検索エラー時の戻り先に指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。

ジャンプ先に指定されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され削除できません。

「上へ」ボタン:クリックすると、選択されている項目を1つ上に移動します。

「下へ」ボタン:クリックすると、選択されている項目を1つ下に移動します。

「ﾃﾞｰﾀ参照時の件数表示位置（X、Y）」：ターミナルでデータ参照するときの件数表示先頭位置を設定します。

「表示／非表示」ボタン：画面イメージに件数表示イメージを表示するかどうかを操作できます。「表示」ボタンのときにクリックすると、件数表示イメージが画面イメージに表示され、「表示」ボタンが「非表示」ボタンに変わります。「非表示」ボタンのときにクリックすると、件数表示イメージが画面イメージから消え、「非表示」ボタンが「表示」ボタンに変わります。

「OK」ボタン:クリックすると、項目設定を反映してメイン画面に戻ります。

「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン:クリックすると、項目設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

「適用」ボタン:クリックすると、現在の項目設定を反映します。その後「ｷｬﾝｾﾙ」ボタンをクリックしても、「適用」ボタンをクリックした時点までの項目設定は反映されています。

10.1.1 「画面更新」項目の設定

「項目名」リストボックスで「画面更新」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

「画面ｲﾒｰｼﾞ」：画面の表示更新内容を設定します。直接手入力操作で設定を行います。また、「表示ﾃﾞｰﾀ」で選択された項目データイメージを表示します。

「入力済みのﾃﾞｰﾀ表示」：既に入力された項目データの表示の設定を行います。

「表示ﾃﾞｰﾀ」コンボボックス：表示するデータ項目を設定します。「単純入力」、「ﾁｪｯｸ付入力」の項目と、「マスタ検索」で「検索結果を取得する」設定でチェックありになっている項目を選択表示できます。また、選択されている項目より上の項目しか選択できません。

「X、Y」エディットボックス：表示データの表示先頭位置を設定します。

10.1.2 「単純入力」項目の設定

「項目名」リストボックスで「単純入力」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

「画面ｲﾒｰｼﾞ」：選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「入力形式」：データの入力形式を設定します。

「位置（X、Y）」エディットボックス：データの入力開始位置を設定します。カーソルは開始位置から始まり、データを1字入力するたびに右に移動します。

「桁数」エディットボックス：データの入力桁数を設定します。入力可能とする最小桁数と最大桁数を設定します。

「型」コンボボックス：データの型を設定します。文字／数字の中から選択します。

「有効位置」エディットボックス：抽出する有効データの開始位置と終了位置を設定します。
有効位置に指定した範囲で、マスタ検索／蓄積データ書込みを行います。

例）有効位置が 2～3 で読込んだバーコードが‘12345’の場合は、‘23’を有効とします。

「空入力許可」チェックボックス：空入力の許可／禁止を設定します。

「先頭が XXX ときのみ入力許可」：先頭データ比較設定を行います。

「ﾃﾞﾌｫﾙﾄ値をｾｯﾄする」：デフォルト入力設定を行います。

「入力方法」：データの入力方法を決定します。許可する入力方法のチェックボックスにチェックをつけます。
必ず 1 つは選択してください。

「ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ設定」ボタン：クリックすると、バーコード設定画面が表示されます。

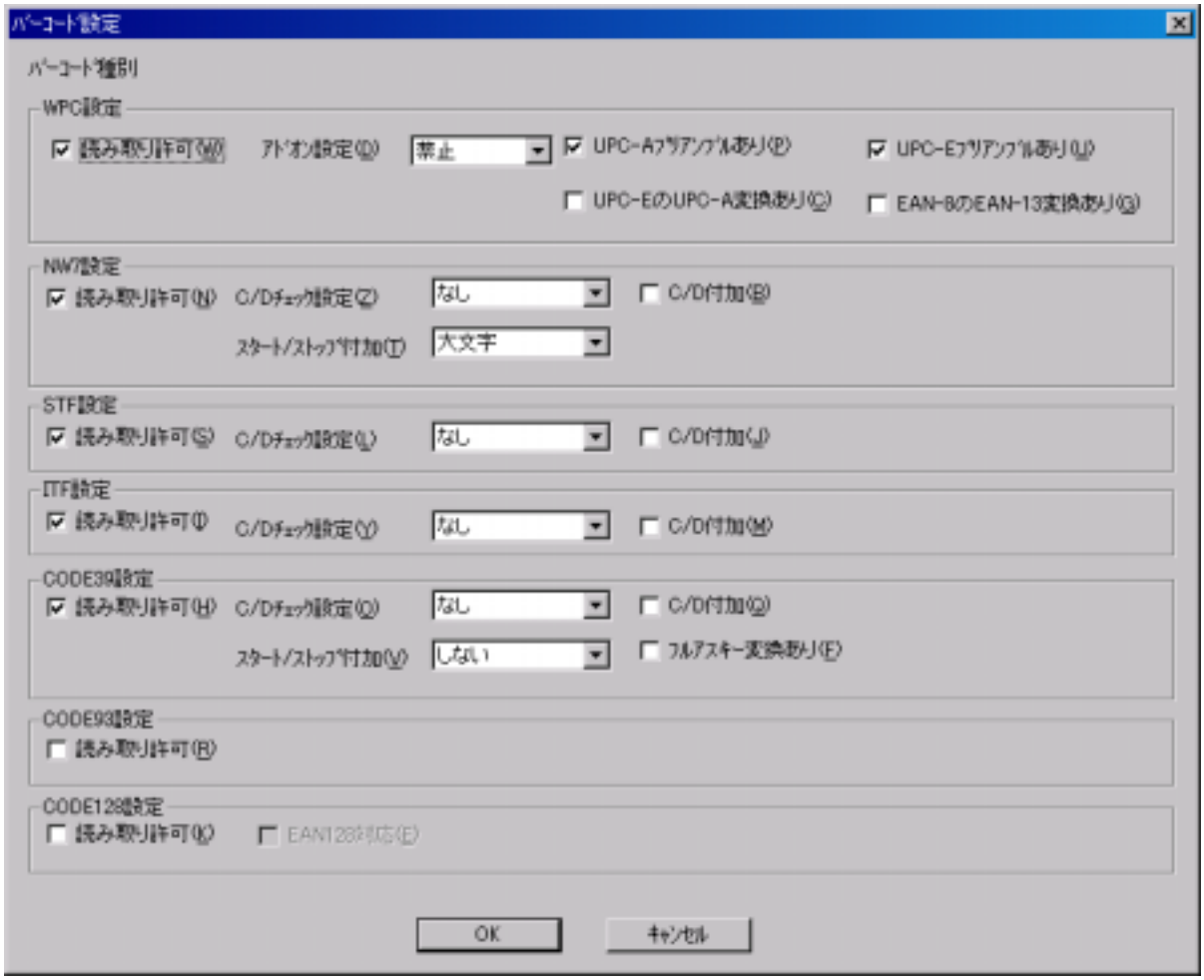
「C/Dﾁｪｯｸ設定」コンボボックス：キー入力時の C/D チェック設定を行います。

「既入力ﾃﾞｰﾀﾁｪｯｸ」：既入力データチェックを設定します。

「同一ﾃﾞｰﾀが存在する場合」コンボボックス：既入力データチェックで、同一データが存在する場合の動作を設定します。

「ファイルの最後から」：データチェックを行う件数を設定します。（入力されたファイルの最後からの件数）

バーコード設定画面



バーコード設定画面では、各ﾊﾞｰｺｰﾄﾞの読取り設定を行います。

「読取許可」チェックボタン：各バーコードの読取許可設定を行います。チェックがついている場合は、読取を許可します。

「ｱﾄﾞｵﾝ設定」コンボボックス：アドオンコードの読取許可設定を行います。

「UPC-A(E)ﾌﾟﾘｱﾝﾌﾞﾙあり」チェックボックス：UPC－A(E)に0を付加するかどうかの設定を行います。 チェックがついている場合は0を付加します。

「UPC-E(EAN-8)の UPC-A(EAN-13)変換あり」チェックボックス：UPC－E(EAN-8)を読み取ったときにUPC-A(EAN-13)の形式に変換するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、変換を行います。

「C/Dﾁｪｯｸ設定」コンボボックス：C/D チェックを行うかどうかの設定を行います。

「C/D 付加」チェックボックス：C/D を付加するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合はC/D を付加します。

「ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ付加」コンボボックス：スタート／ストップコードを付加するかどうかの設定を行います。

「ﾌﾙｱｽｷｰ変換あり」チェックボックス：フルアスキー変換を行うかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、変換を行います。

「EAN128 対応」チェックボックス：CODE128 でスタートコードの次に FUNC1 コードがある場合に EAN128 として認識するかどうかの設定を行います。チェックがついている場合は、EAN128 を認識します。

「OK」ボタン：クリックすると、バーコード設定を反映して項目設定画面に戻ります。

「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン：クリックすると、バーコード設定を反映せずに項目設定画面に戻ります。

10.1.3 「ﾁｪｯｸ付入力」項目の設定

「項目名」リストボックスで「ﾁｪｯｸ付入力」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示にります。

「画面ｲﾒｰｼﾞ」：選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「入力形式」：データの入力形式を設定します。

「位置（X、Y）」エディットボックス：データの入力開始位置を設定します。カーソルは開始位置から始まり、データを1字入力するたびに右に移動します。

「桁数」エディットボックス：データの入力桁数を設定します。

「空入力許可」チェックボックス：空入力の許可／禁止を設定します。

「ﾃﾞﾌｫﾙﾄ値をｾｯﾄする」：デフォルト入力設定を行います。

「分岐条件」：データの分岐条件を設定します。

「比較対象」ラジオボタン：分岐条件となる比較対象が定数／入力済みデータかを設定します。

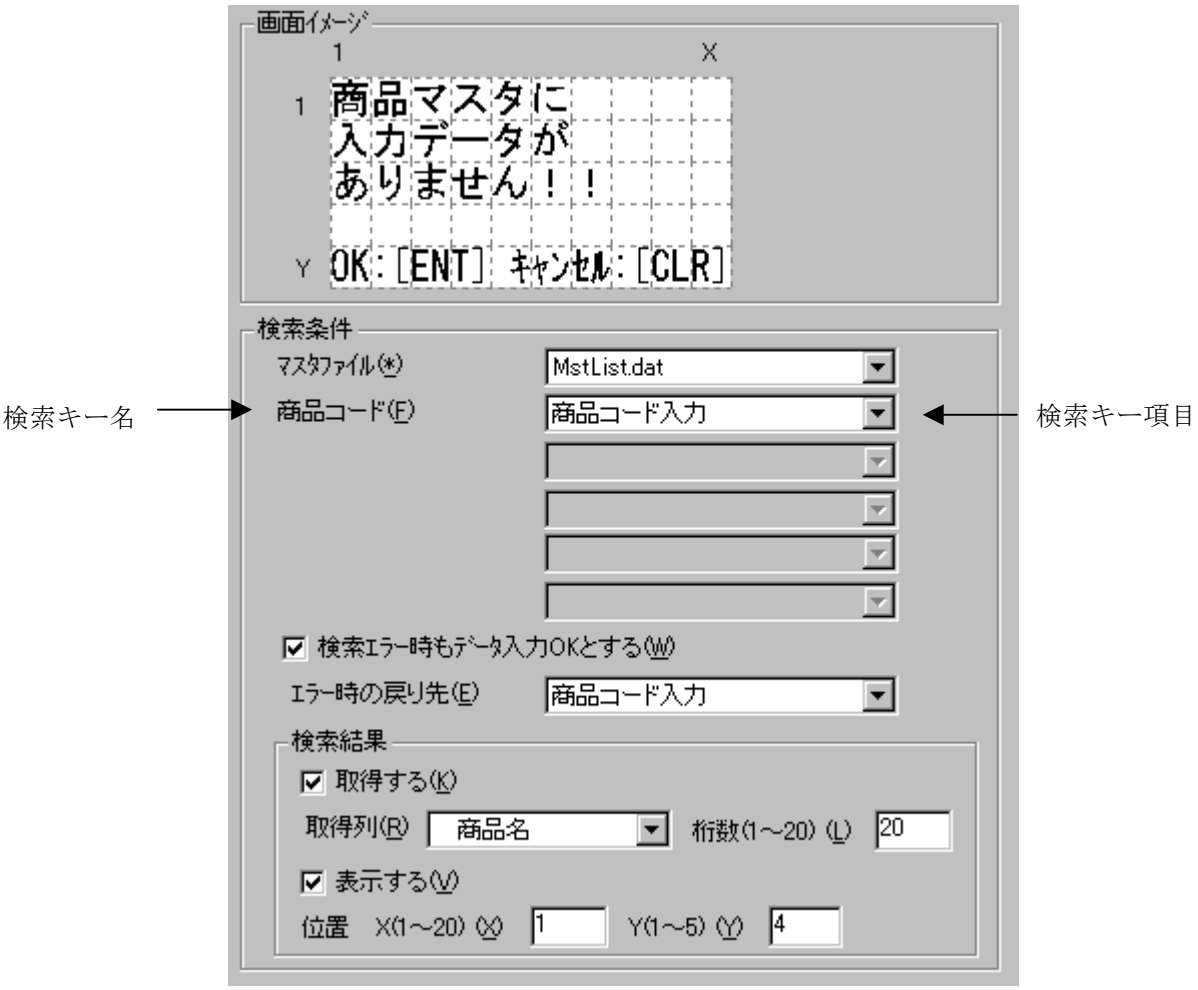
「比較値」エディットボックス：データの入力範囲条件を設定します。入力可能とするデータの最小値と最大値を設定します。

「比較入力済みﾃﾞｰﾀ」コンボボックス：比較データを設定します。「単純入力」、「チェック付入力」項目と、「マスタ検索」で「検索結果を取得する」設定でチェックありになっている項目しか表示されず、選択できません。また、選択されている項目より上の項目しか選択できません。

「ｼﾞｬﾝﾌﾟ先」コンボボックス：比較データと入力データの比較結果によるジャンプ先を設定します。選択されている項目以外で項目でかつ、「画面更新」、「単純入力」、「チェック付入力」、「マスタ検索」、末尾の項目が表示され、選択できます。

10.1.4 「ﾏｽﾀ検索」項目の設定

「項目名」リストボックスで「ﾏｽﾀ検索」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。



「画面ｲﾒｰｼﾞ」：マスタ検索エラー時のエラーメッセージ画面の表示内容を設定します。直接手入力操作で設定を行います。

「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ」コンボボックス：検索を行うマスタファイルを設定します。マスタ設定画面で設定したマスタファイル名が表示されます。

「検索ｷｰ名」スタティックボックス：マスタファイル編集画面で設定したキー名を表示します。第1キーから順に最大 5 キー表示します。

「検索ｷｰ項目」コンボボックス：検索キーと対応する入力項目を設定します。「単純入力」の項目と「マスタ検索」で「検索結果を取得する」設定でチェックありになっている項目が表示され、選択できます。第 1 キー列と対応する項目の場合は、必ずどれかの入力項目を選択します。第1キー列以外の場合は「指定しない」項目を選択することができます。

「検索ｴﾗｰ時もﾃﾞｰﾀ入力 OK とする」チェックボックス：マスタ検索した結果がエラーになった場合に、OK とするかどうかを設定します。チェックをつけた場合は OK とします。

「エラー時の戻り先」：「検索ｴﾗｰ時もﾃﾞｰﾀ入力 OK とする」チェックボックスでチェックをつけていない設定でマスタ検索結果がエラーになった場合や、チェックをつけている設定でマスタ検索結果エラーのときに「CLR」キーを入力した場合に、どの入力項目に戻るかを設定します。「単純入力」の項目しか表示されず、選択できません。

「検索結果」：検索結果を表示するかどうか、また表示する場合の表示データの設定を行います。

「取得する」チェックボックス：検索結果を取得しない／するの設定を行います。

「取得列」コンボボックス：取得する列を設定します。マスタファイル編集画面で設定したフィールド名を全て表示します。キー指定されているフィールドの場合は、フィールド名の先頭に『■』をつけて表示します。キー指定されていないフィールドの場合は、フィールド名の先頭に『　』(全角空白1文字)をつけて表示します。

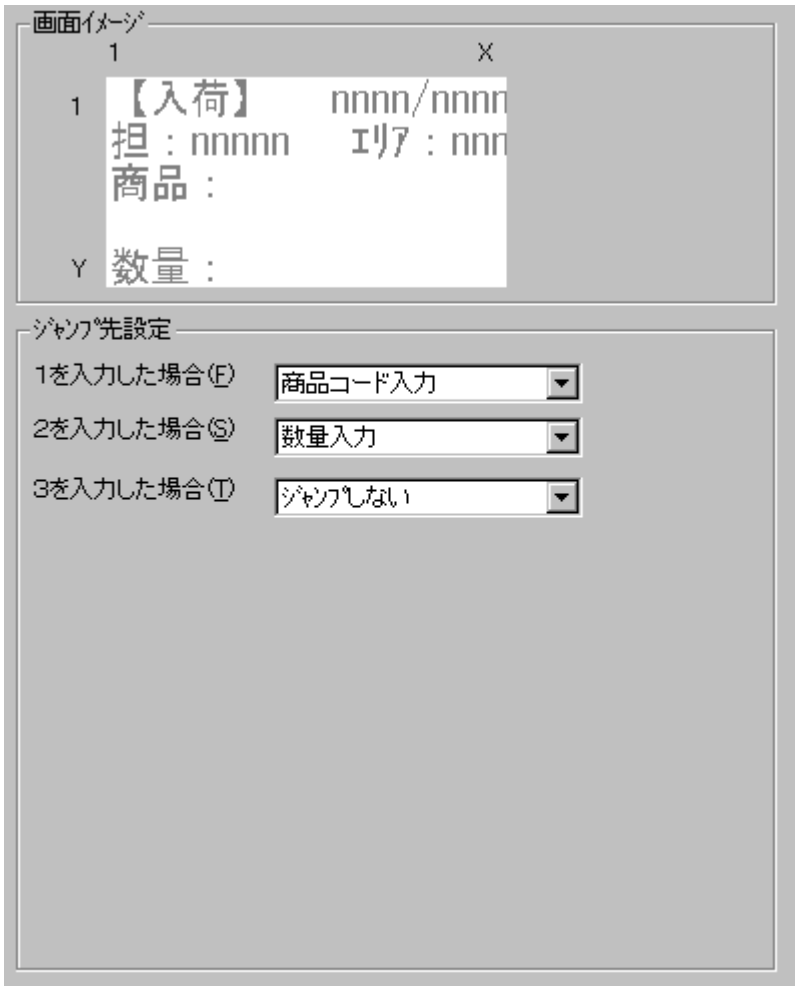
「桁数」エディットボックス：データの取得桁数を設定します。

「表示する」チェックボックス：取得データを表示しない／するかを設定します。

「位置(X,Y)」エディットボックス：検索表示データの表示開始位置を設定します。

10.1.5 「ｼﾞｬﾝﾌﾟ」項目の設定

「項目名」リストボックスで「ジャンプ」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。



「画面ｲﾒｰｼﾞ」：選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「ｼﾞｬﾝﾌﾟ先設定」：入力されたキーと対応するジャンプ先の項目名をコンボボックスより選択します。選択されている項目より上もしくは下の「画面更新」、「単純入力」、「ﾁｪｯｸ付入力」、「ﾏｽﾀ検索」、末尾の項目のみ表示され、選択できます。
ターミナルでは対応するキー以外が入力された場合、入力は無視されます。

10.1.6 末尾項目の設定

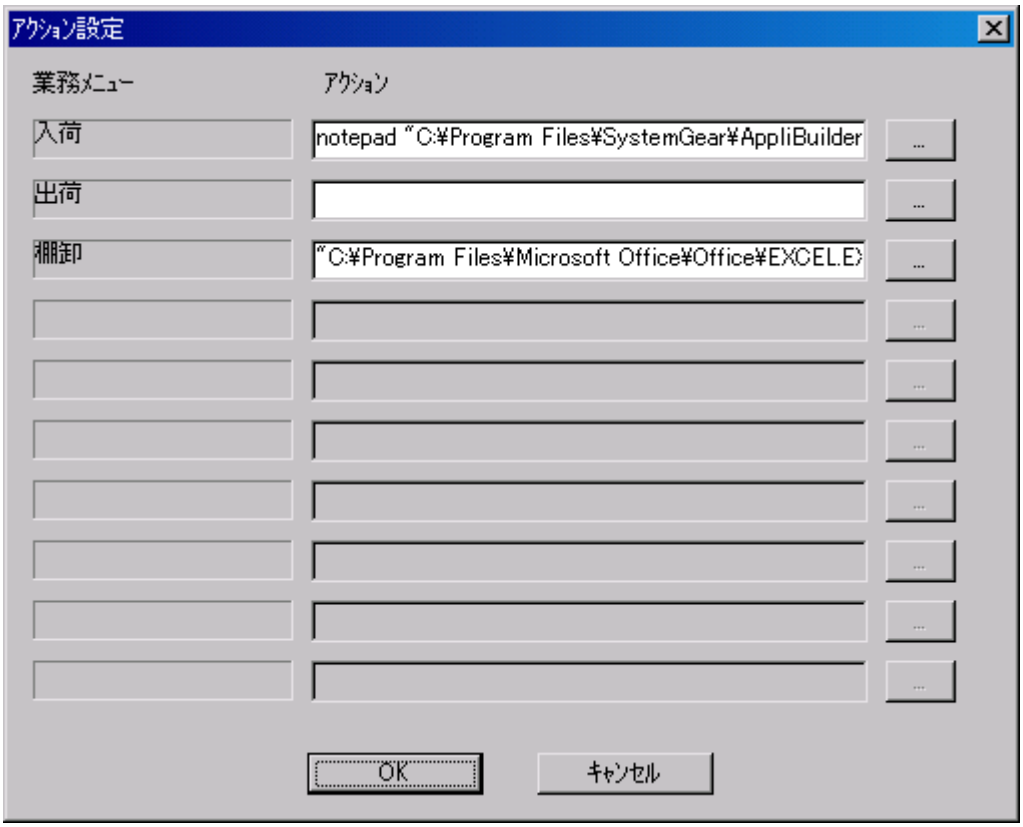
「項目名」リストボックスで「ｼﾞｬﾝﾌﾟ」の項目を選択すると、ダイアログ画面の右半分が以下の表示になります。

「画面ｲﾒｰｼﾞ」：選択されている項目でのターミナル上の画面イメージを表示します。

「ｼﾞｬﾝﾌﾟ先」：末尾まで操作が進んだときのジャンプ先の項目名をコンボボックスより選択します。「画面更新」、「単純入力」、「ﾁｪｯｸ付入力」、「ﾏｽﾀ検索」の項目のみ選択できます。

11 アクション設定を行う

メイン画面で「設定(C)」メニューの「ｱｸｼｮﾝ設定(C)」を選択すると、以下のアクション設定画面が表示されます。



アクション設定画面では、ターミナルデータを受信した後に実行するアクションを設定します。

「業務ﾒﾆｭｰ」：各業務メニュー名を表示します。

「ｱｸｼｮﾝ」エディットボックス：各業務メニューの入力データをターミナルから受信したときに、実行するアクションを設定します。
コマンドライン形式で設定します。実行プログラム名と各オプションの間にはスペースを入れて指定してください。実行プログラム名などにスペースが存在する場合は“(ダブルクォーテーション)で括ってください。

「…」ボタン：クリックすると、実行プログラム選択画面が表示されます。実行プログラムを選択すると、「ｱｸｼｮﾝ」エディットボックスに反映されて入力されます。

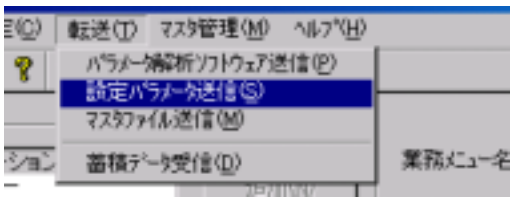
「OK」ボタン：クリックすると、アクション設定を反映してメイン画面に戻ります。

「ｷｬﾝｾﾙ」ボタン：クリックすると、アクション設定を反映せずにメイン画面に戻ります。

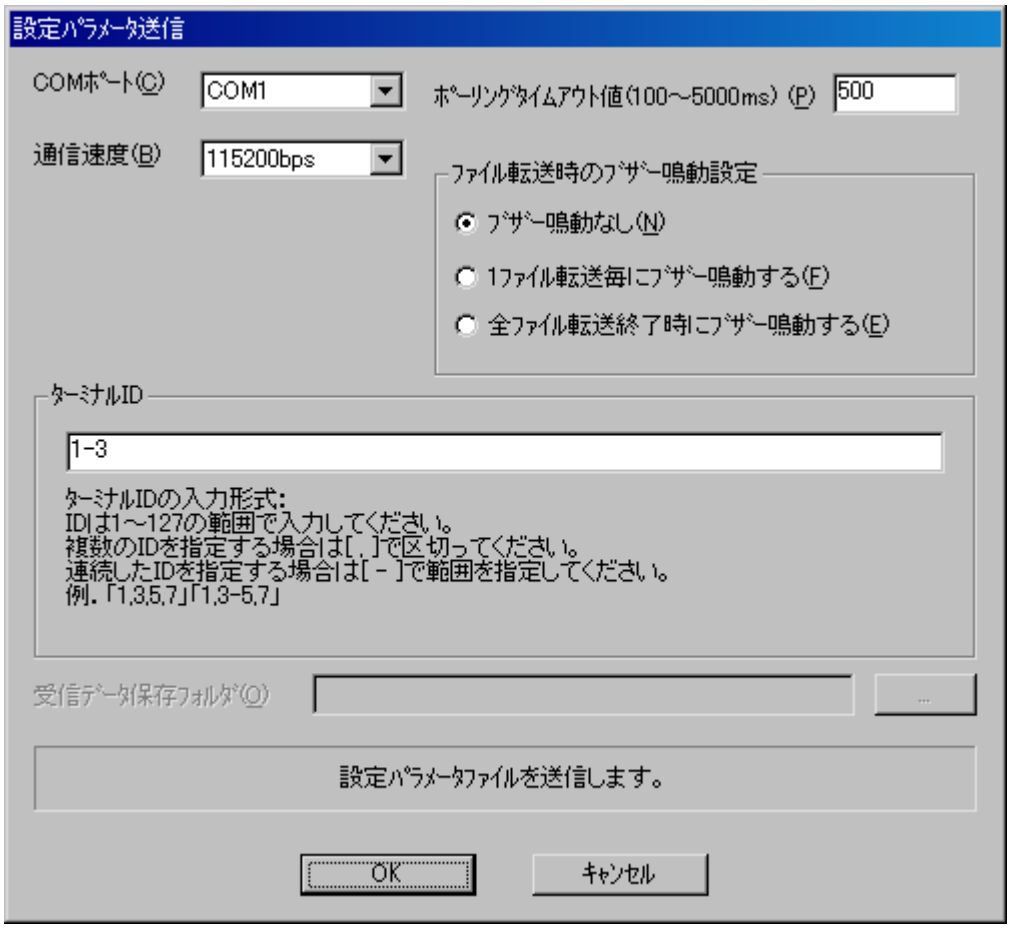
12 パラメータファイルを送信する

12.1 PCからパラメータファイルを送信する

メイン画面で「転送(T)」メニューの「設定パラメータ送信(S)」を選択します。



以下のような設定パラメータ送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。

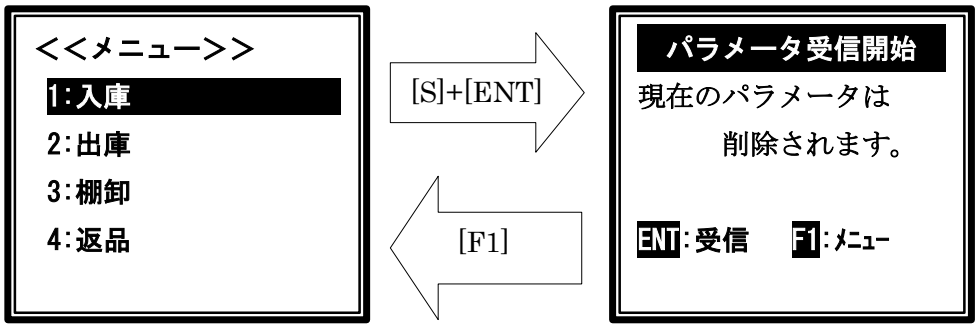


「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

12.2 ターミナルでパラメータファイルを受信する

12.2.1 設定パラメータ受信

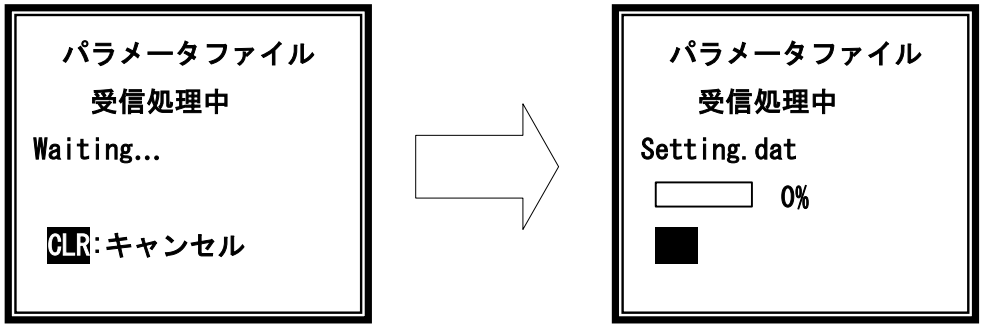
メニュー画面で[S]+[ENT]を押下することにより、設定パラメータ受信画面へ移行します。



※　[F1]の場合、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

※　[ENT]を押下することにより設定パラメータファイル受信を開始します。

(1)受信開始

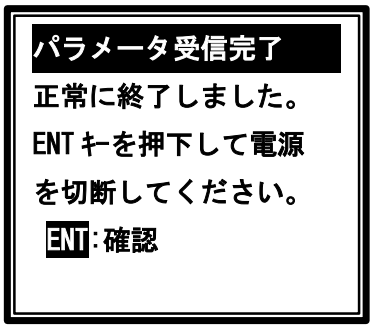


※ 設定パラメータ受信の通信速度は、ターミナルで設定されている通信速度となります。

※ 設定パラメータ受信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終了した場合、パラメータ受信異常画面へ移行します。

(2)正常終了受信開始

設定パラメータファイルを正常受信した場合、以下の画面が表示されます。



※ [ENT]を押下することにより,電源が切断されますので、電源切断後再起動してください。

(3)パラメータ受信異常画面

設定パラメータファイル受信を異常終了した場合、以下の画面を表示します。

※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。(エラーNo.は、「19.2 エラー詳細」を参照してください)

■ 受信([ENT]押下)

受信開始へ移行します。

■ 終了([F1]押下)

パラメータ解析ソフトウェアを停止し、電源を切断します。

12.2.2 設定パラメータ論理チェック

設定パラメータファイル情報に設定されている情報の論理チェックを行います。

(1) バージョンチェック

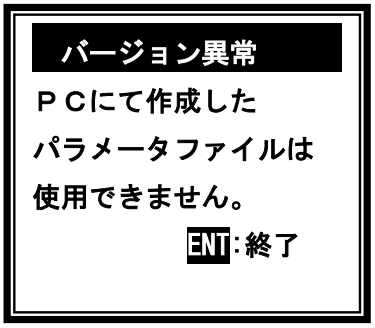
ターミナルソフトウェアバージョンとPCで設定された設定パラメータバージョンが一致するかの確認を行います。

① 正常の場合

設定値チェックへ移行します。

② 異常の場合

バージョン異常画面を表示します。



■ 終了(ENT押下)

パラメータファイルを削除後、ターミナルの電源を切断します。

(2) 設定値チェック

ターミナルソフトウェアバージョンとPCで設定された値が正常値であるかの確認を行います。

① 正常の場合

起動画面へ移行します。

② 異常の場合

バージョン異常画面を表示します。

※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。

(エラーNo.は、「19.2 エラー詳細」を参照してください)

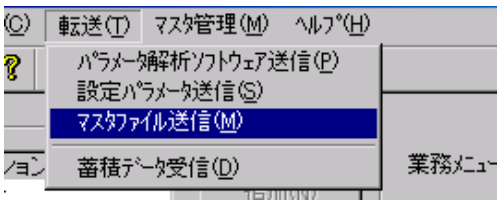
■ 終了(ENT押下)

パラメータファイルを削除後、ターミナルの電源を切断します。

13 マスタファイルを送信する

13.1 PCからマスタファイルを送信する

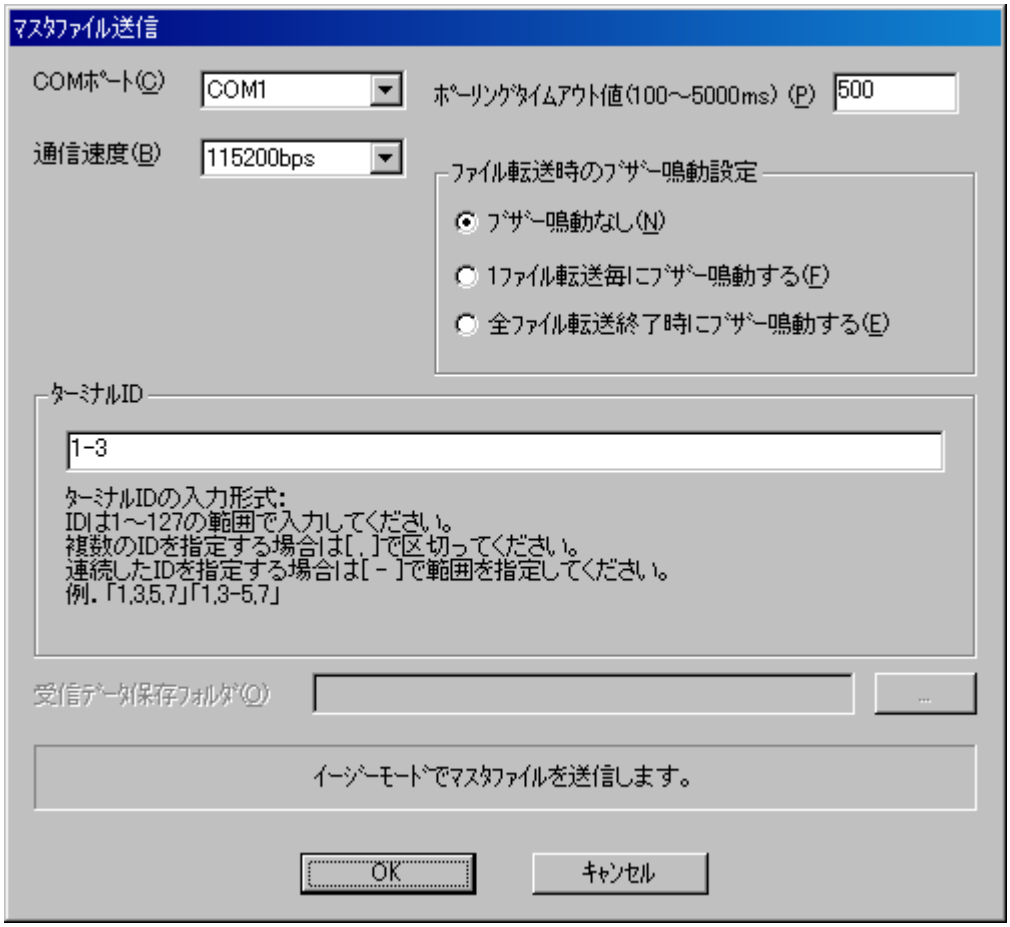
メイン画面で「転送(T)」メニューの「ﾏｽﾀﾌｧｲﾙ送信(M)」を選択します。



アプリケーション画面で設定した転送方式に対応した転送画面が表示されます。

13.1.1 RS-232C による転送(イージーモード)

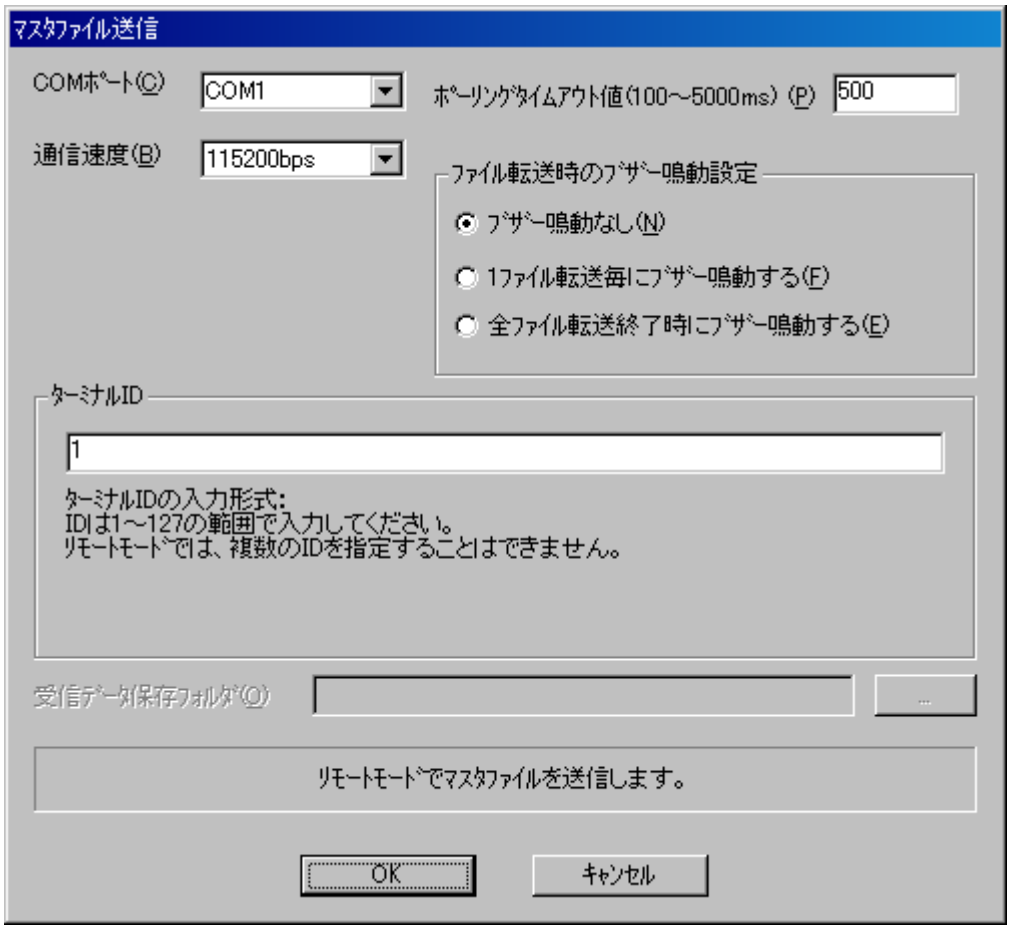
アプリケーション画面で転送方式を「RS-232C」に、マスタファイル設定画面で転送モードを「イージーモード」に設定している場合、以下のようなマスタファイル送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。



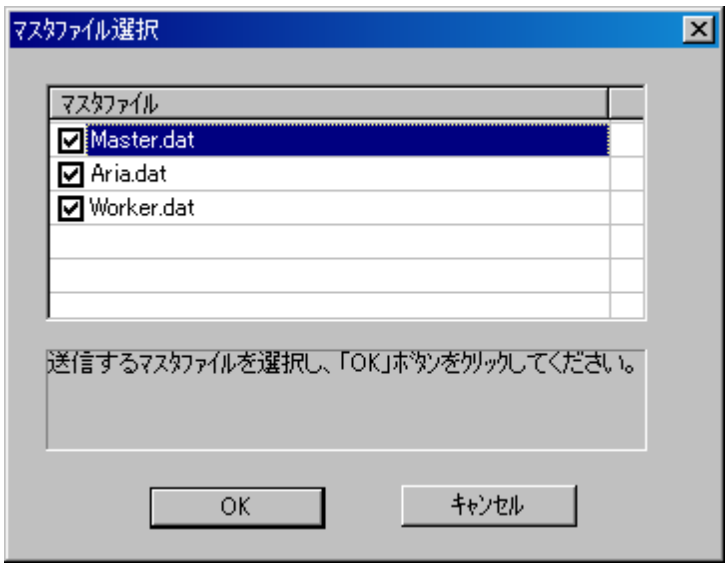
「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

13.1.2 RS-232C による転送(リモートモード)

アプリケーション画面で転送方式を「RS-232C」に、マスタファイル設定画面で転送モードを「リモートモード」に設定している場合、以下のようなマスタファイル送信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。



「OK」ボタンクリック後、ターミナルからマスタファイル情報が取得され、マスタファイル選択画面に表示されます。転送を行いたくないマスタファイルがあれば、チェックをはずします。

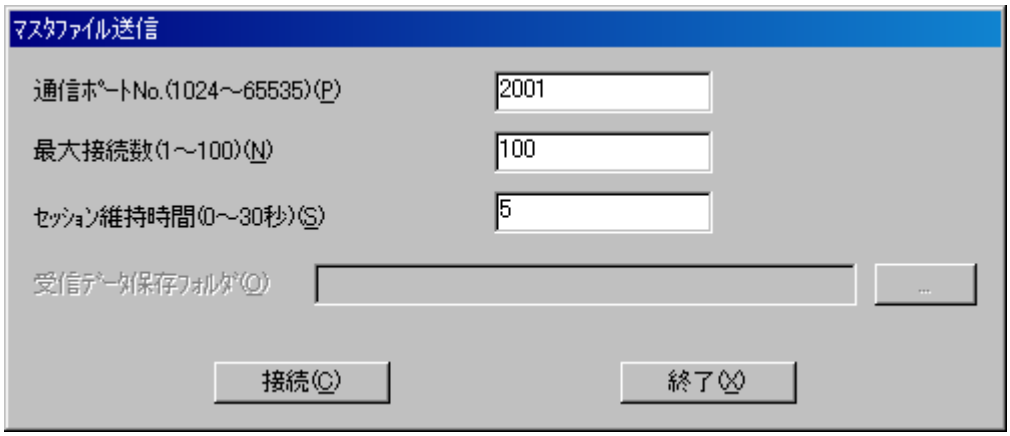


「OK」ボタンをクリックすると、転送画面に戻り、転送処理が開始されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、送信中止確認メッセージが表示されます。

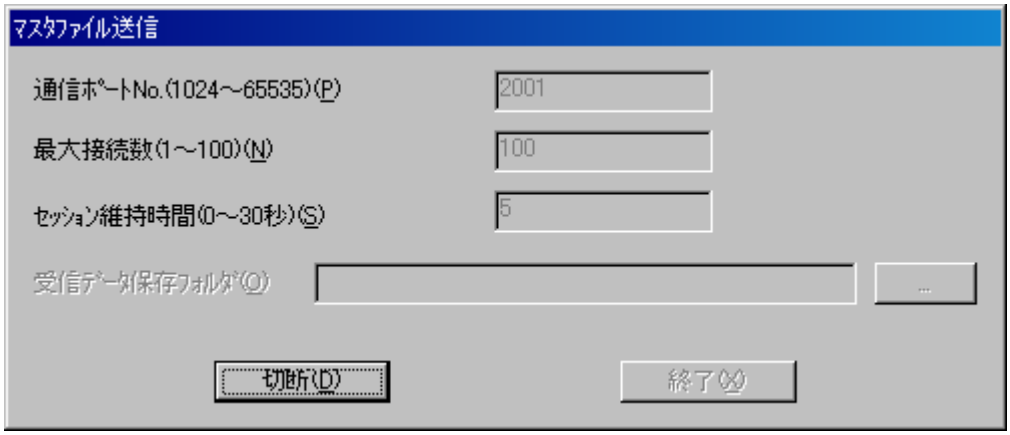
「はい」をクリックすると、転送が中止され、メイン画面に戻ります。
「いいえ」をクリックすると、マスタファイル選択画面に戻ります。

13.1.3 LAN による転送

アプリケーション画面で転送方式を「LAN」に設定している場合、以下のようなマスタファイル送信画面が表示されますので、転送設定を行い「接続」ボタンをクリックしてください。



「接続」ボタンが「切断」ボタンに変わり、ターミナルからの通信接続待ち状態となります。
ターミナルからの要求により、ファイルの転送を行います。
この状態の時には、「終了」ボタンは無効状態となり、画面を終了することはできません。

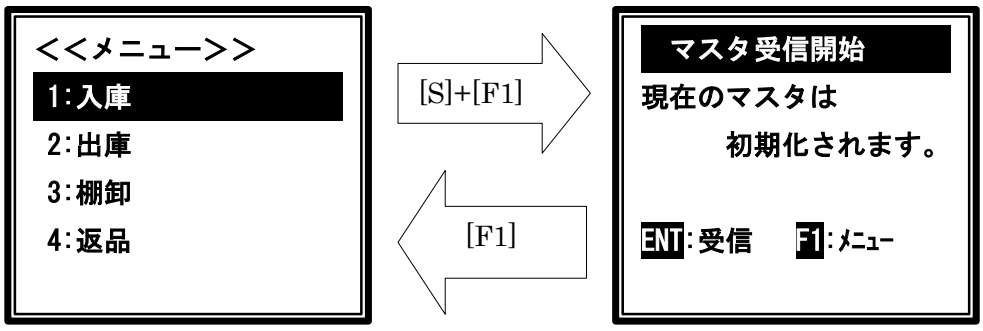


「切断」ボタンをクリックすると、ターミナルからの通信接続待ち状態をクローズし、画面を終了できるようにします。

※　LAN 転送の場合は、PC 側で転送終了が判断できません。ターミナルの画面で確認後切断してください。

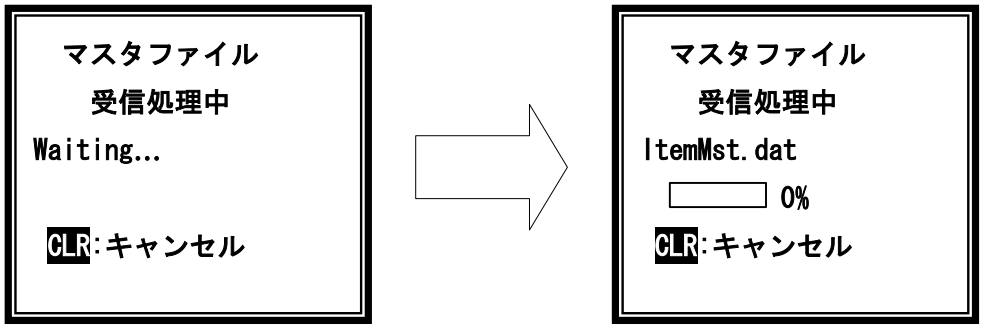
13.2 ターミナルでマスタファイルを受信する

メニュー画面で[S]+[F1]を押下することにより、マスタファイル受信画面へ移行します。



※　[F1]の場合、キャンセルされメニュー画面へ移行します。
※　[ENT]を押下することにより設定パラメータファイル受信を開始します。

(1)受信開始



※ マスタファイル受信の通信速度は、ターミナルに設定されている通信速度となります。
※ 設定パラメータ受信が正常終了した場合、メニュー画面へ移行します。
※ マスタファイル受信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終了した場合、マスタ受信異常画面へ移行します。
※ LAN を使用する場合は、パソコン側を先に接続状態にしてください。

(2)マスタ受信異常画面

マスタファイル受信を異常終了した場合、以下の画面を表示します。

※ エラーNo.は異常の原因によって変化します。
（エラーNo.は、「19.2 エラー詳細」を参照してください）

■ 受信([ENT]押下)
受信開始へ移行します。

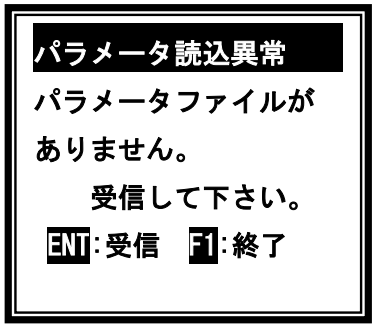
■ 終了([F1]押下)
メニュー画面へ移行します。

14 ターミナルを起動する

ターミナルの[PW]を押下することによりパラメータ解析ソフトウェアが起動します。

※　初期化処理を行います。終了次第自動的に画面が切替ります。

設定パラメータファイルがターミナルに存在しない場合、以下のメッセージを表示し設定パラメータの受信を促します。



※　設定パラメータファイルが壊れている場合にも、同じメッセージが表示されます。
※　設定パラメータファイルが正常な場合、設定パラメータ論理チェックへ移行します。

■　受信（ENT押下）
　設定パラメータの受信を行います。
■　終了（F1押下）
　パラメータ解析ソフトウェアを停止し、電源を切断します。

15 ターミナルを操作する

15.1 起動画面

設定パラメータで設定されている起動画面情報を2秒間表示し、自動的にメニュー画面へ移行します。

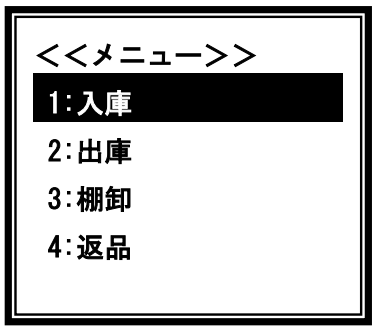
※　設定パラメータファイル内の起動画面設定を表示有りにしている場合に表示します。
※　表示内容は、設定パラメータファイル内容を表示します。

15.2 メニュー画面

メニュー画面が立ちあがります。
設定パラメータファイル内の設定内容をもとに表示します。

（横並表示）

（縦並表示）



※　選択されているところを反転表示します。
※　送信・削除は、設定されたメニュー項目の最後に追加されます。
※　[S1]/[S2]キーにて選択項目の移動が可能です。
※　上記画面の説明は、「入庫」・「出庫」・「棚卸」・「返品」・「廃棄」・「照合」が設定されいる場合です。

15.3 メニュー選択

メニュー画面からキー操作により、各機能への移行が可能です。

選択可能な補足機能は次の通りです。

- ■ ターミナルID設定
- ■ システム日付・時間設定
- ■ 各バージョン表示
- ■ 通信速度設定
- ■ ファイルシステム表示
- ■ コントラスト調整
- ■ 設定パラメータファイル受信
- ■ マスターファイル受信
- ■ 電源切断

※　選択されている項目のところで、[ENT]キー押下により選択が可能です。

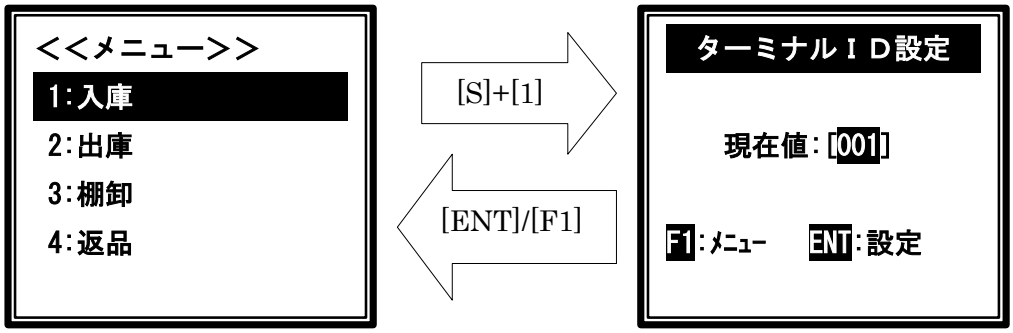
※　直接、項目№を入力することにより、選択可能です。

※　直接入力する場合には、[1]～[9]/[0]/[・]/[F4]となります。

15.3.1 ターミナルID設定

メニュー画面で[S]+[1]を押下することにより、ターミナルID設定画面へ移行します。

ターミナルIDは、ターミナルを識別するために割り当てる番号です。



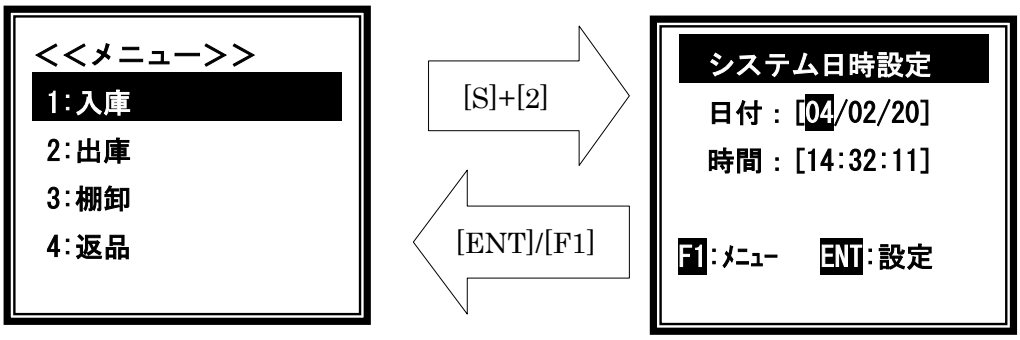
※　[S1]・[S2]でターミナル ID の変更が可能です。

※　確定は[ENT]にて反映されます。

※　[F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

15.3.2 システム日付・時間設定

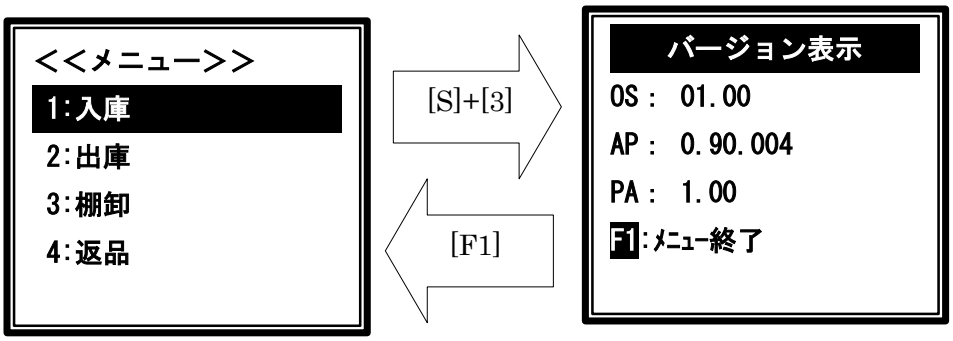
メニュー画面で[S]+[2]を押下することにより、ターミナル内のシステム日付・時間設定画面へ移行します。



※　[F2]・[F3]で変更する項目が選択可能です。
※　[S1]・[S2]でターミナル項目の変更が可能です。
※　確定は[ENT]にて反映されます。
※　[F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

15.3.3 各バージョン表示

メニュー画面で[S]+[3]を押下することにより、各バージョン表示画面へ移行します。

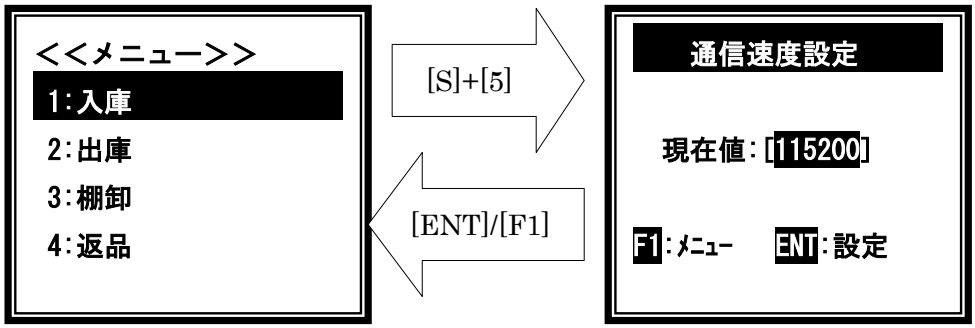


※　[F1]でメニュー画面へ移行します。
※　OS は OS バージョン、AP はアプリケーションバージョン、
　　PA は設定パラメータバージョンです。

15.3.4 通信速度設定

メニュー画面で[S]+[5]を押下することにより、ターミナルID設定画面へ移行します。

ターミナルIDは、ターミナルを識別するために割り当てる番号です。



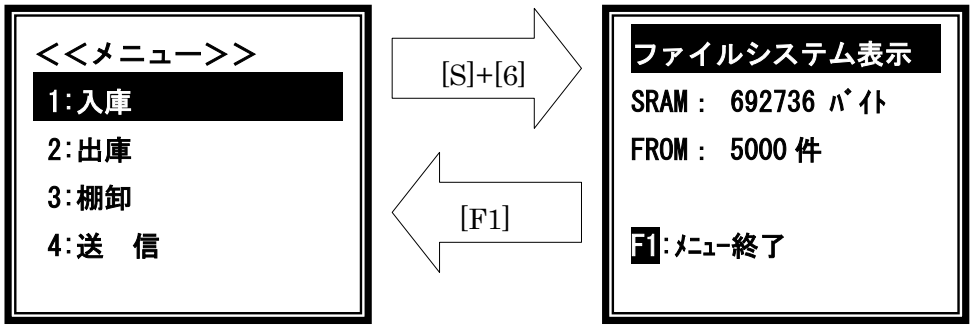
※　[S1]・[S2]で通信速度の変更が可能です。

※　確定は[ENT]にて反映されます。

※　[F1]の場合は、キャンセルされメニュー画面へ移行します。

15.3.5 ファイルシステム表示

メニュー画面で[S]+[6]を押下することにより、ファイルシステム表示画面へ移行します。



※　[F1]でメニュー画面へ移行します。

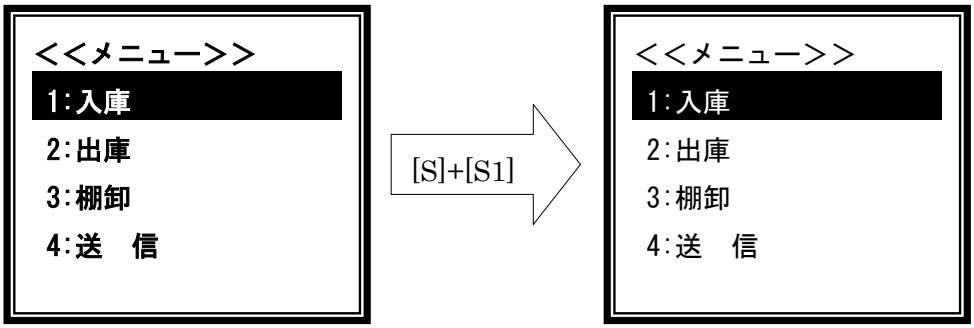
※　SRAM は、残り入力可能サイズです。

※　FROM はマスターファイルにおける追加可能件数です。

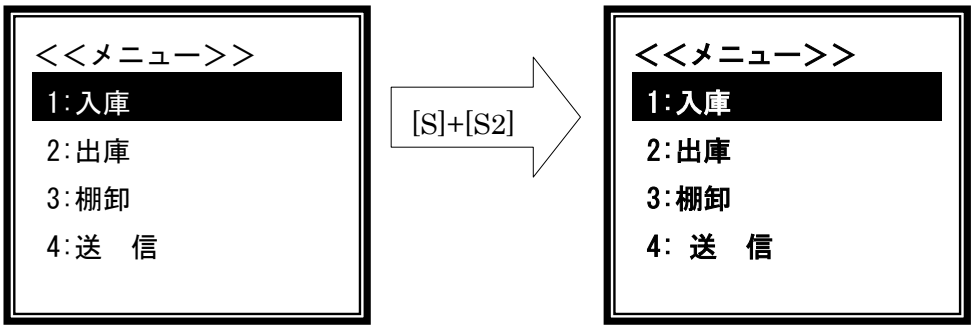
15.3.6 コントラスト調整

メニュー画面で[S]+[S1]又は[S]+[S2]を押下することにより、画面のコントラストの調整が行えます。

(1) 薄く



(2) 濃く



※　調整は7段階あります。

15.4 業務入力機能

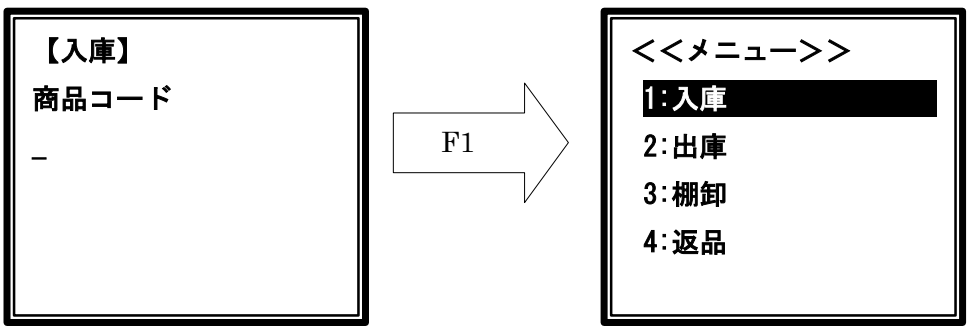
15.4.1 ファンクションキー機能(入力モード)

(1) キー一覧:各キーの機能と注意事項について説明します。

キー	通常入力	備考
F1	メニューへ移行	メニューへ移行します。
F2	無効	無効キーとして無視します。
F3	無効	無効キーとして無視します。
F4	入力項目戻り	1項目戻ります。(戻り先の入力データは削除されます)
F5	メニューへ移行	F1 キーと同じです。
F6	無効	F2 キーと同じです。
F7	無効	F3 キーと同じです。
F8	入力項目戻り	F4 キーと同じです。
S1	参照モード移行	参照モードへ移行します。(最後のデータから表示)
S2	参照モード移行	参照モードへ移行します。(最初のデータから表示)
TRG	トリガキー	バーコード読取できます。
0～9	テンキー	単純入力・チェック付入力・ジャンプ時に使用します。
.	ドット	単純入力・チェック付入力時にマイナス(-)入力として使用します。
ENT	確定キー	キー入力を確定します。
S	シフトキー	数字・英字入力の切替えを行います。
CLR	クリアキー	入力中の項目をクリアします。
BS	バックスペース	入力中の文字を1文字クリアします。
PW	電源キー	ターミナルの電源を切断します。

(2) 各キーの機能

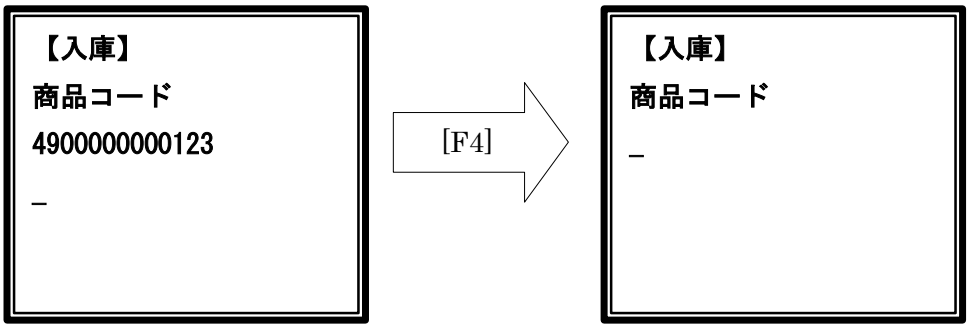
■ [F1]キー:メニューへ移行します。



現在処理している業務を終了して、メニューに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

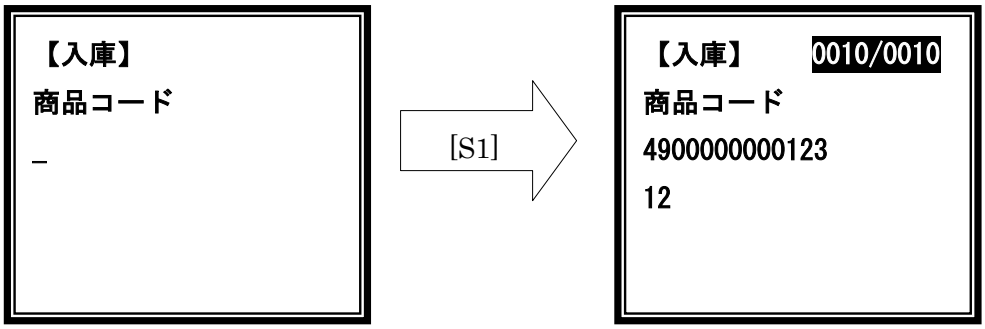
■ [F2]/[F3]/[F5]/[F6]/[F7]/[F8]キー：無効キーとして無視します。
画面は変化しません。

■ [F4]キー：1項目戻ります。（戻り先の入力データは削除されます）



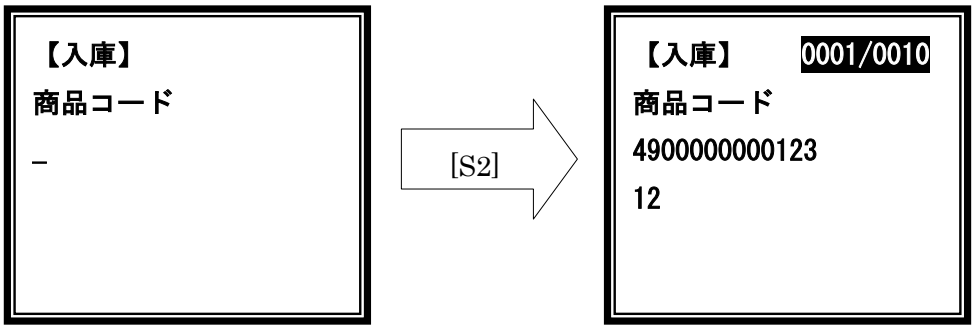
現在の入力を中断し、1項目前の入力項目に移行します。（入力途中は無効キーとなります）
※ 最初の入力項目の場合、無効キーとして無視します。

■ [S1]キー：参照モードへ移行します。（最後のデータから表示）
入力済みのデータを参照する、参照モードに移行します。（入力途中は無効キーとなります）



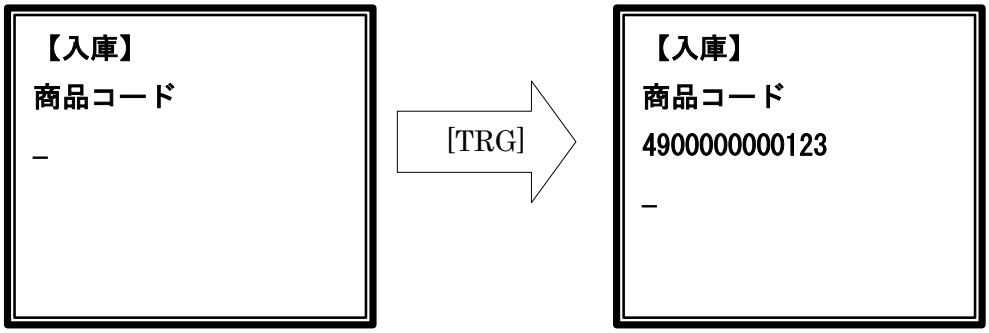
表示データは最後に入力した情報となります。

■ [S2]キー：参照モードへ移行します。（最初のデータから表示）
入力済みのデータを参照する、参照モードに移行します。（入力途中は無効キーとなります）



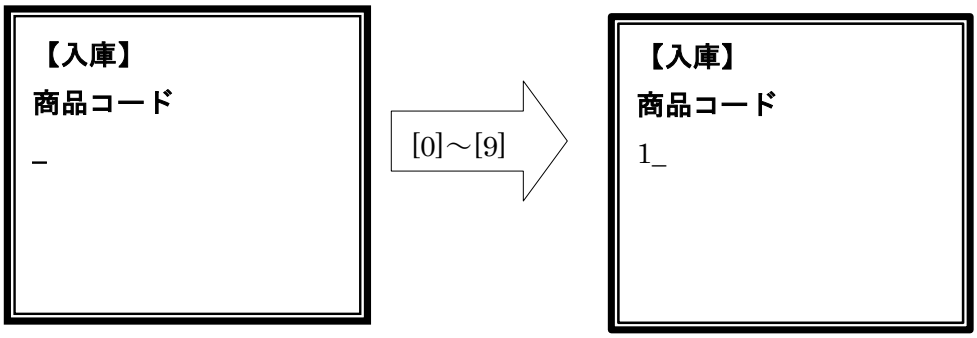
表示データは最初に入力した情報となります。

■ [TRG]キー:バーコード読取時に、バーコード読取が可能となります。
バーコード読取許可設定でキー入力が未入力の場合、レーザーを5秒間発光しバーコード読取が可能になります。読取後、次の処理へ移行します。



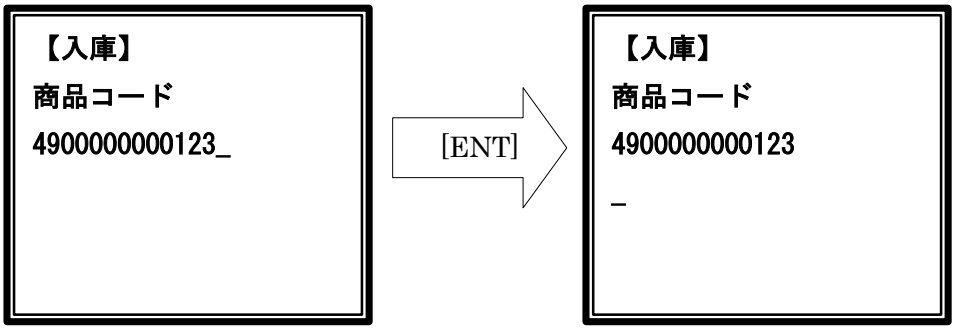
※ バーコード読取禁止設定されている場合、無効キーとして無視します。
※ キー入力で1文字以上入力されている場合、無効キーとして無視します。

■ [0]～[9] テンキー:単純入力・チェック付入力・ジャンプ時に使用します。
数値入力を行います。



※ 入力桁数を超えて入力した場合、無効キーとして無視します。

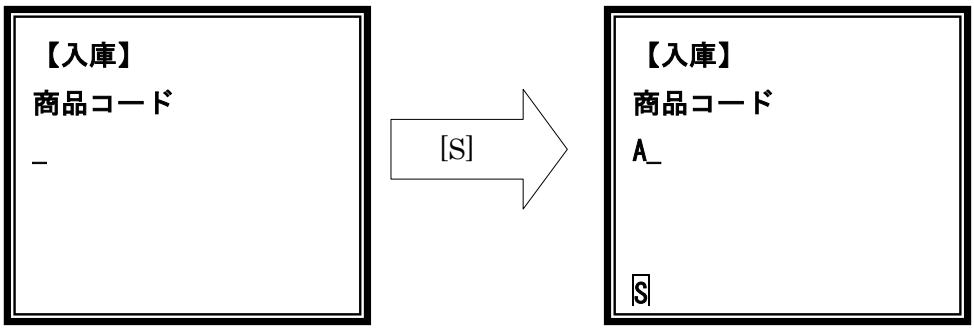
■ [ENT]キー:キー入力を確定します。
入力済みのデータを確定し次の処理へ移行します。



※ 未入力の場合、無効キーとして無視します。

■ [S]キー：数字・英字入力の切替えを行います。

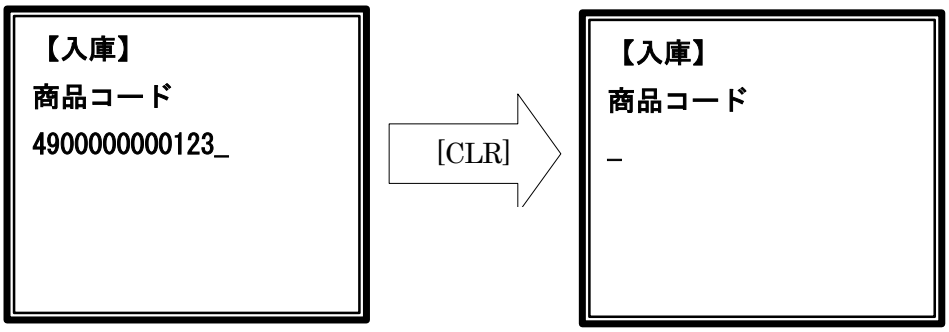
入力型設定で文字入力の場合、[S]キーを押下すると画面左下に[S]が表示され英字モードになり、再度押下すると[S]が消去され数字モードになります。



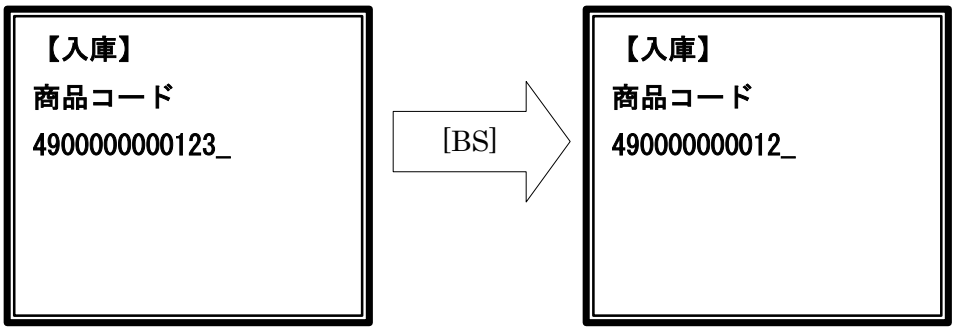
※ 入力型設定で数字入力の場合、無効キーとして無視します。

※ 英字入力は、数字キーを押下する毎に、その数字キーに割当られている英字あるいは記号が順次表示されます。文字を確定する場合、[ENT]キーにて確定して頂くか別のキーを押下することで確定します。

■ [CLR]キー：入力中の文字を全てクリアします。

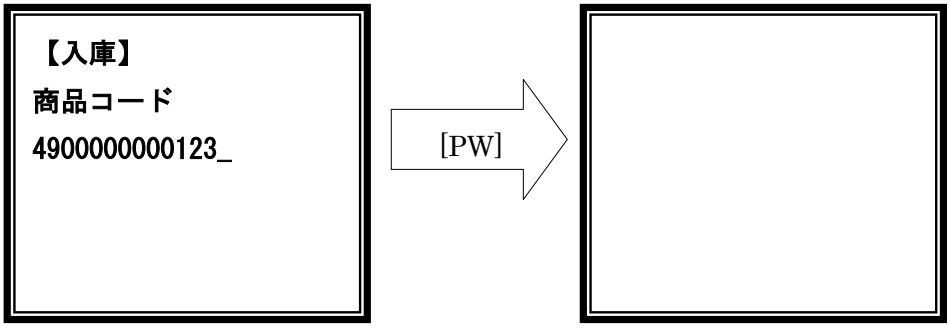


■ [BS]キー：入力中の文字を1文字クリアします。



※ 未入力の場合、無効キーとして無視します。

■ [PW]キー:ターミナルの電源を切断します。



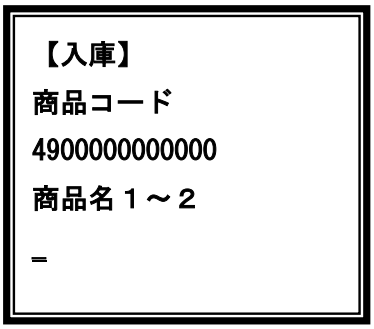
※ 次回電源投入時の起動は、レジューム設定に従います。

(3) マスタ照合機能

マスタファイルとの照合を行います。

■ 照合結果:一致データ有り

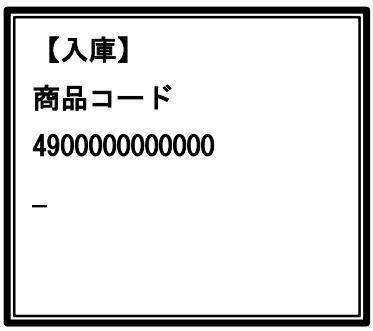
①照合結果の表示設定有り



※ 指定位置に照合結果データを表示し次の処理へ移行します。

※ 上記例はマスタ照合の次の処理が入力の場合です。

②照合結果の表示設定無し

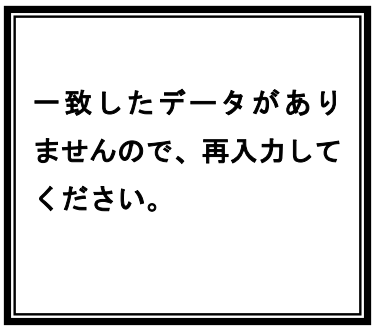


※ 指定位置に照合結果データを表示せずに次の処理へ移行します。

※ 上記例はマスタ照合の次の処理が入力の場合です。

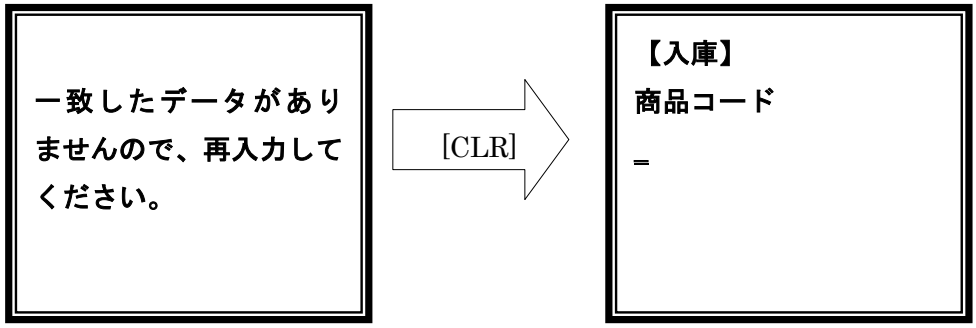
■ 照合結果:一致データ無し

一致したデータが無いメッセージを表示します。



※ 表示内容は、パラメータ設定内容に従います。

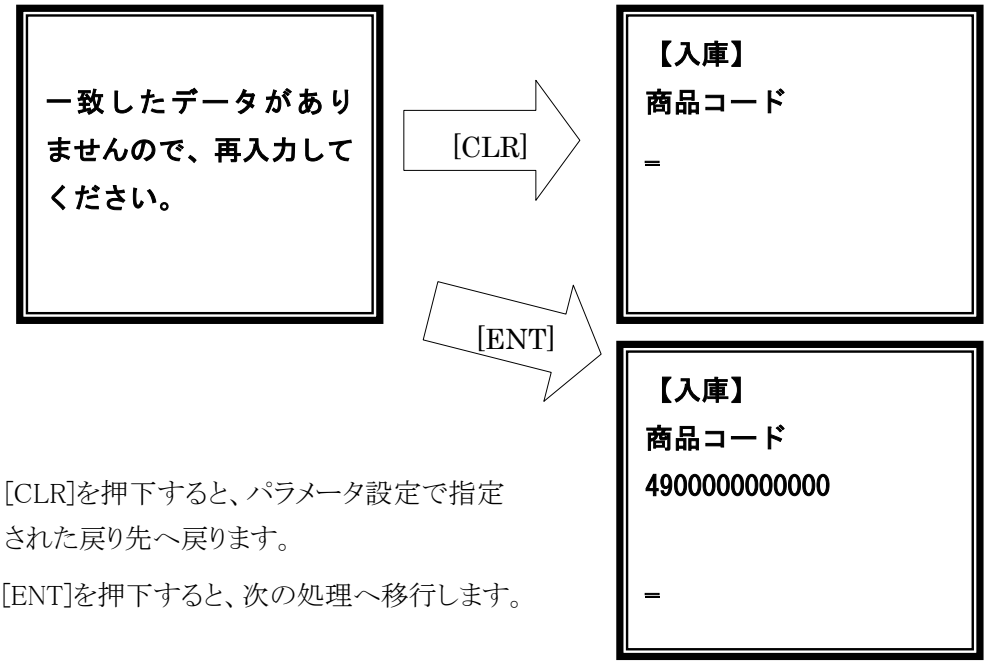
① 警告動作設定無し



※ [CLR]を押下することで、パラメータ設定で指定された戻り先へ戻ります。

※ 上記例は再度商品コード入力へ移行する場合です。

② 警告動作設定有り

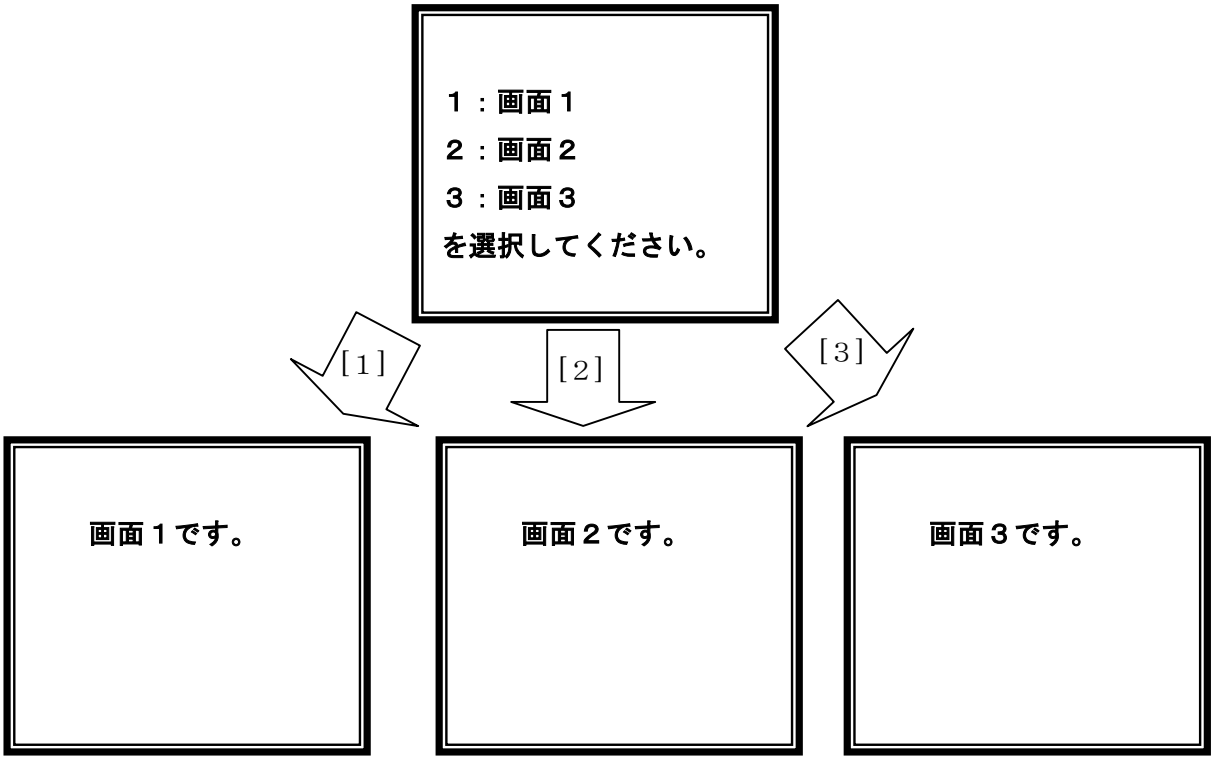


※ [CLR]を押下すると、パラメータ設定で指定された戻り先へ戻ります。

※ [ENT]を押下すると、次の処理へ移行します。

(3) キー分岐機能

キー入力による分岐を行います。



※ [1]～[3]を押下することで、パラメータ設定で指定された処理へ移行します。

※ 上記例は画面更新へ移行する場合です。

(4) チェック付き入力機能

キー入力時に範囲チェックを行うことができます。

※ 設定パタメータ設定で、チェック付入力を選択することによりチェック付き入力が行えます。

※ 比較データ項目が定数の場合、実際に入力されたデータを入力範囲設定（上限～下限）でチェックを行います。

入力データ ＝ 入力設定範囲　　⇒ ジャンプ先（＝）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＞ 入力設定範囲　　⇒ ジャンプ先（＞）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＜ 入力設定範囲　　⇒ ジャンプ先（＜）で指定した項目へジャンプする。

※ 比較データ項目が入力済データとして単純入力・チェック付入力の場合、入力済データとのチェックを行います。

入力データ ＝ 入力済データ　　⇒ ジャンプ先（＝）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＞ 入力済データ　　⇒ ジャンプ先（＞）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＜ 入力済データ　　⇒ ジャンプ先（＜）で指定した項目へジャンプする。

※ 比較データ項目が入力済データとして「マスタ検索」で取得した検索結果の場合、マスタ検索で取得した情報とチェックを行います。

入力データ ＝ マスタ検索データ　⇒ ジャンプ先（＝）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＞ マスタ検索データ　⇒ ジャンプ先（＞）で指定した項目へジャンプする。
入力データ ＜ マスタ検索データ　⇒ ジャンプ先（＜）で指定した項目へジャンプする。

15.4.2 ファンクションキー機能(参照モード)

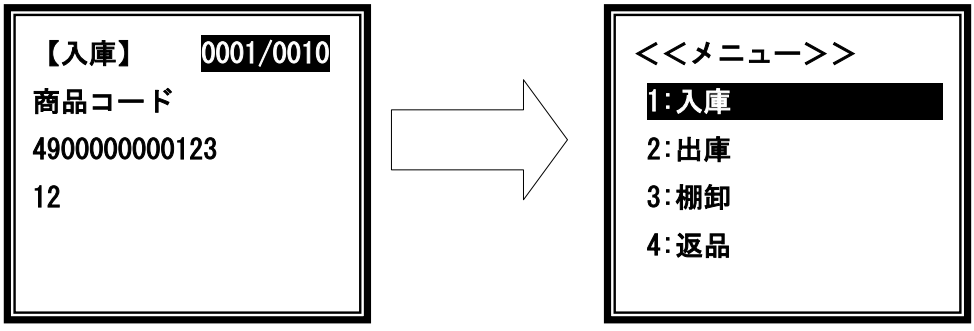
入力モードから[S1]/[S2]キーを押下することにより参照モードへ移行し、既に入力されている情報の参照及び、削除を行うことができます。

(1)キー一覧:各キーの機能と注意事項について説明します。

キー	参照モード	備考
F1	メニューへ移行	メニューへ移行します。
F2	前画面切替	複数画面が有る場合、前画面の表示を行います。
F3	次画面切替	複数画面が有る場合、次画面の表示を行います。
F4	削除	参照データを削除します。
F5	メニューへ移行	F1 キーと同じです。
F6	無効	F2 キーと同じです。
F7	無効	F3 キーと同じです。
F8	削除	F4 キーと同じです。
S1	前レコードデータ参照	前のレコードデータの表示を行います。
S2	次レコードデータ参照	次のレコードデータの表示を行います。
TRG	トリガキー	無効キーとして無視します。
0～9	テンキー	無効キーとして無視します。
ENT	確定キー	無効キーとして無視します。
S	シフトキー	無効キーとして無視します。
CLR	クリアキー	無効キーとして無視します。
BS	バックスペース	無効キーとして無視します。
PW	電源キー	ターミナルの電源を切断します。

(2) 各キーの機能

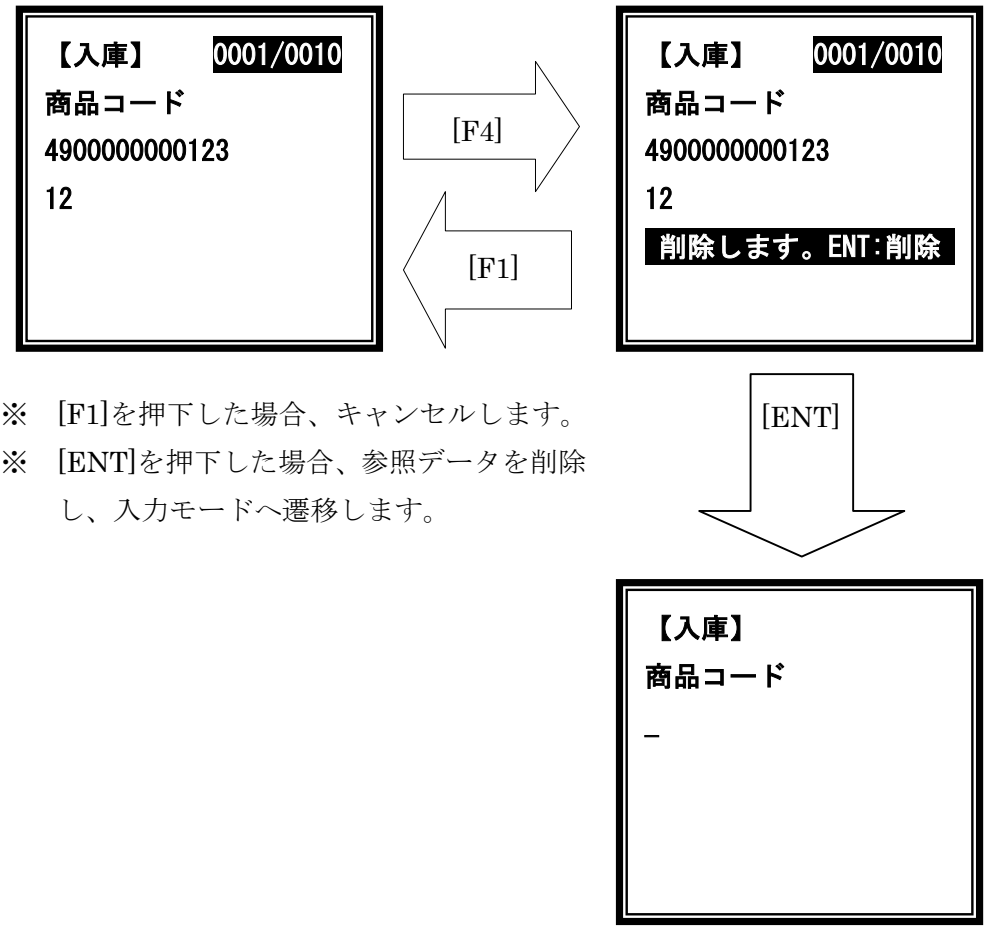
■ [F1]キー:メニューへ移行します。



現在処理している業務を終了して、メニューに移行します。(入力途中は無効キーとなります)

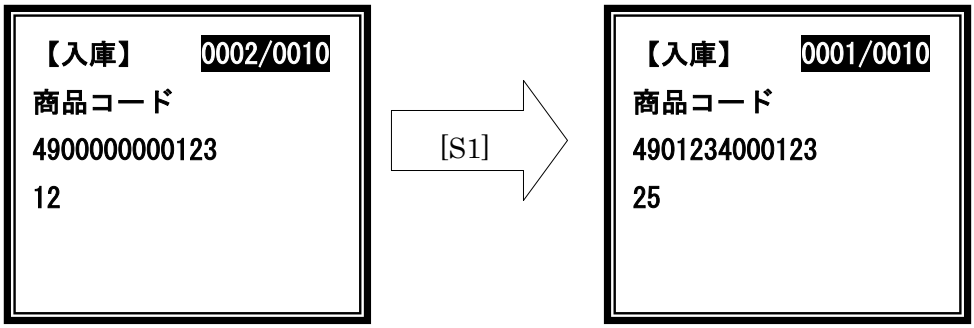
■　[F5]/[F6]/[F7] /[F8] /[TRG] /[0～9] /[ENT] /[S] /[CLR] /[BS]キー
:無効キーとして無視します。
画面は変化しません。

■ [F4]キー:参照データを削除します。
現在参照しているデータを削除します。

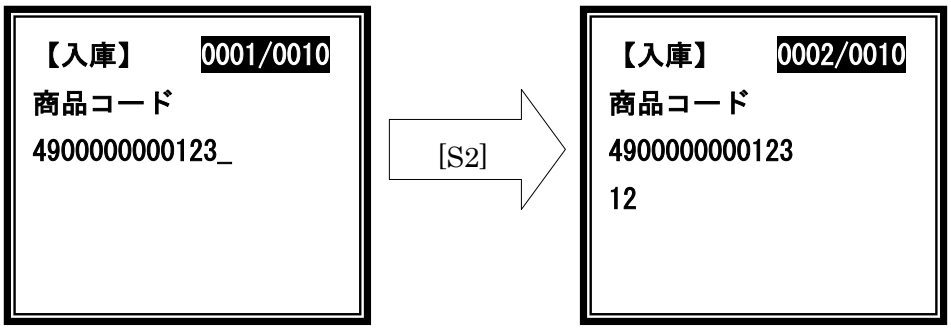


※　[F1]を押下した場合、キャンセルします。
※　[ENT]を押下した場合、参照データを削除し、入力モードへ遷移します。

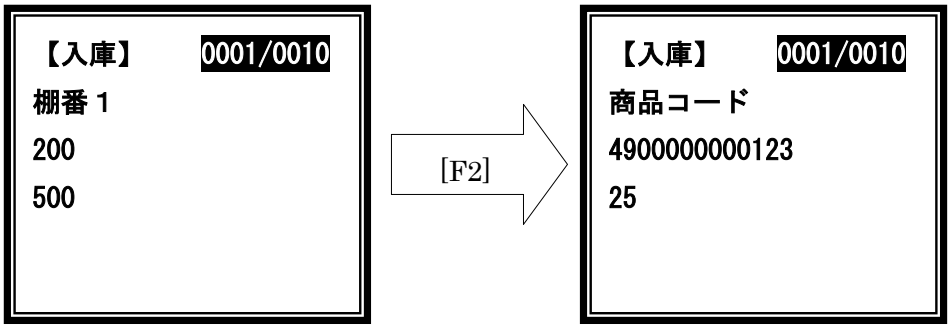
■ [S1]キー:前レコードデータの表示を行います。



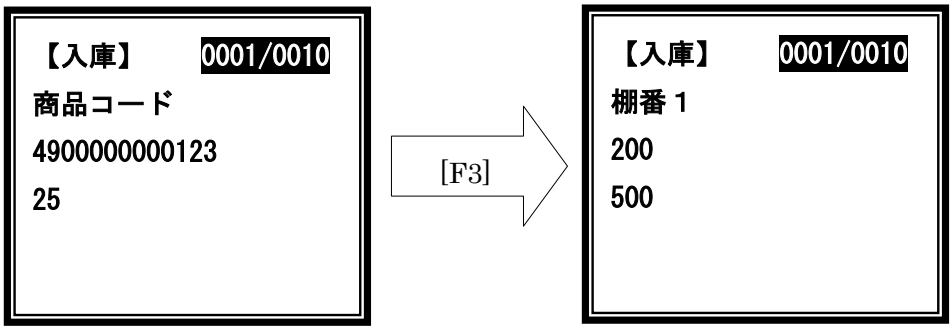
■ [S2]キー：次レコードデータの表示を行います。



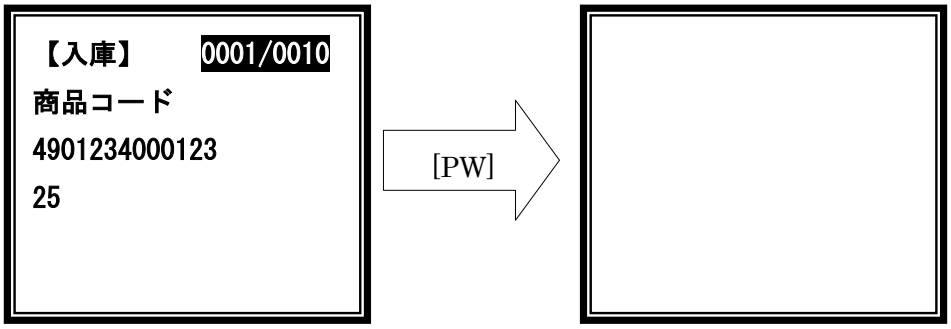
■ [F2]キー：前画面データの表示を行います。



■ [F3]キー：次画面データの表示を行います。



■ [PW]キー：ターミナルの電源を切断します。



※　次回電源投入時の起動はレジューム設定に従います。

15.5 蓄積データファイルフォーマット

本アプリケーションでは、入力項目（単純入力・チェック付入力）を蓄積データファイルに記録します。
記録方法としては、CSV 形式と固定長方式があります。
付加情報に関しては、パラメータ設定におけるメイン画面のデータ編集方法設定で指定します。

15.5.1 CSV 形式

データ・付加情報をカンマ区切で記録します。
データは、実際に入力された桁数で記録します。

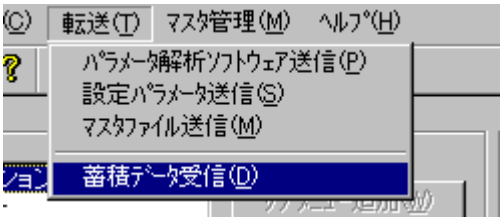
15.5.2 固定長形式

データを固定長で記録します。
固定長の場合には、左詰め・右詰めをメイン画面のデータ編集方法設定で指定します。
データは、パラメータ設定における項目設定画面内の入力形式の桁数で記録します。
入力されたデータが桁数以下の場合、空白で埋めます。

16 蓄積データを受信する

16.1 PCで蓄積データを受信する

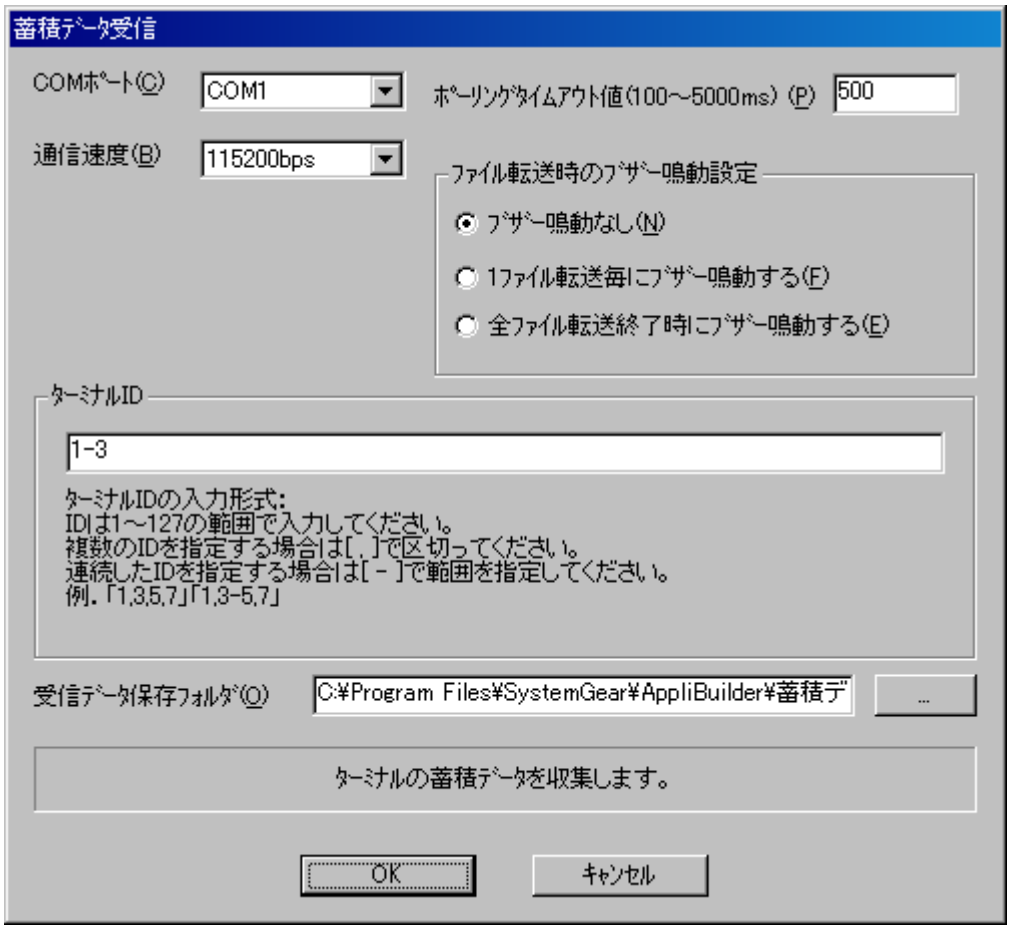
メイン画面で「転送(T)」メニューの「蓄積ﾃﾞｰﾀ受信(D)」を選択します。



アプリケーション画面で設定した転送方式に対応した転送画面が表示されます。

16.1.1 RS-232C による転送

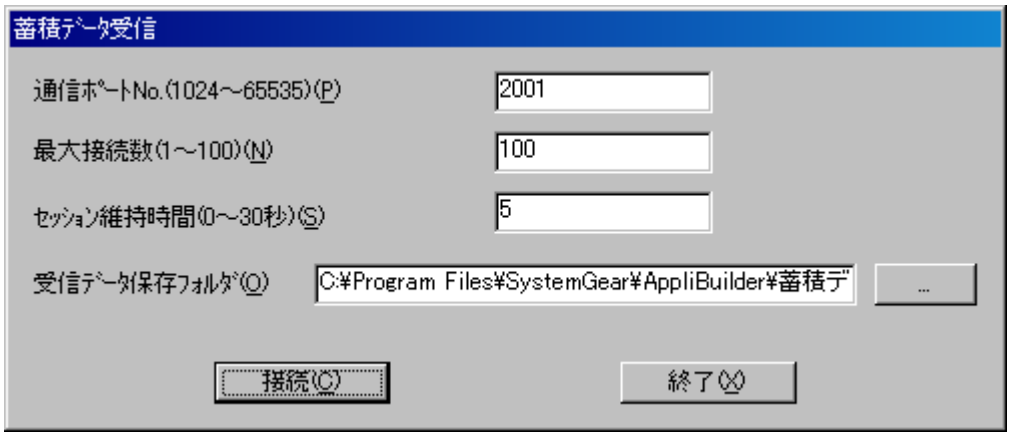
以下のような蓄積データ受信画面が表示されますので、転送設定を行い「OK」ボタンをクリックしてください。



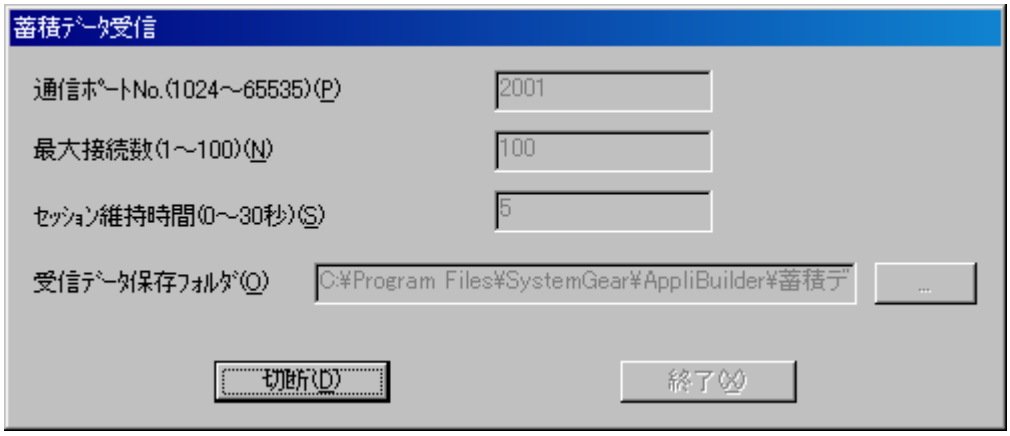
「OK」ボタンクリック後、転送処理が開始されます。

16.1.2 LAN による転送

アプリケーション画面で転送方式を「LAN」に設定している場合、以下のような蓄積データ受信画面が表示されますので、転送設定を行い「接続」ボタンをクリックしてください。



「接続」ボタンが「切断」ボタンに変わり、ターミナルからの通信接続待ち状態となります。
ターミナルからの要求により、ファイルの転送を行います。
この状態の時には、「終了」ボタンは無効状態となり、画面を終了することはできません。

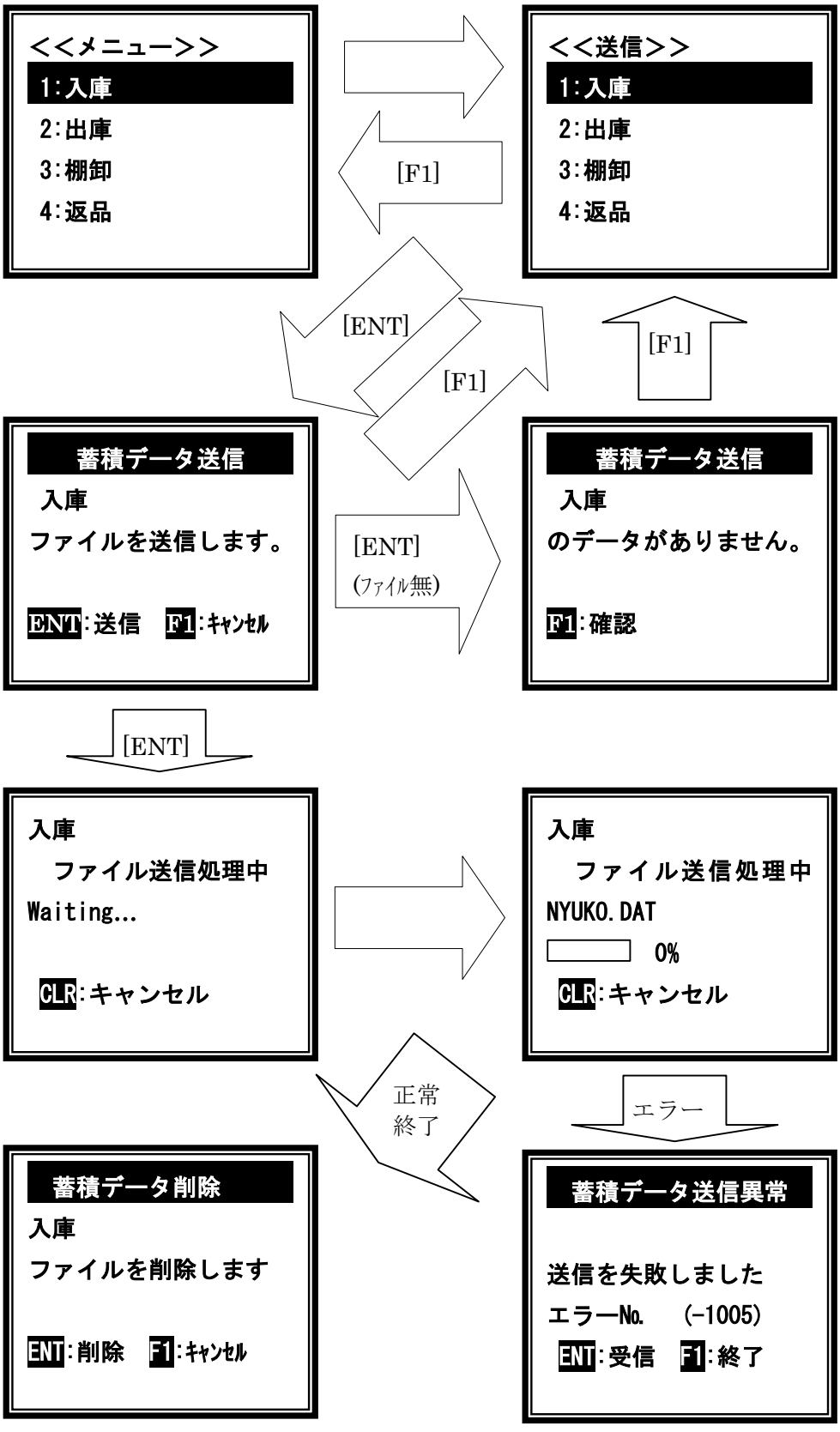


「切断」ボタンをクリックすると、ターミナルからの通信接続待ち状態をクローズし、画面を終了できるようにします。

※　MCD-1000L に付属している MCD-1000L 設定ツールにより、接続先 IP／接続先通信ポートを設定する必要があります。
（「MCD-1000L 設定ツール取扱説明書」・「MCD-1000L 取扱説明書」を参照してください）

16.2 ターミナルから蓄積データを送信する

メニュー画面で送信(キーは業務数により異なります)より、送信メニュー画面へ移行します。



※　蓄積データ送信の通信速度は、ターミナルで設定されている通信速度となります。

※　LANを使用する場合はパソコン側を先に接続状態にしてください。

※　蓄積データ送信が正常終了した場合、送信済みデータの削除確認画面が表示されます。

- ■　受信（[ENT]押下）　⇒削除します。
- ■　ｷｬﾝｾﾙ（[F1]押下）　⇒送信メニューへ移行します。

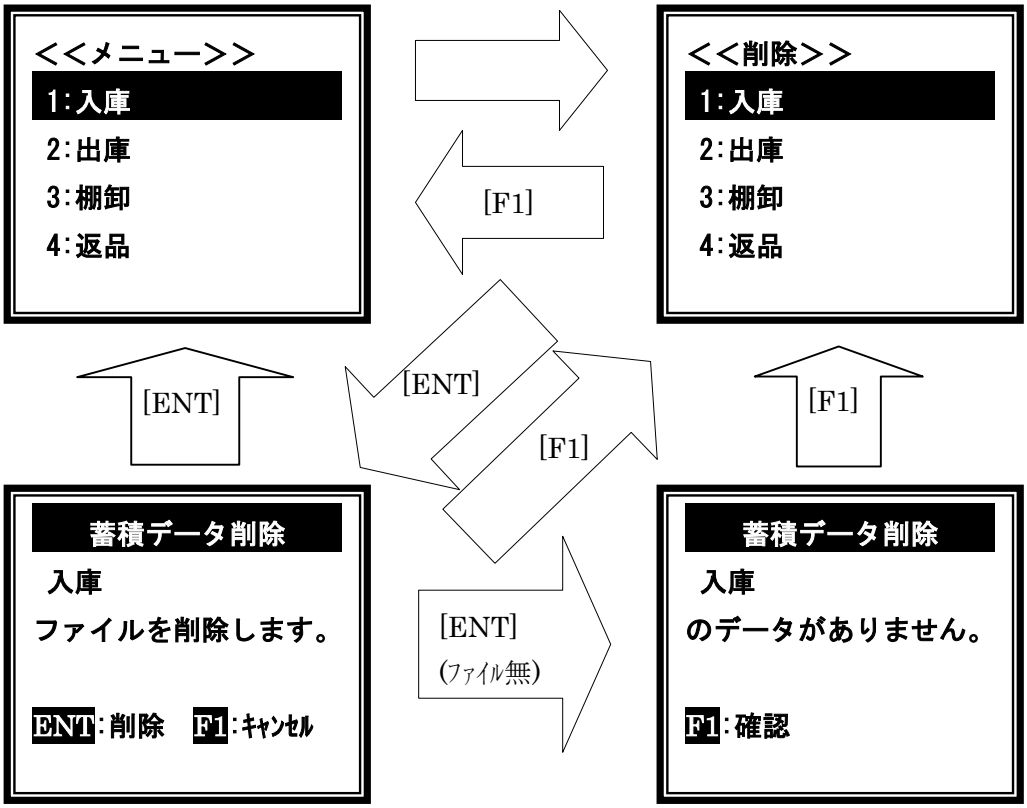
※　蓄積データ送信が異常終了又は、[CLR]キー押下により強制終した場合、蓄積データ送信異常画面へ移行します。

※　エラーNo.は異常の原因によって変化します。
（エラーNo.は、「19.2 エラー詳細」を参照してください。）

- ■　受信（[ENT]押下）　⇒再送します。
- ■　終了（[F1]押下）　⇒送信メニューへ移行します。

17 蓄積データを削除する

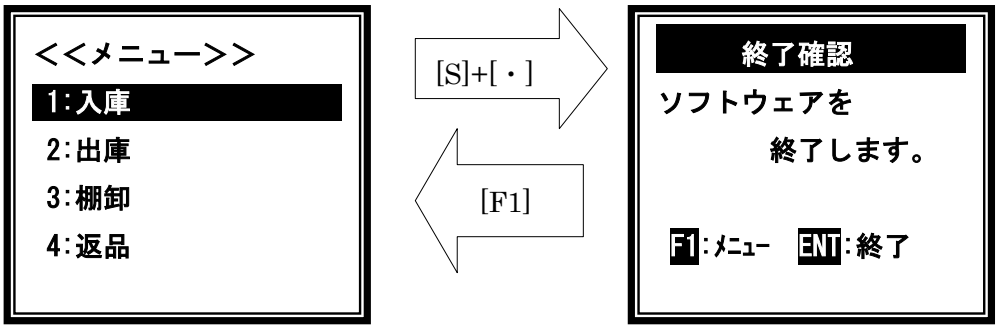
メニュー画面で削除（キーは業務数により異なります）より、削除メニュー画面へ移行します。



※　蓄積データ削除が終了した場合、削除メニュー画面へ移行します。

18 ターミナルの電源を落とす

メニュー画面で[S]+[･]を押下することにより、終了確認画面へ移行します。



※　[ENT]を選択した場合、ターミナルの電源が切断されます。

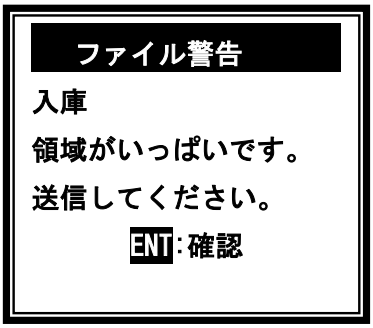
※　[F1]を選択した場合には、メニュー画面に移行します。

19 注意事項

19.1 注意事項

注意事項について説明します。

(1) 設定パラメータファイルを受信した場合、既に入力されたデータは削除されます。
(2) ターミナルを起動した場合、本システムと関係無いファイルは削除されます。
(3) マスターファイル・設定パラメータファイルのダウンロード中にキャンセルした場合、ファイルが削除される場合があります。
(4) ターミナルソフトウェアと、PC で作成した設定パラメータファイルのバージョンが異なる場合は動作しません。
(5) ターミナルの電源を切断した場合、次回起動時にどこから起動されるかは設定パラメータファイルのレジューム設定に従います。
(6) マスターファイルは設定している全ファイル合わせて１２、０００件以内で作成してください。
(7) マスタファイルの設定／変更を行った場合、既に入力したマスタデータは削除されます。
(8) 入力可能容量は、１業務７０００件以内及び全業務で約８５０Ｋバイトまでとなります。（削除したデータもファイル容量として計算されます）



※ 業務が入庫の場合の例となります。

(9) チェック付き入力で範囲外エラーとなった場合、エラーメッセージを表示します。

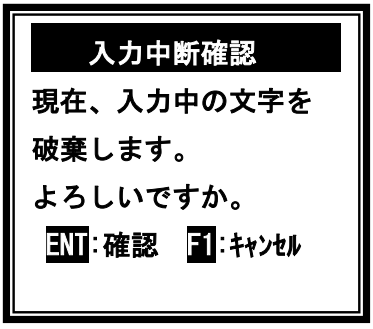
※ 入力が１～200以外を入力された場合の例となります。
※ CLR を押下することにより再入力となります。

(10) マスタ照合でエラーとなった場合には、設定パラメータファイルで指定したメッセージを表示します。
(11) 入力可能容量を超えた場合、(7)のメッセージが表示され入力ができなくなります。
(12) ファイルへの書込みは、全ての項目が終了した時点で自動的に書込みます。
(13) 設定パラメータファイルのフォント指定により、表示可能文字数等が変化します。

(14) メニュー画面も、設定パラメータファイルのメニュー表示設定の内容で変化します。

(15) １文字以上キー入力をしている場合、ファンクションキーは無効となります。

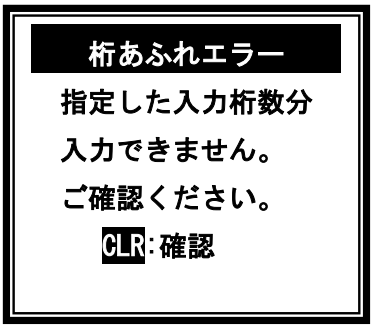
(16) １項目以上入力している場合に、有効なファンクションキーを押下した場合、以下の入力中断確認画面を表示し,入力済みのデータを破棄するかどうかの判断を行います。



※ ENT を選択した場合、入力済みデータを破棄し、ファンクションを有効にします。

※ F1 を選択した場合、入力へ戻ります。

(17) 単純入力・チェック付入力において、入力位置（X 軸）＋入力桁数が 1 行の最大桁を越えた場合、以下の画面を表示します。



※ ENT を選択することにより、入力を中断しメニュー画面へ移行します。

(18) 画面更新等の表示において、入力位置（X 軸）＋入力桁数が 1 行の最大桁を越えた場合、超えた分は破棄されます。

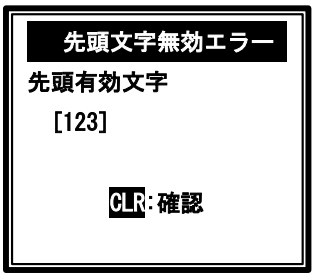
(19) 蓄積データアップロード及び、マスタファイルダウンロードは、MET コミュニケータ（別売）のイージーモード／リモートモードにて操作可能です。

(20) MET コミュニケータ（別売）でマスタファイルのダウンロードをする場合、マスタファイルの情報が指定キーにより昇順にソートされている必要があります。
（指定キーは、PC 側の設定内容に従います）

(21) ＰＣで設定されたパラメータは、必ずターミナルで動作確認後ご使用ください。
（ＰＣ上での設定は動作保証までするものではありません。）

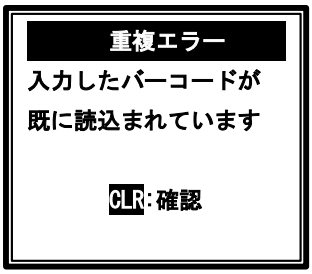
(22) 単純入力において、入力されたデータが最大入力桁数～最小入力桁数の範囲外の場合、以下の画面を表示します。

(23) 単純入力において、入力した情報を先頭有効文字で指定された先頭文字と比較し、一致しない場合には以下の画面を表示します。

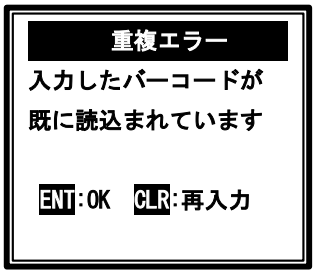


(24) 単純入力において、重複判定を有効にしている場合、既に入力されている蓄積データファイル内の項目と比較し、同一データが存在した場合には以下の画面を表示します。

（警告無効）



（警告有効）



(25) 数字入力で「－」キーは「・」を押下することにより入力できます。

19.2 エラー詳細

(1)　通信関係

種別	番号	名称	内容
通信	-1001	未対応コマンド受信	ターミナルが対応していないコマンドを受信
	-1002	CRC エラー	受信パケットの CRC 値が計算値と異なる
	-1003	コマンドエラー	ターミナルのモードと対応していないコマンドを受信
	-1004	オプションエラー	コマンドのオプションに無効な値が入力されている
	-1005	処理中断エラー(ターミナル側)	ターミナルからの中断キー押下による処理終了
	-1006	処理中断エラー(PC 側)	PC からの通信キャンセルの受信による処理終了、または、PC 側のファイル書込エラー（書込禁止）が発生
	-1007	通信エラー	ファイル転送中にエラーが発生,または通信プロトコル上でのエラーが発生（YMODEM）
	-1008	シーケンスエラー	受信パケットのシーケンスが一致しない（イージーモードのみ使用）
	-1501	ポーリングタイムアウト	ポーリングコマンドを送信したが対象のターミナルからは指定時間内に応答がなくタイムアウトが発生
	-1502	受信エラー（CRC エラー）	受信パケットの CRC 値が計算値と異なる
	-1503	ＮＡＫ再送エラー	エラーが発生して再送要求をリトライ回数分行ったが正しいデータが受け取れなかった
	-1505	タイムアウトエラー	PC で指定時間(通信のタイムアウトをリトライ回数分試行して)を越えて応答がなかった
	-1506	シリアルポート使用中エラー	通信中にコマンド送信関数を実行した 後から実行した関数がエラーで終了する
	-1507	シリアルポートオープンエラー	オープン済みのシリアルポートを再度オープンしようとした
	-1508	転送処理中でない	ファイルアップロード／ファイルダウンロード／アプリケーションインストール関数実行中以外に転送キャンセル関数を実行した
	-1509	ハンドルエラー	オープンで取得したハンドルを使用していない
	-1510	シリアルポート未オープンエラー	ポート未オープン時に通信を行おうとした
	-1511	ブロック番号反転値エラー	アップロードでブロック番号反転値が一致しない
	-1512	ブロック番号エラー	アップロードでブロック番号が一致しない
	-1513	応答データエラー	ターミナルから受信した応答データが不正
	-1514	ファイル属性取得エラー	アップロードでファイル属性情報受信に失敗

(2)　ファイル関係

種別	番号	名称	内容
ファイル	-2001	ファイル書込みエラー	ファイルの書込みに失敗
	-2002	ファイルシステム空きサイズエラー	ファイル作成のための空きサイズがターミナルに足りない
	-2003	ファイルシステム未フォーマットエラー	指定したファイルシステムが未フォーマットである
	-2004	ファイル未検出エラー	指定したファイルがターミナルに存在しない、または扱えないファイル名を指定した
	-2005	ファイルオープン中エラー	指定したファイルがオープン中である
	-2006	ファイル作成数オーバーエラー	ファイルシステムが作成できるファイルの最大数をオーバーしている
	-2007	ファイルリネームエラー	ファイル名変更において、新ファイル名が指定したファイルシステム内に既に存在する、または扱えないファイル名を指定した
	-2008	ファイルリネーム失敗	FROM ファイルシステムに対してファイル名変更を行った
	-2501	ファイルサイズエラー	ファイルアップロードで､ファイル属性情報のファイルサイズのフォーマットが正しくない、または取得したファイルサイズと実際にアップロードされたファイルのサイズが一致しない
	-2502	ＰＣ空き容量不足エラー	アップロードしようとしているファイルのサイズ分を格納するだけの空き容量がＰＣにない
	-2503	ＰＣファイル無しエラー	ＰＣに指定したファイルが存在しない
	-2504	ＰＣフォルダ無しエラー	ＰＣに指定したフォルダが存在しない
	-2509	同名ファイル有りエラー	同名ファイルが既に存在するときの操作が「アップロードなし」指定になっているときに同名ファイルが存在した
	-2511	ファイル未ロード	そのファイルのアップロード／ダウンロード処理を行う前に通信処理が異常終了した
	-2512	ファイル名長エラー	指定されたファイル名やアップロード時のファイル属性情報のファイル名が扱える長さより長いもしくは短い

(3)　ソフトウェア関係

種別	番号	名称	内容
ソフト	-7000	パラメータファイルサイズエラー	設定パラメータファイルのサイズが間違っている
	-80XX	マスタファイル名エラー	マスタファイル名が間違っている
	-90XX	マスタファイルサイズエラーその１	マスタファイルサイズオーバー(128ﾊﾞｲﾄ×12000 件以上)
	-91XX	マスタファイルサイズエラーその２	マスタファイルサイズが１レコードの倍数以外 (１レコード 128ﾊﾞｲﾄ)
	-7001	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（キーバックライト）
	-7002	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（バックライト時間）
	-7003	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（自動電源 OFF 時間）
	-7004	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（ブザー鳴動設定）
	-7005	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（レジューム）
	-7006	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（キークリック）
	-7007	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常 （バーコード正常読取ブザー鳴動）
	-7008	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（キークリック時の LED 点灯）
	-7009	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（バイブレータ）
	-7010	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（ブザー音域）
	-7011	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（ファイル転送モード）
	-7012	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（起動画面表示）
	-7013	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（フォント設定）
	-7014	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（業務数）
	-7015	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（メニュー画面表示モード設定）
	-7016	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（システム表示領域使用）
	-7017	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（カーソル形状）
	-71XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（メニュー構成）
	-72XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（業務名）
	-73XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（タイムスタンプ設定）
	-74XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（ターミナル ID 設定）
	-75XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（データ書込みタイプ設定）
	-76XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（字詰め設定）

種別	番号	名称	内容
	-77XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（項目数）
	-78XX	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（データファイル名）
	-7900	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（マスタファイル転送モード）
	-7901	パラメータファイル異常	パラメータファイル初期チェック異常（マスタファイル数）

※ XX は複数のエラーを明確にする目的です。
　パラメータファイルの場合 ⇒ 業務№.（1～10）
　マスタファイル ⇒ マスタファイル№.（1～5）

※ -78XX 、-80XX の判定としては、ターミナルで作成できるファイル名であるかの判断を行うものです。
　（ファイルオープンエラーの判断を行う）

20 困ったときは

本アプリケーションが動作しないときの対処の仕方を説明します。

No.	項 目	対 応
1	ターミナルとの通信ができない。	①PC設定の COM ポートは正しいですか。 ②PC 設定の通信速度はターミナルと一致していますか。 ③光通信ユニットのディップスイッチは正しく設定されていますか。 ④ケーブルは抜けていませんか。 ⑤光通信ユニットの AC アダプタは接続されていますか。 ⑥ターミナルの電源が切れていませんか。 ⑦ターミナルの ID 設定は正しいですか。 ⑧同一のターミナル ID を持つ複数のターミナルを光通信ユニットに置いていませんか。 ⑨USB のドライバーはインストールされましたか。 ⑩タイムアウトが発生している可能がありますので、ポーリングタイムアウト値を長くしてください。 ⑪通信設定／転送モードは正しいですか
2	英語版 WINDOWS において使用可能でしょうか？	使用できません。
3	起動後、すぐに終了してしまいます。	既に立ちあがっていませんか。
4	通信時間が異常に長い	データをとりこぼし、何回もリトライをしている可能性があります。 ①通信速度を遅くしてください。 ②負荷がかかるプロセスを終了させてください。
5	ターミナル1台では通信できるが、同時に2台接続した場合に通信できない。	①ターミナルが同一 ID になっていませんか。 ②光通信ユニットのディップスイッチは正しいですか。
6	PC アプリケーションの項目設定画面の画面イメージが文字化けします。	表示位置や入力位置が他の項目と重なっている場合、文字化けしたような表示になります。重ならないように設定してください。
7	ターミナル画面に■が表示される。	第三水準文字コードを指定していませんか。 ターミナルに表示できない文字を指定されている可能性があります。 ①ANK 文字コードとして 0x20～0x7E,0xA1～0xDF が可能です。 ②全角文字コードとして第一水準と第二水準が可能です。
8	マスタファイルの内容を変更したが、ターミナルへ反映させるには？	マスタファイルをターミナルへダウンロードしてください。
9	アクション設定が動作しない	①業務メニューと、アクション設定が間違っていませんか。 ②アクション設定に設定された実行ファイルが間違っていませんか。 ③アクション設定に設定された実行ファイルのパス名は間違っていませんか。 ④業務メニューのファイル名が間違っていませんか。
10	マスタ照合結果の表示設定を行っているが、次の画面が表示される。	項目設定で、マスタ照合の次に画面更新を設定していませんか。 マスタ照合結果表示後、すぐに次の画面更新を表示しますので、表示されていないように見える可能性があります。
11	パラメータ設定はあっているが、桁あふれエラーが発生する。	12 ドットで作成したパラメータ設定を、16ドットに設定していませんか。
12	設定パラメータ送信において PC 側は正常に終了するがハンディ側で異常終了する。	PC のバージョンとターミナルのパラメータ解析ソフトウェアのバージョンが異なっている可能性がありますので、パラメータ解析ソフトウェア送信後設定パラメータ送信を行ってください。

No.	項 目	対 応
13	英字入力時に、画面表示された文字が消える。	システム表示領域を非表示にして英字入力を行った場合、英字入力記号([S])が画面最下段の左に固定表示されますので、画面表示に重なる場合があります。システム領域を非表示にして英字入力する場合の画面の設計時に画面最下段の左を使用しないようにしてください。
14	パラメータファイルをダウンロードしたが、設定が変わらない。	PC とターミナルの転送指定設定が一致しているか確認してください。 例)PC がマスタファイル送信、ターミナルが設定パラメータ受信の場合
15	マスタ検索で、マスタファイルに一致するキーデータが存在するが、検索エラーとなる。	単純入力で「有効位置」を設定していませんか。 「有効位置」で設定した範囲のデータで検索します。
16	単純入力で入力したデータの一部しか蓄積データに書込まれていない。	単純入力で「有効位置」を設定していませんか。 「有効位置」で設定した範囲のデータを書込みます。
17	LAN方式での通信でファイルの転送が終了しない。	ターミナルとPCのタイミングがずれている可能性があります。 PC側のセッション維持時間を調整してください。
18	チェックデジットをキー入力するに設定した場合、チェックデジットが入力できない。	入力形式の型を「数値」にしていませんか。「文字」にしてください。 チェックデジットが英字の場合、「数字」では入力できません。
19	AppliBuilderの通信ログの保存期間を変更したい。	トラブル時の対応として、インストールフォルダ内に作成されます。 (デフォルトで3日分保存します。) 変更したい場合は、インストールしたフォルダ内の「AppliBuilder.ini」ファイルを変更してください。(メモ帳等) (デフォルト) [METCOMMDLL] DLLRANGE=3 DLLMODE=ADD DLLRANGE=3 の数字のみ変更してください。 他を変更した場合、正常に動作しないことがあります。 変更例) [METCOMMDLL] DLLRANGE=1 DLLMODE=ADD 通信保存期間を1日に変更します。 尚、0を設定した場合通信ログは削除しません。
20	METコミュニケータ(別売)にて転送しますが、RAM/FROMのどちらにダウンロード及びアップロードする必要がありますか。	蓄積データファイル　⇒ RAM マスタファイル　⇒ FROM

お問い合わせ

日本システム開発株式会社

本社

〒５５０－００１３　大阪市西区新町１丁目７番２０号 システムギア大阪ビル

TEL　06-4391-9880　　FAX　06-4391-9878

営業拠点

東京

〒１０５－００１４　東京都港区芝１丁目１０番１１号 コスモ金杉橋２Ｆ

TEL　03-5730-1200　　FAX　03-5730-1201

名古屋

〒４６０－０００２　名古屋市中区丸の内２丁目１０番１９号 市川ビル４Ｆ

TEL　052-221-9388　　FAX　052-212-4403

大阪

〒５５０－００１３　大阪市西区新町１丁目７番２０号 システムギア大阪ビル

TEL　06-4391-9881　　FAX　06-4391-9879

宝塚

〒６６５－００４５　宝塚市光明町３０番１２号

TEL　0797-74-2201　　FAX　0797-74-2211

福岡

〒８１２－００１４　福岡市博多区比恵町３番１７号 フェイズイン博多ビル２Ｆ

TEL　092-432-2130　　FAX　092-432-2136

技術的なお問い合わせは

サポートデスク　Ｅ－ＭＡＩＬ：　support@nsd-inc.co.jp

最新情報はインターネットをご覧ください。　http://www.systemgear.com

おことわり
(1) 本書の一部あるいは全部を無断で転載することは固くお断りします。
(2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。
(4) 本書を使用した結果の影響については(3)項にかかわらず責任は負いかねますのであらかじめご了承ください。

AppliBuilder 取扱説明書

２００４年 １０月 １４日 第3版発行

発行 日本システム開発株式会社

宝塚テクニカルセンター
〒665-0045 兵庫県宝塚市光明町３０番１２号

(BK0047A02-3)

SystemGear

All Products For Build Up System